

家下遺跡・中小路遺跡

—経営体育成基盤整備事業(横田・安富地区)に伴う発掘調査報告書—

2008年3月

益田市教育委員会

序 文

益田市では、豊かな地域社会をつくるため、それぞれの地域にあった経済活性化の基盤づくりを進めています。その施策の一つである農業基盤整備事業も近年各地で進められています。

益田市教育委員会では、これら開発工事から埋蔵文化財を保護し調和のとれたまちづくりを進めるため、関係機関と協議を行い、遺跡の保護やその発掘調査を実施しています。

平成15年度から平成17年度にかけては益田市横田町・安富町にある家下遺跡・中小路遺跡の発掘調査を実施しました。この調査では、弥生時代の大規模な集落遺跡を発見することができ、奈良時代においては官衙と想定される建物跡が発見されるなど、当時の人々の暮らしやこの地域での文化の過程を知る上で貴重な資料を得ることができました。

調査にあたり御協力をいただいた関係機関ならびに関係者の各位に対し厚く御礼申し上げるとともに、本書が文化財に対する認識や理解のため、また、研究の資料として活用されることを願うものです。

2008(平成20)年3月

益田市教育委員会

教育長 陶山勝

例　　言

1. 本書は、島根県益田県土整備事務所(当時は、島根県益田農林振興センター)の委託を受けて、益田市教育委員会が平成15~17年度に実施した経営体育成基盤整備事業 横田・安富地区に伴う埋蔵文化財発掘調査(家下遺跡・中小路遺跡)の報告書である。

2. 調査は、島根県教育委員会文化財課の指導を得て、次のような体制で実施した。

　調査主体　　益田市教育委員会(教育長　陶山　勝)

○平成15年度　現地調査

　〔事　務　局〕　益田市教育委員会文化振興課

　　安達正美(課長)、斎藤史和(課長補佐)、木原光(文化財係長)

　〔調　査　員〕　長澤和幸(主任主事)

○平成16年度　現地調査

　〔事　務　局〕　益田市教育委員会文化振興課

　　安達正美(課長)、斎藤史和(課長補佐)、木原光(文化財係長)

　〔調　査　員〕　長澤和幸(主任主事)

　〔調査補助員〕　中村　智(臨時職員)

○平成17年度　現地調査

　〔事　務　局〕　益田市教育委員会文化振興課

　　安達正美(課長)、橋本浩一(課長補佐)、木原光(課長補佐兼文化財係長)

　〔調　査　員〕　長澤和幸(主任主事)、宇津栄一(副主任主事)、松本美樹(副主任主事)

　〔調査補助員〕　寺戸淳二(臨時職員)、樋口英行(臨時職員)

○平成18年度　報告書作成

　〔事　務　局〕　益田市教育委員会文化振興課

　　安達正美(課長)、橋本浩一(課長補佐)、河野敏弘(課長補佐)、

　　木原光(課長補佐兼文化財係長)

　〔調　査　員〕　長澤和幸(主任主事)

　〔調査補助員〕　寺戸淳二(嘱託職員)

○平成19年度　報告書作成

　〔事　務　局〕　益田市教育委員会文化振興課

　　安達正美(課長)、野村正樹(課長補佐)、河野敏弘(課長補佐)、

　　木原光(課長補佐兼文化財係長)

　〔調　査　員〕　長澤和幸(主任)

3. 発掘調査・報告書作成に際しては、下記の方々から有益な御指導・助言をいただいた。記して謝意を表する(所属は当時)。

　会下和宏(島根大学埋蔵文化財調査研究センター助手)、田中義昭(島根県文化財保護審議会委員)、中村唯史(島根県立三瓶自然館学芸員)、西尾克己(島根県教育庁埋蔵文化財調査センター企画幹)、丹羽野　裕(島根県教育庁埋蔵文化財調査センターグループ課長)、村上　勇(広島県立美術館次長)、柳浦俊一(島根県教育庁埋蔵文化財調査センター主幹)、山本一朗、渡邊友千代(匹見町教育委員会)

4. 発掘調査作業及び整理作業には、平成15～19年度の間、以下の方々に参加していただいた。
- [発掘作業員] 石川信義 岩本 知 大賀賢市 大賀信夫 大畑元義 大畑和子
岡崎陽子 岡本敬子 角田 進 梶田伸伍 金井邦博 河井悦子
川橋武芳 桐山省三 桐山博光 桐山良子 齋田美穂 栗山晴光
品川 茂 品川治郎 篠原典子 水津信孝 武田爲久 田中千代子
田中 登 長島幸恵 中島幸人 中村 了 西坂哲郎 西坂松子
西島健太郎 深井一雄 藤井俊勝 堀田美穂 牧原正明 三浦健太郎
三浦利雄 三浦フサ子 三浦庸美 三分一晃良 宮野信和 棚 教正
椋 倭 棚 庄藏 棚 務 棚 麗子 棚木秀奈代 村上 裕
村上嘉信 山根定雄 吉山恭子 和崎一夫
[整理作業員] 大久保眞紀 大谷浪江 岡崎敦子 中村康恵 横山秀美
5. 発掘調査では、以下の方々からご協力をいただいた。
- 島根県益田農林振興センター、横田安富地区農業基盤整備事業安富工区委員会
山陰ブルドーザー工事㈱、桐田組㈱、ナカシマ㈱
6. 土壌内花粉分析は文化財調査コンサルタント㈱に、土器棺墓壙の剥ぎ取り等保存処理について
は千晃株式会社にそれぞれ委託した(平成16年度)。また、遺物の実測の一部をいなか舎(代表
田中義昭)に委託した(平成19年度)。
7. 本書で使用した遺構の略号は次のとおりである。
SI—堅穴住居、SD—溝、SK—土坑、P—ピット、SX—その他遺構
なお、本書で扱う遺構名及び番号は、遺構検出時に付したものそのまま使用したため、欠番
が生じている。また、調査区間での遺構番号の重複を避けるため、遺構検出時に付した番号の
最後に調査区名を付して表記している。
8. 掘図方位は測量法の第III座標系の軸方向を示すが、部分的に磁北を用いた。
9. 文化振興課一同の協力を得て、本書の編集および執筆、また掲載した遺物の写真撮影は長澤が
行った。
10. 本書掲載の遺跡出土資料及び実測図、写真などの資料は益田市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第3章 家下遺跡の調査結果	3
第1節 調査の概要	3
第2節 A区	4
第3節 B区	4
第4節 C区	4
第5節 D区	5
第6節 まとめ	6
第4章 中小路遺跡の調査結果	6
第1節 調査の概要	6
第2節 A区	7
第3節 B区	9
第4節 C区	12
第5節 D区	12
第6節 E区	12
第7節 F区	15
第8節 G区	21
第9節 H区	21
第10節 I区	22
第11節 まとめ	22
第5章 総括	23

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡分布図	25~26
第2図	平野内における遺跡の位置と周辺の遺跡	27~28
第3図	家下遺跡調査区配置図	29
第4図	A区遺構配置図	30
第5図	A区土層断面図	31~32
第6図	B区遺構配置図	33
第7図	土坑平面図及び断面図	33
第8図	B 1 区土層断面図	34
第9図	B 2 区土層断面図	35
第10図	C区調査区配置図	36
第11図	C 3 区護岸遺構平面図	36
第12図	C 1 区土層断面図	37
第13図	C 2 区土層断面図	37
第14図	C 3 区土層断面図	38
第15図	D区遺構配置図	39
第16図	D区土層断面図	40
第17図	土器棺墓平面図及び断面図	41
第18図	中小路遺跡調査区配置図	42
第19図	A区遺構配置図及び土層断面図	43~44
第20図	A区土器棺墓平面図及び側面図① (1~5号墓)	45
第21図	A区土器棺墓平面図及び側面図② (6~8号墓)	46
第22図	B区遺構配置図及び土層断面図	47~48
第23図	1号住居平面図及び断面図	49
第24図	2号住居平面図及び断面図	49
第25図	3号住居及び8号住居平面図 及び断面図	50
第26図	4号住居平面図及び断面図	50
第27図	5号住居平面図及び断面図	51
第28図	6号住居平面図及び断面図	51
第29図	C区遺構配置図	52
第30図	C区土層断面図	53~54
第31図	E区遺構配置図	55
第32図	SDE 1 平面図及び土層断面図	56
第33図	SDE 2 平面図及び土層断面図	56
第34図	SDE 3 平面図及び土層断面図	56
第35図	SDE 4 平面図及び土層断面図	57
第36図	SDE 5 平面図及び土層断面図	57
第37図	SDE 6 平面図及び土層断面図	57
第38図	SDE 7 平面図及び土層断面図	58
第39図	SDE 8 平面図及び土層断面図	58
第40図	SKE平面図及び上層断面図① (SKE 1 ~ SKE 8)	59
第41図	SKE平面図及び土層断面図② (SKE 9 ~ SKE 15)	60
第42図	SKE平面図及び土層断面図③ (SKE 16 ~ SKE 23)	61
第43図	F区遺構配置図	62
第44図	F区土層断面図	63~64
第45図	SDF平面図及び土層断面図 (SDF 1 ~ SDF 3)	65
第46図	SKF平面図及び土層断面図① (SKF 1 ~ SKF 6)	66
第47図	SKF平面図及び土層断面図② (SKF 7 ~ SKF 22)	67
第48図	SKF平面図及び土層断面図③ (SKF 23 ~ SKF 37)	68
第49図	SKF平面図及び土層断面図④ (SKF 39 ~ SKF 52)	69
第50図	SKF平面図及び土層断面図⑤ (SKF 65 ~ SKF 89)	70
第51図	SKF平面図及び土層断面図⑥ (SKF 90 ~ SKF 95)	71
第52図	G区遺構配置図	72
第53図	I区遺構配置図	72
第54図	H区遺構配置図	73
第55図	家下遺跡 A 区出土遺物実測図①	74
第56図	家下遺跡 A 区出土遺物実測図②	75
第57図	家下遺跡 A 区出土遺物実測図③	76
第58図	家下遺跡 B 区出土遺物実測図①	77
第59図	家下遺跡 B 区出土遺物実測図②	78
第60図	家下遺跡 C 区出土遺物実測図①	79
第61図	家下遺跡 C 区出土遺物実測図②	80
第62図	家下遺跡 D 区遺構出土遺物実測図 —土器棺 1, 2 —	81
第63図	家下遺跡 D 区遺構出土遺物実測図	82
第64図	中小路遺跡 A 区遺構出土遺物実測図① —溝状構造、SX02 —	83
第65図	中小路遺跡 A 区遺構出土遺物実測図② —SX04、土器溜り —	84
第66図	中小路遺跡 A 区遺構出土遺物実測図③ —土器溜り —	85
第67図	中小路遺跡 A 区遺構出土遺物実測図④ —土器溜り —	86
第68図	中小路遺跡 A 区遺構出土遺物実測図⑤ —土器溜り —	87
第69図	中小路遺跡 A 区遺構出土遺物実測図⑥ —土器溜り —	88

第70図	中小路遺跡A区遺構出土上遺物実測図⑦ -土器灌り-----	89
第71図	中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図①-----	90
第72図	中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図②-----	91
第73図	中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図③-----	92
第74図	中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図④-----	93
第75図	中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図⑤-----	94
第76図	中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図① -SI01-----	95
第77図	中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図② -SI02①-----	96
第78図	中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図③ -SI02②-----	97
第79図	中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図④ -SI02③, SI03-----	98
第80図	中小路遺跡B区遺構出土上遺物実測図⑤ -SI04①-----	99
第81図	中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図⑥ -SI04②-----	100
第82図	中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図⑦ -SI04③, SI06, SI07-----	101
第83図	中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図①-----	101
第84図	中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図②-----	102
第85図	中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図③-----	103
第86図	中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図④-----	104
第87図	中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図⑤-----	105
第88図	中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図⑥-----	106
第89図	中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図① -溝状遺構-----	106
第90図	中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図② -溝状遺構-----	107
第91図	中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図③ -溝状遺構-----	108
第92図	中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図④ -溝状遺構-----	109
第93図	中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図⑤ -溝状遺構-----	110
第94図	中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図⑥ -溝状遺構-----	111
第95図	中小路遺跡C区遺構外出土遺物実測図①-----	111
第96図	中小路遺跡C区遺構外出土遺物実測図②-----	112
第97図	中小路遺跡D区遺構外出土遺物実測図-----	112
第98図	中小路遺跡E区遺構出土遺物実測図-----	
	-SKE 2, SKE 6-----	113
第99図	中小路遺跡E区遺構外出土遺物実測図-----	114
第100図	中小路遺跡F区遺構出土遺物実測図① -SKF 3 -----	114
第101図	中小路遺跡F区遺構出土遺物実測図② -SKF 3, SKF39-----	115
第102図	中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図①-----	116
第103図	中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図②-----	117
第104図	中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図③-----	118
第105図	中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図④-----	119
第106図	中小路遺跡G、H、I区遺構外出土遺物実測図-----	119

挿 表

目 次

第1表	家下遺跡A区出土遺物観察表-----	120~121
第2表	家下遺跡B区出土遺物観察表-----	121
第3表	家下遺跡C区出土遺物観察表-----	121~122
第4表	家下遺跡D区出土遺物観察表-----	122
第5表	中小路遺跡A区遺構出土遺物観察表-----	122~124
第6表	中小路遺跡A区遺構外出土遺物観察表-----	124~126
第7表	中小路遺跡B区遺構出土遺物観察表-----	126~128
第8表	中小路遺跡B区遺構外出土遺物観察表-----	128~130
第9表	中小路遺跡C区遺構出土遺物観察表-----	130~131

第10表	中小路遺跡C区遺構外出土遺物観察表-----	131
第11表	中小路遺跡D区遺構外出土遺物観察表-----	132
第12表	中小路遺跡E区遺構出土遺物観察表-----	132
第13表	中小路遺跡E区遺構外出土遺物観察表-----	132
第14表	中小路遺跡F区遺構出土遺物観察表-----	132~133
第15表	中小路遺跡F区遺構外出土遺物観察表-----	133~135
第16表	中小路遺跡G区遺構外出土遺物観察表-----	135
第17表	中小路遺跡H区遺構外出土遺物観察表-----	135
第18表	中小路遺跡I区遺構外出土遺物観察表-----	135

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

益田市安富町及び横田町において計画された経営体育成基盤整備事業（横田・安富工区）について、益田農林振興センター（当時、現益田県土整備事務所、以下事業者。）から益田市教育委員会に協議があったのは平成8年12月のことである。計画地内には周知遺跡である「安富王子台遺跡（2所のうちの1所、繩文晩期の遺跡として知られる安富王子台遺跡とは場所が異なる）」が存在していることからその取り扱いについて協議がなされたものであったが、この他にも遺跡が存在している可能性があることから、事前に埋蔵文化財の有無について確認する必要がある旨回答した。

これをうけ平成8年12月19日付で事業者から当該区域内の埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会を受けた。これに対し、予定地内全域を対象として踏査を実施した結果、横田町地内において「家下遺跡」の存在が確認され、安富町地内においては周知の「安富王子台遺跡」を含めた広範囲に遺跡が広がっている可能性が確認されたことから一帯の地名をとつて「中小路遺跡（なかじょうじいいせき）」と命名した。

平成9年5月15日付で事業者に対して、2遺跡の存在が確認されたものの、なお遺跡の範囲が未確定であることから、事前に遺跡の範囲を確定させる必要がある旨回答し、文化庁の国庫補助事業をうけて、平成10・12・13・15年度の4カ年にわたり、遺跡分布調査と試掘調査を実施した。

平成13年度までは基盤整備事業内で先行する横田工区において、平成15年度は安富工区においてそれぞれ試掘調査を実施した。その結果、遺跡の範囲がほぼ確定するとともに、基盤整備事業において掘削が行われる箇所及び道・水路が設置される箇所については事前に全面発掘調査を実施する必要があると判断された。

本調査実施に関する具体的な協議は、安富工区の試掘調査が残されてはいたものの、横田工区の試掘調査が終了した段階の平成14年5月24日に行い、調査費用負担等の基盤整備事業地内全体における埋蔵文化財の取り扱いに関して平成15年1月14日付で協定書を締結した。この協定書に基づき、家下遺跡を平成15年度事業として、中小路遺跡の北側を平成16年度事業、南側を平成17年度事業として発掘調査を実施し、平成18～19年度の2カ年度で全ての遺跡の調査報告書を刊行することで同意を得た。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

益田市の概要

益田市は石見地方と呼ばれる島根県西部地域の最西端に位置する。北は日本海に面し、残る三方は中国山地に至る。東は浜田市、南は鹿足郡津和野町・広島県に接し、西は山口県と県境を接する。市街地は、高津川と益田川の二大河川によって形成された複合三角州で石見地方最大の沖積平野上に位置する。面積は733.16km²で島根県の総面積の約1割を占める県内最大の規模を有し、人口約52,000人を擁する県西部の中核都市である。また、平成5年に開港した石見空港を中心として、市内では山陰を東西に結ぶ国道9号と山陰・山陽を結ぶ国道191号が交差し、また鉄道は山陰本線と山口線が分岐するなど交通の要衝地でもある。

気候は対馬暖流の影響を受けて山陰地方にあって積雪も少なく温暖で、日照時間も日本海側では有数の長さを誇り、メロンやブドウなどの生産が盛んで、農業関連産業が地域経済に果たす役割は大きい。

遺跡の地理的概観

家下遺跡・中小路遺跡は、高津川の下流に発達する沖積平野に立地し、平野は高津川河口から上流へ10km前後に位置する。この平野は市内で石見地方最大の益田平野に次ぐ規模を持つもので、平野の周囲は、標高100～200mのごくなだらかな丘陵地が広がっている。

高津川は、源を鹿足郡吉賀町(旧六日市町)田野原に発し、総延長81.1kmを測る河川である。途中大規模ダムが一つも無い全国唯一の一級河川として知られる清流で、急峻な西中国山地から流れ出るために勾配が大きい急流である。幾度も蛇行を繰り返しながら益田市を貫流し、日本海に注ぐ。平野の南で高津川は支流の匹見川と合流し、合流点の下流側で逆「コ」の字状に大きく曲流しているが、平野はこの曲流の内側に形成された堆積面である。

支流の匹見川は、源を益田市匹見町道川に発し、総延長52.0kmと本流に次ぐ規模を持つ河川である。本流以上に急流であり、平野の形成に匹見川による堆積作用が与えた影響は本流に劣らず大きいと思われる。

平野は上流(南)側(横田地区)では旧河道とそれに伴う微高地列が明瞭に認められるのに対し、下流(北)側(安富地区)ではそれらの微地形が不明瞭となる。その境界は比高2～3mの小崖として明瞭に認められ、地名も「大境(おおざかい)」と呼ぶ。家下遺跡は上流側南端部の微高地列の一つに立地している。また、中小路遺跡は下流側中央部に立地しており、中小路遺跡から安富王子台遺跡の一帯が周囲に比べて若干高い微高地面を形成しているが、この微高地北端部に位置している。上流側では高津川と匹見川の氾濫時に河道変遷が繰り返されたことが、地形図や空中写真から読み取れる(写真図版1)。

第2節 歴史的環境

縄文時代

縄文前期頃、現在の市街地の大半に海が湾入していたとされる。現在の高津川と益田川の河口に挟まれた中須から大塚にかけて砂州が形成されており、砂州背後の中島から吉田一帯は潟湖の状態を呈していた。この潟湖を「古益田湖」と呼び、益田川以東の遠田丘陵、益田川と高津川に挟まれた七尾丘陵、そして高津川以西の蟠竜丘陵がこれを囲む。なお、遠田丘陵は遠田川によって遠田台地と久城台地に、七尾丘陵は本俣賀川によって七尾丘陵と安富丘陵に、蟠竜丘陵は白上川によって蟠竜台地と白上台地とにそれぞれ細分される。現在のところ、益田市内においてこの時期の遺跡は確認されていない。

その後、国道9号と国道191号の線より南側が陸地化したと考えられている。しかし、古益田湖は規模が縮小したものの依然として広がっており、この時期の遺跡は市街地の周辺部に分布する。縄文時代の後期から晩期にかけての代表的な遺跡として安富王子台遺跡があり、同時期の遺物は三宅御土居跡やその北側の土井後遺跡でも出土している。

弥生時代

弥生時代では前述の安富王子台遺跡から前期の土器が出土している。この他、羽場遺跡、安福寺跡で前期の土器が発見されている。また、高津川左岸の砂丘に立地する松ヶ丘遺跡は弥生時代から古墳時代前期にかけての埋葬遺跡と考えられ、羽場遺跡からは中期の土器が多数出土した環濠跡や土坑墓が発見されている。高津川左岸の丘陵上に立地するサガリ遺跡では後期の堅穴住居跡が発見され、その立地から高地性集落の可能性が指摘されている。

古墳時代

古墳時代になると、遠田や久城地域など益田川以東の久城台地、遠田台地に有力な古墳が集中する。4世紀後半の築造と推定され、墳丘長が89mと石見地方最大で県内でも3番目の規模をもつ

前方後円墳の大元1号墳、5世紀の築造と推定されるスクモ塚古墳は全長約100mを測る大型の前方後円墳と考えられてきたが、最近では大型の造出し付き円墳と方墳が隣接してあるとの見方が強い。6世紀前半に築造された小丸山古墳は全長52mの前方後円墳で、周溝と外堤を設けている古墳としては県内唯一の例であり、山陰地方では初めての出土例となった鈴杏葉が採取されている。小丸山古墳周辺には工事中に三角縁神獸鏡が出土した四塚山古墳も存在し、三宅御土居跡東の秋葉山山頂には横穴石室を持つ秋葉山古墳がある。古墳時代後期の古墳としては、海岸部の台地上に横穴式石室をもつ小円墳を主体として築造された群集墳の鶴ノ鼻古墳群が存在し、益田平野南東部の丘陵斜面には片山、多田、南長迫、北長迫などの横穴群が築造されるようになる。また、横田町の上野横穴から出土した須恵器、刀劍類は現在、東京国立博物館に寄託されている。

この時期の生産遺跡としては須恵器窯の存在が知られており、市の北東部に芝、本片子窯跡が存在している。

古代

律令制の時代に益田市は美濃郡に属し、この頃から益田平野の開発が次第に進められたと考えられている。三宅御土居跡一帯の「三宅」の地名の由来と考えられている屯倉がこの地に推定され、戦後この一帯の区画整理が行われるまで条里制の遺構が明瞭に残されていた。また、歌聖柿本人麿の生誕及び終焉の地として戸田と高津にそれぞれ柿本人麿神社があり、『延喜式』神名帳に記載のある染羽天石勝神社や櫛代賀姫命神社など美濃郡内の式内社5社のうち全てが益田市内に現存している。

奈良・平安時代の遺跡としては、灰釉陶器が出土した根ノ木田遺跡や掘立柱建物跡に伴い製塩土器が出土した大溢遺跡などがあり、三宅御土居跡や浜寄遺跡でも同時期の須恵器や土師器が出土している。

中世

平安時代末期に益田荘、長野荘の荘園が成立し、益田氏が本拠を益田に移してから以後、益田氏が長門国須佐に転封されるまでおよそ400年間の中世には、その領域支配勢力を示すように益田氏に関連する遺跡が数多く残る。居館三宅御土居跡及び拠城七尾城跡を始めとして、益田氏家臣の居館跡と考えられる上久々茂土居跡や三宅御土居以前の益田氏の居館跡とされる大谷土居跡など、益田市内で52箇所の城館跡が確認されている。この他、中世前期の遺跡には羽場遺跡や大畠遺跡があり、羽場遺跡からは掘立柱建物跡や中国製の白磁、青磁など多数が出土した。沖手遺跡は益田川右岸の低地に立地し、中世前期以降の陶磁器類や、集落跡が確認されている。また石塔寺塚現跡から発見され、豊田神社に伝わる陶製經筒は、平安時代末から鎌倉時代初期のものと考えられている。これらの經筒は中国で製作され日本にもたらされたもので、北部九州からの発見例が多く、益田に招来された経緯など注目されている。

第3章 家下遺跡の調査結果

第1節 調査の概要

本調査は平成15年6月25日に着手し、同年12月2日に終了した。

遺跡の推定中心部には家屋があり、基盤整備事業の計画区域外となっている。調査対象地としては、その周辺部に計画される道路及び水路となる箇所で、その調査面積は1,225m²である。その他当該埋蔵文化財については、盛土により保護層が十分に確保できると判断されたため、現地に残されている。

A～C区の3つの調査区を設定し、A区から調査に着手したが、途中発掘調査と並行して実施した周辺での踏査中に新たに遺物の散布が認められ、D区を設定した。結果として4調査区で調査を

実施した（第3図）。

第2節 A区

（1）調査区の状況

A区は道路・水路予定地で、南端は現水路に接する。遺跡の西側縁辺部に位置し、調査面積は568m²を測る（第4図）。

基本層序は、第1層：黒褐色土（耕作土）、第2層：灰黒色土（水田床土）、第3層：赤褐色土、第4層：灰黄褐色土、第5層：橙色土、第6層：暗褐色土（奈良～平安時代遺物包含層）、第7層：礫・砂礫である。第3層は、大正年間に一帯で行われた圃場整備時の客土と考えられる。第7層以下は、礫、砂礫が互層状に堆積しており、河川の氾濫などの水害の様子が窺える（第5図）。

調査区西側で南北方向に延びる自然堤防の頂部が検出された。これを境に西側で遺構は検出せず、遺跡が自然堤防の内側に形成されたものであることがわかる。また、かつて遺跡近くに河川流路が存在していたことが想定される。

（2）遺構

遺構は、第6層直下で検出された。ピットが90基検出されたが、どれも深さは浅いものであることから、後世の水田化の際に削平を受けたものと考えられる。遺跡の縁辺部であり、遺構密度は疎であるが、比較的南側に集中している。柱穴からの建物跡の復元等はできなかった。

第3節 B区

（1）調査区の状況

B区は道路・水路予定地で、遺跡の北側縁辺部に設定した。東西に長い調査区で、調査面積は157m²を測る。調査前の水田境を基準に西側をB1区、東側をB2区と細分し、B1区から調査を実施した（第6図）。

基本層序は、第1層：褐灰色土（耕作土）、第2層：黄灰色土（水田床土）、第3層：赤黄色土、第4層：黒褐色土（奈良～平安時代遺物包含層）、第5層：明黄褐色土、以下砂質土・砂が1mほど堆積し、礫層に至る。第3層は、A区同様大正年間の圃場整備時の客土と考えられる。第5層以下は、砂質土がほぼ水平で、安定した土層堆積状況を呈しており、後背湿地の様子を示している。この下層の礫層から、遺跡の東側から北側に回り込む河川流路が推測される（第8～9図）。

（2）遺構

遺構は、第4層上面で土坑が1基検出されたのみである。ただし、石を4層上面で検出したが、土坑の掘形は不明瞭で、結果的には4層下面で掘形と考えられる変色を確認した。

土坑の平面形は不整橢円形で、長径1.2m・短径0.95m・深さ0.35mを測る。深さについては、上述のとおりであり、深さは少なくとも+20～30cmであったものと思われる。土坑内には拳～人頭大の石のほか五輪塔の火輪が投棄された状態で検出された。

第4節 C区

（1）調査区の状況

C区は道路予定地で、遺跡の南側縁辺部に設定した。調査面積は265m²を測る。工事工程上調査区を細分する必要が生じ、調整のうえ西側をC1区、東側をC2区、中央をC3区とし、この順に調査を実施した（第10図）。

基本的な層序は、各調査区で異なるが、C1区では第1層：黄灰色土（水田床土）、第2層：黄橙色土、第3層：黄灰色土、第4層：灰オリーブ色砂質土、第5層：人頭大以下の礫層である。全体的に不安定な土層堆積であるが、とくに中央部は後世の搅乱により乱れる。対してC2区は、B

区と同様に安定した後背湿地様を呈する。第1層：暗褐色土(水田耕作土)、第2層：灰色土(水田床土)、第3層：橙色土(圃場整備時の客土)、第4層：黄灰色土、第5層：黄色粘質土、第6層：褐灰色砂質土、第7層：黄灰色粘質土、第8層：灰色粘質土、第9層：人頭大以下の礫層である。第9層は北から南に向かって緩やかに下がる。C3区はC1区とC2区の中間的な様相を呈する。調査区内では北側と南側で堆積状況が異なるが、基本的な層序は、第1層：黄褐色土(水田床土)、第2層：橙色土(圃場整備時の客土)、第3層：灰褐色砂質土、第4層：灰褐色土(遺物包含層)、第5層：褐灰色土(遺物包含層)である。これに対し南側は灰色粘質土が南西に向かって下がりながら堆積しており、流れの緩い河川あるいは沼地状の水溜りが存在していたことが推定される堆積状況を呈している(第12~14図)。

C3区では後述する護岸状の遺構が検出されており、以上のことから、C2区の南側からC3区の南東隅をかすめ、C1区を迂回してA区西側に至る河川流路が推定される。

(2) 遺構

C区において検出された遺構は、C3区の護岸遺構のみである(第11図)。

調査区の南東隅で検出された。検出できた長さは4.6m、幅0.35mを測る。人頭大以下の石が並び、その中の南側に50cm間隔で径4cm以下の杭が打たれており、北東端では横木も確認できる。

第5節 D区

(1) 調査区の状況

D区が当初予定になかったことは前述のとおりであるが、この場所は事前の分布調査、試掘調査結果から遺跡は存在しないと判断し、表層の剥ぎ取り工事が進められていた箇所である。A・C区の発掘調査と並行して実施した踏査中に弥生土器片がまとまって採取され、合口土器棺と考えられる上器の一部が表出しているのが発見されたことから、その周辺での工事を中断し、事業者、工事業者とその取り扱いについて協議を行った。その結果、極力短期間にかつ最小面積で調査を実施することとなり、面積は235m²、10月23日から11月11日の間で調査を実施した(第15図)。

基本的な層序は、表層が除去されていることから残存部分で判断せざるを得ないが、第1層：灰色土(水田床土)、第2層：赤黄色土(圃場整備時の客土)、第3層：黒茶色土、第4層：暗茶色土(弥生時代遺物包含層)、第5層：黄褐色砂、第6層：礫層(拳へ人頭大)である。調査区北半で包含層は認められないが、今回の工事の中で除去されたものか、それ以前の水田化の際に掘削されたものかは不明である。なお、発掘調査は現況面から5cmも掘削しない段階で第5層に至ったことから、第4層下位まで掘削されていたことになる(第16図)。

(2) 遺構

D区において検出された遺構には、土坑4基、ピット11基、土器棺墓2基がある(第15図)。ここでは、土器棺墓について述べる。

土器棺墓1(第17図、第62図100・101)

調査区の南側で検出された。土器棺は長径85cm、短径41cm、深さは検出段階から8cmの楕円形の土坑に、甕形土器を合わせ口の状態にし、北側の甕をやや高くする横位に近い斜位に埋葬されていた。合わせ口部は北側の甕の口縁部を打ち欠いた状態で取り付けられていたが、その打ち欠いた口縁部も同じ土坑内で見つかっている。この土器棺の上部は北甕は潰れた状態で、南甕は工事掘削で破壊された状態で検出された。

これに伴う副葬品などの遺物はない。弥生終末期。

土器棺墓2(第17図、第62図103・104)

調査区の北側で検出された。土器棺は長径1.1m、短径1m、深さ10cmの隅丸方形状の土坑に、

変形土器を合わせ口の状態にし、南側の甕をやや高くする横位に近い斜位に埋葬されていた。土坑内からは、土師器も検出されたが、後世の流れ込みによるものと考えられる。

これに伴う副葬品などの遺物はない。弥生終末期。

第6節　まとめ

家下遺跡は、高津川あるいは匹見川によって形成された微高地上に立地する。今回はその縁辺部で調査が実施された。遺跡の中心部には現在も家屋が建ち、その周りの水田部分も保護層が確保されることから、今回調査対象外として今も地下に眠っている。そのため遺跡の様相については、今なお不明な点が多いが、一方で遺跡の規模を大方ではあるが想定することができた。それは、A、B、C区を覆う南北140m、東西100mの範囲と考えられる。出土遺物については、石見空港編年のIII期に属す須恵器が大量に見つかっており、遺跡が概ね奈良時代後半から平安時代初頭に盛期があったことがわかる。特筆すべきは、いわゆる生焼けの須恵器が比較的多く含まれていたことである。市内で須恵器の窯跡は、本片子窯跡や芝窯跡など東部地域において確認されているが、その他の地域では確認されていない。短絡的であるかもしれないが、家下遺跡近隣に窯跡が存在しているのではないかと考えている。それは、近代に遺跡近隣の羽原地区において瓦の窯跡が存在し、焼かれていたことに繋がっていく可能性もあると考えられる。

家下遺跡の盛期が奈良時代後半から平安時代初頭にあるとした場合、課題となるのが、D区の存在である。踏査及び試掘調査結果から、国道9号線から高津川に向かい(東から西に向かい)遺跡の存在する可能性は低くなると判断されており、D区周辺に遺跡は存在しないと考えられていた。その中で、弥生時代の土器棺墓が発見されたわけであるが、そこに埋葬された人々はどこに生活していたのだろうか。A～C区において、弥生土器が数点検出されてはいるものの、これに伴う遺構ではなく、弥生時代の集落が存在していたとは考えにくい。D区における遺跡名について、その正否は別として、遺物が出土しているのは事実であり、おそらくは、家下遺跡周辺に幾つか存在する微高地のいずれかに弥生時代の集落が存在しているのではないだろうか。

以上、根拠に欠ける想定もいくつか行ってみたが、それらは今後の課題として一帯の調査を精力的に進めるという誓いに代え、家下遺跡のまとめとする。

第4章　中小路遺跡の調査結果

第1節　調査の概要

遺跡面積は40,000m²を超える、広範囲に広がる遺跡であることが試掘調査で確認されている。事業者とその取り扱いについて協議を重ねた結果、遺跡保護の立場から盛土工を実施して保護層を確保し、遺跡に直接的に影響がないような位置まで田面を上げて施工することとなったが、その保護層の確保が困難な箇所及び道水路部分について、平成16・17年度の2ヵ年で発掘調査を実施することとなった。調査対象面積は11,815m²である。この中を現況地形を勘案して、A～Iの調査区に細分して調査を実施した(第18図)。表土は基盤整備の一環として重機で取り除かれ、遺構の検出作業は人力にて実施した。

平成16年度は、上記の対象地のうち基盤整備事業の中で前半に工事が予定される遺跡の北側で実施した。A、B、C、D区が該当し、一部G、E区については次年度予定であったが先行して部分掘削を行った。調査面積2,200m²である。平成16年4月26日に着手し、同17年2月4日に終了した。

平成17年度は、遺跡の南側を中心とした9,615m²で調査を実施した。E～I区である。平成17年

6月1日から平成18年1月31日にかけて実施した。

第2節 A区

(1) 区の状況(第19図)

A区は水路予定地で、東西に細長い調査区である。南接地は基盤整備計画当初から遺跡があるとする地区的に答えて整備区域外となつておらず、昭和20年代頃まで存在していた中小路集落の名残の蔵が残されている。東端はコンクリート製の水路に接する。調査区周辺の遺跡が存在しないと判断された箇所については工事が調査と同時に進められていたが、その中でこのコンクリート水路を取り壊したため、雨の次の日などは周辺の雨水が全て調査区に流入することとなつた。特にこの年は比較的台風が多く発生し、時間とともに水との戦いでもあった。

基本層序は、第1層：黒灰色土(水田耕作土)、第2層：灰褐色土(水田底土)、第3層：赤褐色土(大正圃場時の客土)、第4層：淡黄褐色土、第5層：暗茶色土(弥生時代遺物包含層)、第6層：明黄褐色土である。

(2) 遺構

A区では、溝状遺構1条、土器棺墓8基、性格不明遺構2基が検出された。この他、土器溜りが調査区西側で見つかっている。

土器棺墓

1号墓(第20図)

[検出位置・状態] 土器棺墓群の最東端。器高30cmほどの同サイズの甕を利用した土器棺。

[埋葬状態] 東側の甕口縁部を外とする合わせ口。横位。東側の甕の底側に穿孔がある。

[主軸方向] 西南西-東北東

[土坑規模] 長径0.84m×短径0.58m×深さ0.24mの楕円形。

[時期] 弥生時代中期末～後期前葉

2号墓(第20図)

[検出位置・状態] 1号墓の北西。南側の土器は上半部が欠損。北側が器高40cm、南側が器高30cmでやや北側が大きい。

[埋葬状態] 南側の甕口縁部を外とする合わせ口。北側の甕口縁部はうち欠かれる。横位。

[主軸方向] 北-南

[土坑規模] 長径1.0m×短径0.7m×深さ0.23mの不整楕円形。

[時期] 弥生時代後期前葉

3号墓(第20図)

[検出位置・状態] 2号墓の北西。北側の土器は上半部が欠損。器高30cmほどの同サイズの甕を利用した土器棺。

[埋葬状態] 北側の甕口縁部を外とする合わせ口。横位。南側の甕は口縁部をうち欠く。

[主軸方向] 北北東-南南西

[土坑規模] 長径0.94m×短径0.72m×深さ0.21mの不整楕円形。

[時期] 弥生時代後期初頭～前葉

4号墓(第20図)

[検出位置・状態] 土器棺墓群の中央部。器高62cmを測る大型の複合口縁壺。胴上半部欠損。

[埋葬状態] 人頭大のやや扁平な石を蓋とする単式土器棺。横位。

[主軸方向] 東北東-西南西

[土坑規模] 長径1.02m×短径0.76m×深さ0.19mの不整楕円形。

【時期】口縁部に波状文を施し、頸部に突帯を貼り付けた西部瀬戸内系複合口縁壺。弥生時代後期前葉と比定される。

5号墓(第20図)

【検出位置・状態】4号墓の北側で、土器棺墓群の中央部。ほぼ同サイズの個体を利用した土器棺。
【埋葬状態】合わせ口の2固体+別固体1。西側の壺口縁が外。東の壺口縁部は打ち欠かれている。西側をやや高くした斜位気味の横位。合わせ口部には打ち欠いた東側壺の口縁部片、別個体の壺の口縁部・底部等が張り付けられる。また、同じく打ち欠いた東側壺の口縁部が西側壺の底部に枕状に貼り付けられており、埋葬者の頭位を示している可能性がある。胴部下側に穿孔あり。

【主軸方向】西北西-東南東

【土坑規模】長径1.07m×短径0.65m×深さ0.3mの楕円形。

【時期】東側の壺は弥生時代後期中-後半に比定される西部瀬戸内系の複合口縁壺と考えられるが、西側の壺がV-2期、また、土器棺に貼り付けられている壺の口縁部は山陰では弥生時代中期末から後期前半に比定され、これら時期差について検討を要する。

6号墓(第21図)

【検出位置・状態】5号墓の西側。北側は器高60cmを測る大型の壺、南側は器高30cmの甕でサイズを異にする土器棺。

【埋葬状態】北側の壺口縁を外側にする合わせ口。横位。

【主軸方向】北-南

【土坑規模】長径1.08m×短径0.82m×深さ0.15mの楕円形。

【時期】北側の壺は弥生時代後期前葉に比定される西部瀬戸内系の複合口縁壺と考えられる。南側の甕は在地のものと考えられるが、安芸系甕に類似するか。弥生後期前葉。

7号墓(第21図)

【検出位置・状態】6号墓の北側で、土坑は調査区域外に続く。6号墓と同じくサイズを異にする土器棺。東側は器高75cmを測る大型の西部瀬戸内系の複合口縁壺であるが、西側は器高32cmほどの中壺である。

【埋葬状態】東側の壺口縁を外側にする合わせ口。横位。

【主軸方向】北西-南東

【土坑規模】長径1.27m×短径0.9m×深さ0.29mの不整円形か?

【時期】東側の壺は弥生時代後期前葉から中葉に比定され、西側の甕は弥生時代中期末から後期前半期のものと考えられることから、土器棺墓の時期は後期前葉期と考えてよいだろう。

8号墓(第21図)

【検出位置・状態】土器棺墓群の最西端。個体はほとんど残っておらず、南西側の甕の体部から底部にかけての下半部が残されているのみである。

【埋葬状態】横位。合わせ口と考えられる。

【主軸方向】北東-南西

【土坑規模】長径0.94m×短径0.67m×深さ0.14mの楕円形。

【時期】弥生後期初頭か。

その他遺構

調査区東側で検出されたもので、北東-南西方向に伸びる。検出された延長はおよそ6mであるが、北端、南端何れも調査区域外へ続く。幅は最大で0.8mを測るが、深さは浅く数cmというところである。人頭大以下の石が堆積しているが、自然のものと考えられる。遺物は、奈良時代の須恵

器片が数点出土している。

土器溜り

調査区西側の調査区域外の南側から北西方向に向かう自然河川跡部で検出。流路というよりは、やや緩んでいた様相を呈している。遺物は弥生時代中期から後期の土器が出土。

S X02

土器溜りの南側で検出。その南側は調査区域外に続くため、全様は不明であるが、検出できたところで長径1.1m×短径1.0m、深さ0.1~0.2mを測る。出土遺物は弥生時代後期中頃の土器が主体である。

S X04

調査区最西端で検出。北側は溝状に調査区域外に続くと考えられる。また、南側は地山が砂質といふこともあり、掘形はやや不明瞭である。中央部は円形状を呈するものの全体としては細長い不整形。長径5m×短径1.8m、深さ0.1~0.2mを測る。出土遺物は弥生時代後期前半頃の土器が数点出土している。

第3節 B区

(1) 区の状況(第22図)

B区もまた水路予定地で、南北65m×東西5mの細長い調査区である。平成15年度にこの調査区の東側で試掘調査が行われているが、その試掘区との土層堆積の関連を確認するため東へ長さ5m×幅3mほど拡張して調査を行っている。

基本層序は、第1層：暗黒色土(耕作土)、第2層：褐灰色土、第3層：赤黄色土(大正圃場時の客土)、第4層：淡茶色土(奈良時代遺物包含層)、第5層：暗茶色土(弥生時代遺物包含層)、第6層：淡黄色土(地山)である。表土は重機により除去したが、その一部は残されている。調査以前にはビニールハウスが建てられていたようで、廃材を埋めたと思われる大きなごみ穴が調査区の中で見つかっている。この他にも、暗渠排水溝のための掘削が所々行われている。

調査区南西隅では表土除去後5cm以下で地山に達したが、北端では1m近く掘削して地山に至つており、南から北に向かって緩やかに下がっていることがわかる。調査区南端と北端で比高差0.95mを測る。調査前の地表標高で見ても、B区が位置する畑と北接する水田では比高差0.6mを測り、この水田下層は砂礫が厚く堆積する氾濫のあった土層堆積を呈している。これらのことからも、B区が集落を営む北東限と見られ、微高地北東端部に位置していることがわかる。

(2) 遺構

遺構は、第2層直下で近世に属する集石土坑1基のほか、北端で石積の水路跡、ピット数基を検出した。次いで第5層直下で弥生時代に属する竪穴住居跡を9棟検出した。

竪穴住居跡

1号住居(S I 01、第23図、第76図)

[検出状況] 調査区北端の東側壁周辺で1/2程度が検出され、調査区域外へと続く。北端は石積みの水路により失われている。床面上には炭化物や焼土が厚く堆積し、火災によって廃絶した可能性がある。

[平面形・規模] 円形と推測される。規模は直径6.2m前後。壁の残存高は30~40cm。

[施設] 柱穴と思われるピット2基。壁溝は幅10~15cm、深さ4~8cm。壁面上部に垂木の痕跡と思われる直径7cmの炭化物が50cm間隔で4箇所にある。

[出土遺物] 覆土と床面から十数点の弥生土器が出土しているが、床面からの出土は243の1点のみである。243は口縁部が直立する複合口縁の壺で、口縁部に4条の平行沈線文を巡らす。V-2

期と思われる。

〔時期〕 弥生時代後期前葉

2号住居（S I 02、第24図、第77～79図）

〔検出状況〕 ほぼ完全な形で検出。東端、西端わずかに調査区域外へ続く。床面上には炭化物や焼土が多く認められることから、火災によって廃絶した可能性がある。

〔平面形・規模〕 円形。規模は直径5m。壁の残存高は21～40cm。

〔施設〕 主柱穴としては4基のピットが確認できる。中央土坑は長径1m×短径0.8mの隅丸方形で、断面形は擂鉢状（深さ30cm）を呈す。壁溝は幅6～20cm、深さ3～7cm。

〔出土遺物〕 覆土や床面から多くの弥生土器が出土している。覆土から、朝顔状に大きく開き口端部をやや上方につまみ上げる中期の壺なども見つかっているが、床面出土のものは概ねIV-2～V-1期の範疇に納まるものと思われる。

〔時期〕 弥生時代後期初頭

3号住居（S I 03、第25図、第79図284）

〔検出状況〕 北東部で直径1mほどの焼土塊を検出。これにより住居跡が存在する可能性があると判断し周辺の精査を行ったが、平面プランの検出は難しく、壁際でトレンチを設定して土層断面も参考にしながら精査を行い、2号住居の南側の東側壁周辺で1/3程度を検出。なお、断面では床面に相当する箇所に薄く炭の堆積が見られるが、壁面の立ち上がりは不明瞭である。北東部は8号住居と重複するが、これに先行する住居跡である。削平されたためか壁高は数cmしかない。北側の大型ピットは上層からの掘り込み。

〔平面形・規模〕 楕円形か？長径5.8m。

〔施設〕 柱穴と思われるピット1基。

〔出土遺物〕 出土遺物は弥生土器1点のみである。覆土からの出土である。V-1期と思われる。

〔時期〕 弥生時代後期前葉か？

4号住居（S I 04、第24図、第80～82図）

〔検出状況〕 調査区中央部で検出された。西側1/3ほどは調査区域外へ続く。また、北側は径1.8mの円形土坑（S X 06）に切り取られる。北東部壁面の外側で焼土塊を検出。床面でも焼土2箇所にあり。

〔平面形・規模〕 楕円形または胴張りの隅丸方形。長径6.1m×短径4.6m（検出部分のみ）。壁の残存高は13～28cm。

〔施設〕 床面では3基のピットを検出したが、主柱穴としては2基が確認できる。中央土坑は長径1.8m×短径1.4mの楕円形で、断面形は擂鉢状（深さ34cm）を呈す。壁溝は幅16～42cm、深さ4～12cm。

〔出土遺物〕 覆土と床面から多くの弥生土器が出土している。床面から出土したものに285～290の壺があるが、概ねV-2～V-3期に属すと思われる。注意すべき遺物としては292の坩堝があるが、内面底部にガラス化した黒色物（炭？）が残されている。他には中央土坑から293の石包丁が見つかっている。

〔時期〕 弥生時代後期中葉。

5号住居（S I 05、第27図）

〔検出状況〕 全体の東1/2程度は調査区域外へ続く。削平のためかプランは不明瞭で、北半でははっきりと捉えることができず、床面のみとなる。南側の壁高は25cmを測るもの、他の住居址の壁面形態とは異なり、なだらかである。このため、当初スロープ状の自然地形の傾斜と考えていたが、周辺で住居址が検出されていく中で、焼土が存在するなど同様の様相を呈することから精査

を繰り返し、北東部のプラン及び中央土坑を検出した。

〔平面形・規模〕 不整円形か？ 直径6.0m前後か？

〔施設〕 中央土坑のみ検出。中央土坑は長径1.6m×短径1.3mの不整円形で、断面形は深さ17cmの鉢状を呈す。

〔出土遺物〕 この住居址に伴う遺物は残されていない。

〔時期〕 遺物が存在しないため、明確な時期判定はできない。

6号住居（S 106、第28図）

〔検出状況〕 検出した住居址の中で最南端。南側でS X02と重複するが、これに先行する住居跡。4層直下で半円形のプランを検出。西側は調査区域外へ続く。上面は削平されたためか、壁高は数cmしかない。

〔平面形・規模〕 円形または胴張りの隅丸方形。円形として直径5m前後。隅丸方形の場合、1辺4m。

〔施設〕 床面からは5基のピットが検出されたが、主柱穴と考えられるのはP 1、P 5の2基である。P 2はその位置や深さから柱穴とは考えにくい。P 3は中央土坑か。壁溝は南東部のみ検出。幅20cm、深さ4～6cm。

〔出土遺物〕 覆上から十数点の弥生土器が出土しているが、図化できたのは312の1点のみである。風化の為調整は不明瞭であるが、V-4期と思われる。

〔時期〕 弥生時代後期後葉か

7号住居（S 107、第22図、第82図313）

〔検出状況〕 東への拡張部で検出。部分的なものであり、住居址と断定するには不確かであるが、壁面と考えられるなどらかな落ち込みの様子は5号住居に類似する。壁高10～20cm。

〔平面形・規模〕 不明。

〔施設〕 不明。

〔出土遺物〕 床面から弥生土器が1点出土している。313はV-1期に比定される壺で、口縁部に3条の平行沈線文、頸部に連続列状文を施す。外面ハケ、内面ケズリ後ハケ仕上げである。

〔時期〕 弥生時代後期初頭か。

8号住居（S 108、第25図）

〔検出状況〕 3号住居に重複する。3号住居を切るが、調査区ぎりぎりでわずかに見つかったものであり、住居址と断定するには不確。

〔平面形・規模〕 方形か。

〔施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 平面形から古墳時代に属する住居址か。

9号住居（S 109、第22図）

〔検出状況〕 3号住居の西側で検出。8号住居と同様、調査区壁際で検出されたものであり、形状等は不確。

〔平面形・規模〕 隅丸方形か。

〔施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 弥生時代後期か？

第4節 C区

(1) 調査区の状況(第29図)

A区の西側に続く水路予定地で、調査区の幅は2mである。基盤整備事業区域外となっている旧中小路集落の屋敷跡地を迂回するように、縫曲がり状に屈曲する。

基本層序は、第1層：暗青灰色土(耕作土)、第2層：灰褐色土、第3層：褐灰色土、第4層：暗茶色土、第5層：褐色土+浅黄色土の混合層、第6層：暗褐色土である。第6層は下層に向かつて砂質となり、色調も黄褐色へと変化するが、その境界は植物の根の貫入などで乱れており、判然としない(第30図)。

(2) 遺構

C区では第3層直下でピットを数基、第6層直下で溝状遺構1条を検出した。ピットは柱穴と考えられるものが無いためここでは省略し、以下溝状遺構について述べる。

溝状遺構(第29図)

溝状遺構は、調査区中央よりやや西寄で検出された。幅2~2.2m、深さ0.67mで断面形はV字状を呈す。南北方向に伸びるもので、検出された長さは1.7mであるが、南北それぞれ調査区区域外へ続くと推定される。ただし、この北側の延長上に位置する水田に設定した試掘区では、この溝は検出されない。環濠の可能性もある溝跡と考えられるが、前述したように調査区の幅が狭いため、あるいは大型の土坑などの可能性がないでもない。

遺構内からは、IV-2~V-3期に属する大量の弥生土器が出土している(第89~94図)。最初に堆積した層の土器はIV-2~V-1におさまり、この溝状遺構の掘削時期は中期末から後期の初頭と考えられる。また、搬入品と考えられる防長系の甕の出土も当時の交流を知るうえで注意すべき遺物である。

第5節 D区

(1) 調査区の状況

D区は、遺跡の中央部から西部にかけて設定した幅0.4m×長さ100mほどの非常に細長い調査区である。既存道路の側溝付け替えに伴う。調査区設定箇所は既存の水田5区画が該当し、それぞれがコンクリート畦で区画されていたことから、便宜上最東区画をD1区、最西区画をD5区とした。ピットが45基検出されている。全てが柱穴とは言えず、また、調査区が狭小であるため、建物プランは確認できなかった。D1区周辺は、かつての中小路集落の最西端に位置しており、これに伴う瓦や茶碗を廃棄した埴込が見つかっている。

層序は、複数の水田区画にまたがるため土色や厚みに差異はあるものの、基本的に第1層：水田耕作土、第2層：橙色土、第3層：にぶい赤褐色土(奈良～平安時代遺物包含層)、第4層：地山である。第1層が10~15cm厚、第2層は2~5cm厚、第3層は25~30cm厚である。

第6節 E区

(1) 調査区の状況

E区の北側は幅2mほどの道路を挟んで比高1mの一段低い水田である。この水田での試掘から、礫、砂礫が厚く堆積する河川氾濫の痕跡が確認されており、E区が遺跡が立地する微高地の北西端に位置していることが確認されている。調査区西側は、平成15年度に発掘調査が実施されたふるさと農道に接する。調査区設定箇所は水田4区画が存在していた場所である。表土は重機で除去し、以下人力による掘削、遺構精査を行った。

調査区内を1辺10mの方眼で細分し、調査区北西隅を基準として、東西軸をアルファベット、南北軸をアラビア数字で表し、交点名をグリッド名とした(第31図)。

基本層序は、D区と同じで第1層：水田耕作土、第2層：橙色土、第3層：にぶい赤褐色土(奈良～平安時代遺物包含層)、第4層：地山である。第3層の堆積は、北側に向かって厚くなるが、これは自然地形の傾斜に起因するものである。また、地山は北に向かって固く締まったものから砂質へと変化する傾向にある。

調査区南半(SDE 8以南)では表土除去後すぐに地山が検出された。この範囲内で検出された遺構は、削平されたためと考えられるが、検出数も少なく、大半は深さの浅いものであった。また、A1～B4グリッドの北西地区は、調査前の水田表面の標高でその南側のそれと比べて40cmほど低く、結果遺構が検出された地山面でも同様の傾向であり、遺構上部は大きく削平を受けて、南半と同じく検出数は少なく、かつ検出できたものも浅いものであった。

(2) 遺構

遺構は地山面で検出したが、前述のように削平を受けていると考えられるため、同一面で複数の時代の遺構が検出された。E区で検出した遺構には、溝状遺構8条、土坑17基、ピット1013基がある。ただし、調査区北東部については、地山が砂質ということもあり、検出したピットが雨天後に崩壊、消失したものも多数ある。調査終盤に至っては雨水が枯れず、岡化をあきらめたピットも幾つかある。幾つかの掘立柱建物跡、柵列の可能性が考えられ、第31図中に示しているが、上述のように岡化できていないピットや削平による浅すぎるピットなどもあることから、現時点では可能性を示す、ということで紹介のみとさせていただく。以下、各遺構について述べる。

溝状遺構

SDE 1(第32図)

調査区中央の東側で検出。北西～南東方向に伸び、途中「L」字状に屈曲して向きを北東～南西方向に変える。検出長21.5mで北東端は調査区域外へ続く。幅0.5～1.2m、深さ0.1～0.2mを測る。断面形状は南側が深く、北側を浅くする。須恵器、土師器の小片出土。

SDE 2(第33図)

調査区北西隅で検出。北東～南西方向に伸びる。北端は調査区域外へ続く。遺構名は1つを付しているが、形状は3条が並びあう様である。間を暗渠排水で割られる。検出長7.2m、幅1.2～1.5m、深さ0.1～0.15m。断面形状は逆台形である。弥生土器片出土。

SDE 3(第34図)

調査区南西の一△6グリッドで検出。東西方向に伸びる。西側は調査区域外へ。検出長3.7m、幅0.3～0.4m、深さ0.1m。断面形状は逆蒲鉾形。出土遺物なし。

SDE 4(第35図)

調査区南東で検出。東西方向に伸びる。東側は調査区域外へ。東端に人頭大以下の集石あり。検出長15m、幅0.4～0.8m、深さ0.1～0.15m。断面形状は逆蒲鉾形。須恵器、土師器の小片出土。

SDE 5(第36図)

調査区4の南側に隣接。東西方向から南北方向へ「L」字状に屈曲。検出長14m、幅0.3～0.6m、深さ0.2m。断面形状は逆蒲鉾形だが、溝の南西側(内側)が比較的深く掘り下がる。南西側(内側)には掘立柱建物跡の可能性があるピットが検出されており、区画構の可能性がある。須恵器、土師器の小片出土している。

SDE 6(第37図)

調査区の中央部で検出。SDE 4の西側延長線上に位置しており、同一の溝の可能性あり。検出長13.8mを測るが、中央部で一部掘り方が不明瞭。幅0.1～0.8m、深さ0.05～0.1m。断面形状は、西側では逆台形、中央部以東で逆蒲鉾形を呈す。須恵器、土師器の小片出土。

S D E 7 (第38図)

調査区の東側で、S D E 1 と S D E 4 の間に位置する。南南西—北北東に伸びる。東側は調査区域外へ。検出長10.7m、幅0.3~0.4m、深さ0.1~0.2mを測る。断面逆台形。遺物なし。

S D E 8 (第39図)

調査区の中央部で東西に伸びる溝跡。西側は調査区域外へ続く。検出長27m、幅0.4~0.9m、深さ0.1mを測る。西側でS K E 13を切り、中央部でS K E 14を切る。土師器片、白磁片が出土。

土坑

S K E 1 (第40図)

A 5 グリッドに位置する不整円形の土坑である。長径1.1m、短径0.85m、深さ0.12mを測る。埋土は褐灰色土である。上師器の小片が出土。

S K E 2 (第40図、第98図435)

A 5 グリッドの西端に位置する不整形の上坑である。長径2m、短径1.6m、深さ0.08mを測る。埋土は黒褐色土である。拳大の石が点在する。縄文土器のほか、石皿が出土している。

S K E 3 (第40図)

調査区の北側、B 2 グリッド南東隅で検出。平面形は不整長方形。長径1.4m、短径0.45m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色土。土師器小片が出土している。

S K E 4 (第40図)

調査区の中央部に位置し、B 3 グリッドで検出。平面形は隅丸長方形。長径2.8m、短径1.2~1.7m、深さ0.13mを測る、比較的大型の上坑である。埋土は1層：極暗赤褐色土、2層：にぶい赤褐色土である。遺物は1層から出土するが、北東部に集中している。上師器片のほか、縄文晩期の夜白系土器が出土している。

S K E 6 (第40図、第98図436~444)

調査区南西部の一B 6 グリッドで検出。平面形は円形。直径1.35m、深さ1.3mを測る。人頭大以下の円錐、割石が大量に出土し、火にあたった石も数点確認される。出土遺物には、土師質土器、白磁皿、青磁碗、東播系の須恵器などがある。井戸跡か。

S K E 8 (第40図)

調査区南東に位置する梢円形の土坑。長径1.65m、短径1m、深さ0.06mを測る。埋土はオーリー褐色土。土師器小片が出土している。

S K E 9 (第41図)

B 7 グリッドで検出した不整梢円形の土坑。長径2.3m、短径0.7m、深さ0.3mを測る。埋土は灰褐色土。土師器片が出土している。

S K E 11(第41図)

D 7 グリッド中、S K E 8 の南側に位置する梢円形の土坑。断面形は擂鉢状。長径1.25m、短径0.75m、深さは中央部で0.1mを測る。埋土は灰褐色土。遺物なし。

S K E 12(第41図)

S K E 11の南西方向2mの位置で検出した不整長方形の土坑。長径0.85m、短径0.5m、深さ0.15mを測る。上師器片、土錐が出土。

S K E 13(第41図)

調査区中央部西側の一A 4 グリッドに位置する不整円形の土坑。直径1m、深さ1mを測る。S D E 8 と重複関係にあるが、これに先行する土坑である。土坑内には人頭大以下の石が堆積する。須恵器、土錐が出土。井戸跡か。

S K E 14(第41図)

S K E 13から東へ9mの位置で検出した楕円形の土坑。長径1.2m、短径0.5m、深さ0.16mを測る。S D E 8と重複関係にあるが、これに先行する土坑である。弥生土器がまとまって見つかっているが、風化、磨耗が著しく復元、図化はできていない。その形態から弥生中期末から後期初頭に属すと考えられ、合わせ口の土器棺と推測される。

S K E 15(第41図)

調査区中央東側のD 4 グリッドで検出された不整形の土坑である。長径1.85m、短径1.15m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色土である。割石が数点出土する。

S K E 16(第42図)

S D E 1の南1.5mに位置する楕円形の土坑である。長径0.7m、短径0.45m、深さ0.2mを測る。

S K E 17(第42図)

調査区北東部D 3 グリッドで検出した楕円形の土坑である。この周辺は地山が砂質で、調査終盤には度々水没し、遺構の掘り方は削り取られている。このため、やや大型のものとなっているが、現存する長径0.95m、短径0.5m、深さ0.3mである。断面形はやや錐鉢状を呈す。

S K E 18(第42図)

調査区中央部のC 5 グリッドで検出した楕円形の土坑である。北西部はピットにより切り取られる。長径1.1m、短径0.7m、深さ0.15mを測る。

S K E 19(第42図)

調査区南西部のA 7 グリッドで検出した不整楕円形の土坑である。上部は削平されており、深さはわずかしかない。長径0.7m、短径0.5mを測る。

S K E 21(第42図)

調査区北部のC 1 グリッドで検出した土器棺墓である。土坑規模は長径0.7m、短径0.4m、深さ0.1mの不整長方形。埋葬状態は横位で、西→東を主軸とする。上方向から見た場合、西側の甕を外側とする合わせ口に見えるが、この甕の下半部は欠損しており、合わせ口状覆い口土器棺とも呼べばよいだろうか。東側の甕が棺身である。弥生中期末から後期初頭。

S K E 22(第42図)

A 5 グリッドで検出した大型土坑で、S K E 1の南東に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径3.2m、短径2.2m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色土である。人頭大以下の円錐、割石が多く出土するが、北側に比較的集中する。須恵器、鉄滓が出土している。

S K E 23(第42図)

調査区の南端で検出した円形の土坑。直径2m、深さ0.5mを測る。人頭大の石が西側のみにまとめて出土する。遺物は土師質土器片、須恵器片が出土している。

第7節 F 区

(1) 調査区の状況

E 区の東側隣接地に設定した調査区である。表土は重機で除去し、以下人力による掘削、遺構精査を行った。

調査区内を1辺10mの方眼で細分し、調査区北西隅を基準として、東西軸をアルファベット、南北軸をアラビア数字で表し、交点名をグリッド名とした(第43図)。

基本層序は、第1層：灰オリーブ色土(水田耕作土)、第2層：灰色土(水田床土)、第3層：橙色土、第4層：黒褐色土(奈良～平安時代遺物包含層)、第5層：地山である。遺構は地山面で検出した。遺構検出面の標高は、調査区南西が最も高く、北東に向かい低くなっていく。この自然地

形に合わせるように、E区と同様、地山は南西側の固く締まったものから、東側から北東に向かい砂質へと変化する傾向にある。

調査区四隅周辺では表土除去後すぐに地山が検出された。この範囲内で検出された遺構は、削平されたためと考えられるが、検出数も少なく、大半は深さの浅いものであった。

(2) 遺構

遺構は地山面で検出したが、前述のように削平を受けていると考えられるため、同一面で複数の時代の遺構が検出された。F区で検出した遺構には、溝状遺構3条、土坑41基、掘立柱建物跡12棟、柵列3列、ビット1527基がある。土坑については、その規模が概ね40cm以上のものが検出された段階で土坑番号を付していったため、結果的に土坑番号は95まである。しかし、F区においては、直径1m規模の柱穴からなる掘立柱建物跡が複数建つと判断されたため、この柱穴に対しても土坑番号を付していたことから半数以上が欠番となっている。

以下、各遺構について述べる。

溝状遺構

SDF1(第45図)

調査区南側で検出した東西方向に伸びる溝跡。E7グリッド部は旧水田面での比高差20cmを測る段差があり、この削平に伴い溝跡も一旦途切れる。溝東側は調査区域外へ続く。検出長32.5m、幅0.5~1m、深さ0.1~0.4mを測る。断面形状は逆蒲鉾状。須恵器が出土。

SDF2(第45図)

SDF1の南側に並走する溝跡。途切れ途切れであるが、検出長14m、幅0.4m、深さ0.15mを測る。SDF1と同じく削平によりE7グリッドでなくなる。断面形状は逆蒲鉾状。須恵器、土師器片出土。

SDF3(第45図)

調査区北西隅で検出した溝跡。南西一北東方向に伸びる。途中、暗渠排水により切られるが、検出長10m、幅0.4~0.7m、深さ0.1~0.15mを測る。断面形状は逆台形。須恵器片出土。

土坑

SKF1(第46図)

調査区北西のA2グリッドで検出した不整楕円形の土坑。長径1.8m、短径1.3m、深さ0.45mを測る。埋土は1層：暗赤褐色土、2層：にぶい赤褐色土である。

SKF3(第46図、第100図461~466、第101図468)

調査区北西のB3グリッドで検出した大型の土坑である。平面形はやや不整な隅丸の長方形。北側は暗渠排水により欠失。残存長4.2m、幅2m、深さ0.1~0.15mを測る。南東部がやや深く残るもの、全体的に上部は削平されていると考えられる。遺物は南東部でまとまって見つかっている。奈良時代の須恵器、土師器が出土。廐棄土坑か。

SKF4(第46図)

調査区中央の東側D4グリッドで検出された大型の楕円形土坑。長径2.7m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。遺物なし。

SKF6(第46図)

調査区中央のC6グリッドで検出した不整楕円形の土坑。複数のビットと重複関係にある。長径3.4m、短径0.9~1.7m、深さ0.1~0.3mを測る。縄文晩期の夜臼系上器、土師質土器が出土。

SKF7(第47図)

調査区南東のE6グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。長径1.2m、短径0.9m、深さ0.45mを測る。断面形は東側を深くする播鉢状を呈す。底部には5cm厚程度で一面に炭が堆積する。壁面

に奈良時代の須恵器の蓋と坏がセットで張り付いていた。

S K F 8(第47図)

D 7 グリッドで検出した円形土坑。直径1.7m、深さ0.8mを測る。断面形は擂鉢状。北側でピットと重複関係にあるが、これに先行する土坑である。須恵器、土師器出土。

S K F 10(第47図)

S D F 3 に西接する土坑。北側は暗渠排水により欠失。残存長1m、深さ0.1mを測る。遺物なし。

S K F 11(第47図)

C 7 グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。長径1.5m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色土。土師器片出土。

S K F 12、S K F 83(第47図)

S K F 11 の東側で検出した重複する2基の土坑。何れも平面形は梢円形。S K F 12 が S K F 83 に先行する。S K F 12 の残存長1m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。S K F 83 の長径0.9m、短径0.8m、深さ0.4mを測る。S K F 83 は柱穴の可能性あり。S K F 12 より土師器出土。

S K F 14(第47図)

調査区中央のC 6 グリッドで検出した不整円形の土坑。北東部はピットと重複関係にある。長径0.9m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。埋土は暗褐色土。柱穴の可能性あり。土師質土器皿出土。

S K F 16(第47図)

C 6 グリッドで検出した不整梢円形の土坑。長径0.8m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色土。土師器小片出土。柱穴の可能性あり。

S K F 17(第47図)

S K F 16 の南東に位置する不整円形の土坑。直径0.8m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色土。土師器小片出土。

S K F 21(第47図)

調査区北東部のD 2 グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。東側は暗渠排水により欠失。この周辺の地山が砂質のため、掘り方はやや不明瞭で、雨水により規模もやや拡大した。現存長1.8m、幅0.5~0.9m、深さ0.3mを測る。遺物なし。

S K F 22(第47図)

調査区北東のB 2 グリッドで検出した不整形の土坑。長径1.2m、短径0.8m、深さ0.07mを測る。埋土は暗赤褐色土。白磁碗片が出土。

S K F 23(第48図)

調査区北西のA 3 グリッドで検出した梢円形の土坑。長径1.1m、短径0.95m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色土。遺物なし。

S K F 25(第48図)

調査区北東のD 2 グリッドで検出した不整形の土坑。3基のピットが重複しあったものである可能性あり。

S K F 26(第48図)

D 2 グリッドで検出した大型の梢円形土坑。南側はピットと重複関係にある。地山が砂質であるため掘り方はやや不明瞭。長径4.1m、短径0.5~0.95m、深さ0.2mを測る。

S K F 27(第48図)

D 2 グリッドで検出した不整形の土坑。長径1.9m、短径0.95m、深さ0.3mを測る。断面形は擂鉢状。遺物なし。

S K F 28(第48図)

D 2グリッドで検出した楕円形の土坑。東西それぞれピットと重複関係にある。長径0.85m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色土。

S K F 33(第48図)

B 3グリッドで検出した楕円形の土坑。長径1m、短径0.8m、深さ0.25mを測る。建物4に重なるが関連は不明。柱穴の可能性あり。

S K F 37(第48図)

調査区中央のC 5グリッドで検出した大型の不整楕円形土坑。北東部はピットと重複関係にあり。長径3.2m、短径1m、深さ0.35mを測る。建物8と重なるが関係は不明。上師器小片出土。

S K F 39(第49図、第101図)

調査区中央部のB 4グリッドで検出した隅丸長方形の大型土坑。主軸方向等S K F 3に類似する。北側は暗渠排水で欠失。残存長2.8m、幅1.4m、深さ0.2mを測る。ピットと重複関係にあり。埋土には炭が混じる。遺物は南側で出土。奈良～平安時代の須恵器出土。

S K F 40(第49図)

S K F 39の南側に位置する隅丸方形の土坑。長径2m、短径1.7m、深さ0.2mを測る。埋土は灰褐色土で、炭化物、焼土塊が混じる。土師器、須恵器片、土鍬が出土。

S K F 45(第49図)

調査区の中央部のC 3グリッドで検出した楕円形の土坑である。長径1m、短径0.5m、深さ0.05mを測る。埋土は暗赤褐色土。建物7内に位置し、柱間は対応する位置に存在するが、深さなど他の柱穴とは異なり、関係は不明である。遺物はなし。

S K F 50(第49図)

C 2グリッド南東隅で検出した楕円形の土坑。長径1.1m、短径0.6m、深さ0.1mを測る。

S K F 51、S K F 52、S K F 61

S K F 50の南側に位置する。3基の土坑が隣接し、S K F 52とS K F 61は重複関係にあるが、S K F 61が先行するようである。S K F 51は不整形で長径1.6m、短径1.35m、深さ0.15mを測り、須恵器、土師器片が出土。S K F 52は不整形で長径1.7m、短径1.4m、深さ0.1mを測る。遺物はなし。S K F 61は不整形で長径0.85m、短径0.65m、深さ0.07mを測る。遺物はない。建物1と重なるが、関係は不明。

S K F 65(第50図)

調査区北東部のB 3グリッドで検出した円形の土坑。直径0.47m、深さ0.2mを測る。完形の鉢が埋め込まれる。近世。

S K F 66(第50図)

調査区北西のB 3グリッドで検出した楕円形の土坑。建物2に隣接する。長径1m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。埋土は褐色土、にぶい褐色土である。柱穴の可能性あり。

S K F 69(第50図)

調査区東側のE 3グリッドで検出した円形の土坑。直径1m、深さ0.25mを測る。埋土は褐色土、灰色粘質土で、近世の陶磁器片が多数出土する。

S K F 72(第50図)

調査区南西のB 7グリッドで検出した不整円形の土坑。長径1.2m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。人頭大以下の石が堆積する。須恵器片、上師器鍋が出土。

S K F 75(第50図)

調査区北東のB 3グリッドで検出した不整形の土坑。長径2.8m、短径1.3m、深さ0.2mを測る。

埋土は黒褐色土。土師質土器小片出土。建物3の北東隅に重なり、建物に関連する遺構と考えられるが、性格は不明。

S K F 78(第50図)

C 3グリッドで検出した不整楕円形の土坑。南側は暗渠排水で欠失。長径1.6m、短径は残存長で1m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色土。須恵器小片が出上。

S K F 79(第50図)

B 2グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。長径1.7m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。建物2内に位置するが、関連は不明。遺物なし。

S K F 81(第50図)

調査区南東部のE 6グリッドで検出した不整形の土坑。北東部、北西部はそれぞれピットと重複関係にある。長径1.8m、短径1.1m、深さ0.15mを測る。埋土は灰褐色土。須恵器片が出上。

S K F 89(第50図)

調査区南東のE 8グリッドで検出した不整円形の土坑。中央は暗渠排水で欠失。長径1.65m、短径1.45m、深さ0.1mを測る。須恵器小片出土。

S K F 90(第51図)

調査区南西のB 8グリッドで検出した隅丸方形の土坑。長径1.2m、短径0.95m、深さ0.6mを測る。中心底部に柱根が残っており、柱穴と考えられるが、隣接するS K F 94の他に同形、同規模の柱穴がなく、建物プランが引けないことからここで紹介する。大型の建物跡が推定される。

S K F 91(第51図)

調査区中央のC 5グリッドで検出したやや不整の隅丸方形土坑。長径1.35m、短径0.9m、深さ0.2mを測る。東側は建物10の柱穴と重複関係にあるが、これに先行する上坑である。遺物なし。

S K F 94(第51図)

S K F 90から西へ2mに位置する隅丸方形の土坑。長径1.3m、短径1.1m、深さ0.5mを測る。S K F 90と同一の建物跡の柱穴と考えられる。柱根はないものの柱痕あり。底部に焼土塊あり。

S K F 95(第51図)

調査区北側のB 1グリッドで検出した不整形の大型上坑。地山が砂質であるため、掘り方は不明瞭で、雨水により規模は検出当初よりやや拡大している。残存長3.4m、短径0.5~1.3m、深さ0.35mを測る。埋土は褐色砂質土。須恵器、土師器片が出上している。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は12棟のプランを引くことができた。しかし、前述のS K F 90等のように柱根が検出されたものや柱固めのための石が検出されたにもかかわらず、建物プランを引くことができなかつたピットが数基あり、またピットの分布密度からすれば復元できなかつた建物が存在する可能性は高いなど、課題は残されている。以下、各遺構について概要を述べる。

建物 1

調査区北側に位置する2間×4間の建物である。主軸方向は東北東-西南西。柱穴は20~40cmの円形で、柱間は1.6~1.8m。梁行3.8m×桁行6mで、平面積は22.8m²。北側は軸を同じくする柵列1と接し、同一建物の可能性があったが、西側で対応する柱穴が存在しないため別遺構とした。

建物 2

調査区北西部に位置する2間×2間の建物である。主軸方向は東北東-西南西。柱穴は40cmの円形で、柱間は1.5~1.6m。梁行3.0m×桁行3.2mで、平面積は9.6m²。南東列は柵列1と同一線上に位置し、柱間もほぼ同じである。柱穴の深さは20~30cmと比較的しっかりしたものであり、北西列が削平のため欠失したとは考えられないことから、別遺構と考えている。

建物3

調査区北西部の建物2の南側に位置する1間×3間の建物である。主軸方向は東一西。柱穴は10～20cmの円形で、柱間は梁方向で3.2mとやや長いが、桁方向で2.1m。梁行3.2m×桁行6mで、平面積は19.2m²。北東隅にはSKF75が存在する。

建物4

調査区中央部に位置する1間×3間の建物である。主軸方向は北一南。柱穴は10～20cmの円形で、柱間は梁方向2.2m、桁方向で1.7m。梁行2.2m×桁行5.2mで、平面積は11.5m²。

建物5

調査区中央よりやや西側に位置する2間×8間の総柱建物である。主軸方向は北北西一南南東。柱穴は20～30cmの円形で、柱間は1.4～1.6m。梁行3m×桁行12.2mで、平面積は36.6m²。

建物6

調査区中央よりやや北側に位置する2間×4間の建物である。主軸方向は北北西一南南東。柱穴は1mの円形、隅丸方形で、柱間は2.2～2.4m。梁行4.4m×桁行8mで、平面積は35.2m²。

建物7

調査区中央で建物6と重なる位置にある2間×5間の建物である。主軸方向は北北西一南南東。柱穴は60～80cmの楕円形、隅丸方形で、柱間は1.6～1.8m。梁行4m×桁行9.2mで、平面積は36.8m²。建物8と軸を同じにし、延長上に位置するが、東側に対応する柱穴が認められないため、別の建物跡としている。

建物8

調査区中央に位置する身舎3間×7間の総柱建物である。この身舎の南西部に半間×2間の庇と考えられる柱穴が付く。また、同じく東側にも半間×7間の庇と考えられる柱穴列が認められる。主軸方向は北北西一南南東。柱穴は60～80cmの円形、隅丸方形で、柱間は1.6～2.2m。身舎は梁行6m×桁行11.6mで平面積69.6m²あるが、庇を加えれば平面積は84.8m²となる。

建物9

調査区北東部に位置する2間×3間の建物である。主軸方向は東北東一西南西で建物7の直交方向にあたる。柱穴は30cm～1mの円形、隅丸方形で、柱間は2～2.2m。梁行4.2m×桁行6.5mで、平面積は27.3m²。

建物10

調査区中央よりやや東側に位置する2間×3間の建物である。主軸方向は東北東一西南西で建物8の直交方向にあたる。柱穴は30～90cmの円形、隅丸方形で、柱間は梁方向1.8m、桁方向で2.8m。梁行3.6m×桁行8.4mで、平面積は30.3m²。

建物11

調査区南西部に位置する1間×4間の建物で、南側に半間の庇が付く。主軸方向は東一西。柱穴は20cmの円形、柱間は2.4～2.6m。梁行2.8m×桁行11.4mで、平面積は31.9m²。

建物12

調査区南西部に位置し、建物11と軸を同じにする3間×5間の建物で、南側に半間の庇が付く。主軸方向は東一西。柱穴は20cmの円形、柱間は中央で1mと狭いが、他は2.4～2.6m。梁行7.4m×桁行11.4mで、平面積は84.4m²。中央部分の柱間が狭いことから、2間×3間規模の建物が2棟隣接するとも考えたが、建物11との関係から3間×5間の建物と想定した。

柵列

周辺で復元した建物の柱穴と同規模、同形状のもので、建物復元に至らなかったピット列を柵列として示した。

柵 1

調査区北側に位置する。柱間は1.8mで、建物1、建物2と軸を同じにする。

柵 2

調査区北東部に位置する。柵列1と直交する。柱間は2m。

柵 3

調査区北東部に位置し、柵列2とは直交関係にある。柱間1.2mを測る。

第8節 G区

(1) 調査区の状況(第52図)

遺跡の中央部に設定した細長い調査区である。旧中小路集落の南辺部に位置し、水路が予定される箇所である。

調査区の基本層序は、第1層：褐色土(水田耕作土)、第2層：灰黄色砂質土(水田底土)、第3層：暗灰黄色土、第4層：黄色粘質土(地山)である。第3層は、東に向かいその厚みがなくなり、調査区中央より東側では堆積そのものが認められない。遺構は、西半区ではこの第3層上面で検出されたが、東半区では第4層地山面で検出された。また、検出された遺構は何れも深さは浅く、後世の水田化に伴う削平により、多くの部分の遺構が掘削されたものと考えられる。

(2) 遺構

G区では、ピット20基、土坑1基が検出された。遺構分布は、東側で少なく、西側で比較的多いものの、全体として密度は疎である。調査区の幅が1mあまりということもあり、建物は想定されない。土坑は平面形が楕円形で、北側は調査区域外に続く。規模は長径0.9m以上、短径0.7m、深さ0.3mを測る。

第9節 H区

(1) 調査区の状況(第54図)

調査区は、1辺60m×70m×70mの三角形の調査区である。南側は県道白上横田線予定地に接し、これに伴う発掘調査区に接する。表土を重機で掘削後、人力による掘削、精査を行ったが、南西隅では表土除去後1~2cmで地山が表出した。地山のレベルは南西隅が最も高く、北東方向に放射状に下がっていき、最も低い北東端とのレベル差は1.2mを測る。なお、調査区の全体を調査するには期間が確保できないことから、この結果を基に事業者と協議を行い、調査区のおよそ1/3にあたる北側から東側の一部について保護層の確保が可能との判断により、調査対象地から除外し、現地に保存されることとなった。

基本層序は、第1層：黒褐色土(水田耕作土)、第2層：褐色土(遺物包含層)、第3層：黄褐色粘質土、第4層：明黄褐色土(地山)である。

(2) 遺構

検出された遺構には、ピット847基があり、このうち2棟の掘立柱建物を復元することができた。この他、土坑10基、溝状遺構2条が検出されている。検出された遺構は全体的に浅く、削平を受けているものと思われる。また、暗渠排水が無数に検出されているが、これによる遺構の欠失も目立つ。ここでは、掘立柱建物跡について述べる。

掘立柱建物跡

復元された掘立柱建物2棟は、いずれも調査区北東端で検出されたが、さらに調査区域外へと統いており、全体規模の検出には至っていない。また、2棟の建物は軸方向をそろえる形で復元でき、重複関係が認められるものの、新旧関係は不明である。

建物 1

2間×4間以上の建物。主軸方向は北東一南西。柱穴は20cmの円形、柱間は1.4~1.8m。梁行4m×桁行5.6m以上で、平面積は22.4m²以上である。

建物 2

2間×4間以上の建物。主軸方向は北東一南西。柱穴は20cmの円形、柱間は1.2~1.4m。梁行2.1m×桁行5.6m以上で、平面積は11.8m²以上である。

第10節 I 区

(1) 調査区の状況(第53図)

I区は、遺跡が立地する微高地の南縁に位置する。その南側は谷底地形で比高差50~70cmを測る水田で、北側は県道白上横田線予定地に接する。

この調査区は、調査対象地として事前に調査を実施する必要があるとして事業者と協議が済んでいた場所であったが、工事業者との行き違いから無断工事が行われ、南側の水田面まで掘削が行われた。これに対し、厳重注意の指導のうえ調査に着手した。

調査は、当初予定の1/3程度、2m×40mの調査区で実施した。表土は重機で除去したが、その後1~2cmで地山面に達した。遺構はこの地山面で検出された。ピットが42基検出されたが、その大半は深さ10cm未満の浅いものであり、後世の水田化に伴う削平を受けたものと考えられる。

第11節 まとめ

中小路遺跡において2年間に渡り発掘調査を実施した。遺跡の範囲は4~5万m²と推定されており、それから見れば1/4~1/5程度の部分的な調査であり、全容解明にはまだ時間を要するのかもしれない。しかし、一方で今回の調査でこの遺跡の特徴的な部分が明らかになったのも事実であろう。以下にまとめをしておく。

①弥生時代の集落について

A~C区の遺跡北東部を中心に弥生時代の遺構がまとまって見つかっている。竪穴住居跡9棟、土器棺墓10基、環濠の可能性のある溝状遺構1条である。

竪穴住居跡については、ほぼ完全な形で検出されたのは1棟であり、不確定部分が多々残されているが、後期初頭の2号・7号住居、後期前葉の1号・3号住居、後期中葉の4号住居、後期後葉の6号住居の変遷が遺物より認められる。この変遷を、地形で見ると、北端の微高地先端部から徐々に高目に移動したと解釈できる。

次に、土器棺墓について述べる。A区で8基、E区で2基検出された。A区の4号墓を除き、全て合わせ口の上器棺である。ただし、E区のSKE21は覆い口である。E区で見つかった土器棺は、それぞれ単体のものであるが、A区については明らかに上器棺による墓域を形成している。土器棺は、埋葬者の手がかりが見つかっておらず、断定はできないが、通説に頼れば、乳幼児の墓であり、乳幼児のみの墓域である可能性が高い。周辺で他に土壙墓が見つかっておらず、成人の埋葬形態は不確定であるが、この中小路遺跡に関しては、成人と乳幼児とでは埋葬場所のすみ分けがなされていたと考えられる。使用されている土器については、在地の甕と考えられるものも数点存在するが、いわゆる瀬戸内西部の複合口縁甕の多用が特徴であろう。家下遺跡でも土器棺墓が検出されたことは前述したとおりであるが、それらはいずれも、いわゆる山陰系複合口縁の甕を合わせ口としたものであったが、中小路遺跡の土器棺墓には山陰系複合口縁の甕・甕を用いたものはない。E区の土器棺墓2基は概ね弥生中期末から後期初頭に属し、A区の土器棺墓群は概ね弥生後期の前半に属す。

環濠の可能性のある溝状遺構は、C区で検出された。弥生時代の集落の西端を示していると考えられる。この溝状遺構の掘削時期は、遺物から弥生中期末から後期初頭と比定され、隣接する羽場遺跡で見つかった中期の環濠との、ひいては集落間の関連が今後の課題ではないだろうか。

次に、出土した遺物について、いくつか注目すべきを述べておく。1つには、防長系・安芸方面の土器などいわゆる瀬戸内西部の土器が多数混在していることである。高津川を利用した交流が想定されるところであるが、一方で調査がごく限られた範囲であった事実はあるものの同じく高津川に沿った家下遺跡で現在のところ皆無であることは、新たな課題となるだろう。次に石器の存在である。少なからず出土している石器には、製品から製作途中の未製品、砥石などがあり、中小路遺跡の性格を考える上で注意すべきことである。

②奈良～平安時代の集落について

F区において掘立柱建物跡が12棟検出された。出土している遺物が小片であることから、時期の特定は難しいが、周辺で出土している遺物なども併せ考えれば奈良時代後半から平安時代の初頭に属すとして大過ないだろう。

特に注目すべきは、建物1、建物2、建物6、建物7、建物8、建物9、建物10、そして建物復元はできていないがSKF90、SKF94の大型の柱穴をもつ建物群である。柱穴規模が1m近くある円形あるいは隅丸方形の柱穴が規則的に並ぶ大型の建物跡が想定され、官衙関連の建物跡ではないかと考えている。併せて、中小路の地名が古代の荘園の役職の1つである「荘司」の音韻転訛ではないかとも考えているが、これらを積極的に肯定できる遺物などは見つかっていないことから、これまでに大量に出土している遺物をあらためて整理するなど、今後の検討課題としておきたい。

③その他の出土遺物について

これまでに、遺構に伴う遺物について幾つか述べてきたが、遺構外の遺物で注意すべきものについて触れておく。1つはA区で出土した縁釉陶器である。1点のみの出土であるが、近隣では羽場遺跡、下都茂原遺跡など限られた遺跡でのみ出土している。その色調から、長門系と考えられる。次に注意すべきものに、A区、B区で出土した刀剣がある。調査では古墳時代の遺物はほとんど見つかっていないが、周辺に古墳が存在していた可能性も想定される。

第5章 総括

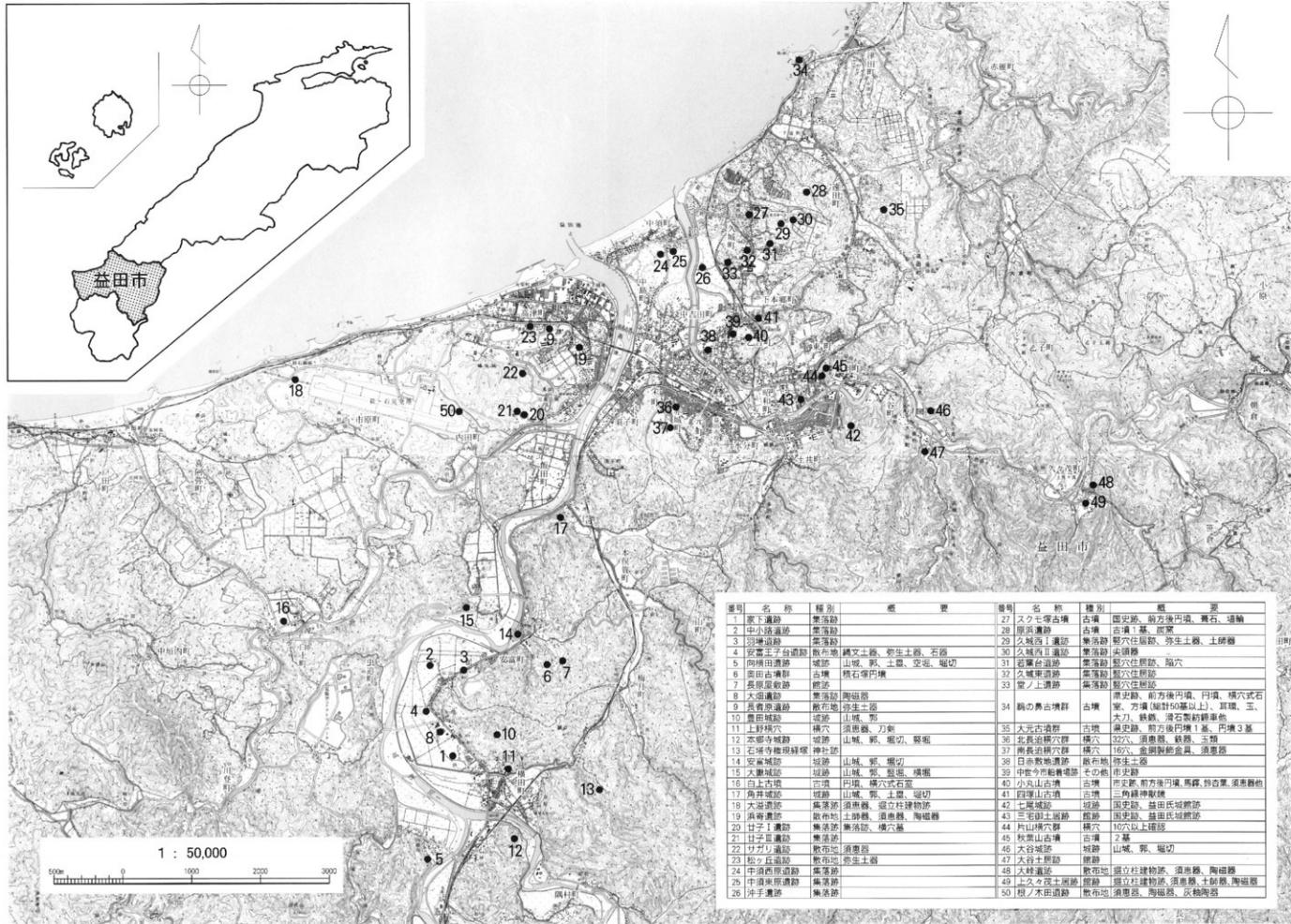
家下遺跡で1年、中小路遺跡で2年に及ぶ発掘調査からは、多くの事実が確認されたと考える。特に中小路遺跡に関しては、これまで益田市においてよくわかっていたいなかった弥生時代の大規模集落の様相を、大量の遺物とともに提供してくれた。しかし、調査者の経験不足、非力から上述してきたこと以外にも重要なことが看過された恐れは残念ながらあるし、率直に認め、反省するところである。報告書作成を終えるにあたり、あらためて大量の遺物を眺めてみる。弥生土器に関していなか舎代表の田中義昭氏より、石器に関して島根県埋蔵文化財調査センターの丹羽野裕氏より、陶磁器に関して島根県埋蔵文化財調査センターの西尾克己氏よりそれぞれ貴重なご指摘、ご指導をいただきたにもかかわらず、本報告において、紙面や時間的制約から省略した遺物、言及できなかつた遺物は数多く存在する。コンテナ(縦36cm×横52cm×高さ30cm)換算にして、家下遺跡で39箱、中小路遺跡で284箱に及ぶ遺物を今一度見直し、あらためて報告する機会を持ちたいと考えている。次の多い報告書であるが、本書をたたき台としてご活用いただき、諸賢の寛容で深い洞察によって欠が補われ、家下遺跡、中小路遺跡の性格がより詳細に解明されることを期すところである。

現地調査から報告書刊行まで多くの機関と方々にご指導・ご協力をいただいている。報告を終え

るに当たり、あらためて深甚の感謝を申し上げる次第である。

参考文献

- ・益田市教育委員会『安富王子台遺跡発掘調査概報』1981年3月
- ・正岡暎夫・松本岩雄 編『弥生土器の様式と編年』一山陽・山陰編—1992年5月 木耳社
- ・日本貿易陶磁研究会『中世後期における貿易陶磁器の様相』—日本貿易陶磁研究集会中国大会資料集—2002年6月
- ・日原町教育委員会『萬世溢遺跡』—鹿足地区中山間総合整備事業に伴う発掘調査報告書—2003年3月
- ・六日市町教育委員会『沖塙遺跡』—注連川地区営圃場整備(担い手育成型)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—2003年3月
- ・島根県教育委員会『石見空港建設予定地内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書』1992年3月
- ・益田市教育委員会『下都茂原遺跡』—益美2期地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書—2007年3月
- ・益田市教育委員会『酒屋原遺跡』—益美地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書—2005年3月
- ・島根県教育委員会『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XVI 『古志本郷遺跡V』出雲国神門郡家閑連遺跡の調査 2003年3月
- ・出雲市教育委員会 市道本郷新宮線道路改良工事に伴う『古志本郷遺跡第6次発掘調査報告書』1998年3月
- ・山本一郎『周防古王国の研究』—山本一郎選著記念著作集—1995年12月
- ・邑智町教育委員会『沖大遺跡』主要地方道木波多線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001年3月
- ・石井龍彦『山口県西部の弥生時代後期半～古墳時代初頭の土器について』『陶埴』第13号 山口県埋蔵文化財センター年報—平成11年度— 2000年9月
- ・乗安和二三『防長地域における弥生時代の土器棺墓について(1)』『陶埴』第13号 山口県埋蔵文化財センター年報—平成11年度— 2000年9月
- ・石井龍彦『山口県東部(周防)の弥生時代後期の十器について』『陶埴』第17号 山口県埋蔵文化財センター年報—平成15年度— 2004年9月
- ・若島一則「広島湾沿岸における弥生時代後期上器等に関する一考察」『研究連絡誌 I』平成13年度 財團法人広島市文化財団 2002年
- ・江津市教育委員会『高津遺跡』—都治地区営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書 II—2005年3月
- ・山雲市教育委員会『白枝荒神遺跡』—市道松寄下小山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—1997年3月
- ・角南聰一郎『西日本の土器棺墓と埋葬遺体』『奈良大学大学院研究年報4』奈良大学大学院 1999
- ・角南聰一郎『土器棺の副葬品』—西日本の状況—『文化財学報』17集 奈良大学文学部文化財学科 1999
- ・島根県教育委員会『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1980年3月
- ・山口県教育委員会『よみがえる弥生のムラ 一突抜・馬場遺跡—』山口県埋蔵文化財発掘調査報告書 第87集 1985年
- ・周陽考古学研究所『山口県の弥生式土器 一集成と編年—』周陽考古学研報2 1979年
- ・山口県教育委員会『宮ヶ久保遺跡』山口県阿東町埋蔵文化財調査報告 第1集 1998年
- ・島根県教育委員会 一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書2『浜寄・地方遺跡』—1 A・1 B・1 C・1 D・1 F・2 A・2 C・2 F・2 G区の調査— 2006年3月
- ・独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所『古代の官衙遺跡』I 遺構編 2003年3月



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図



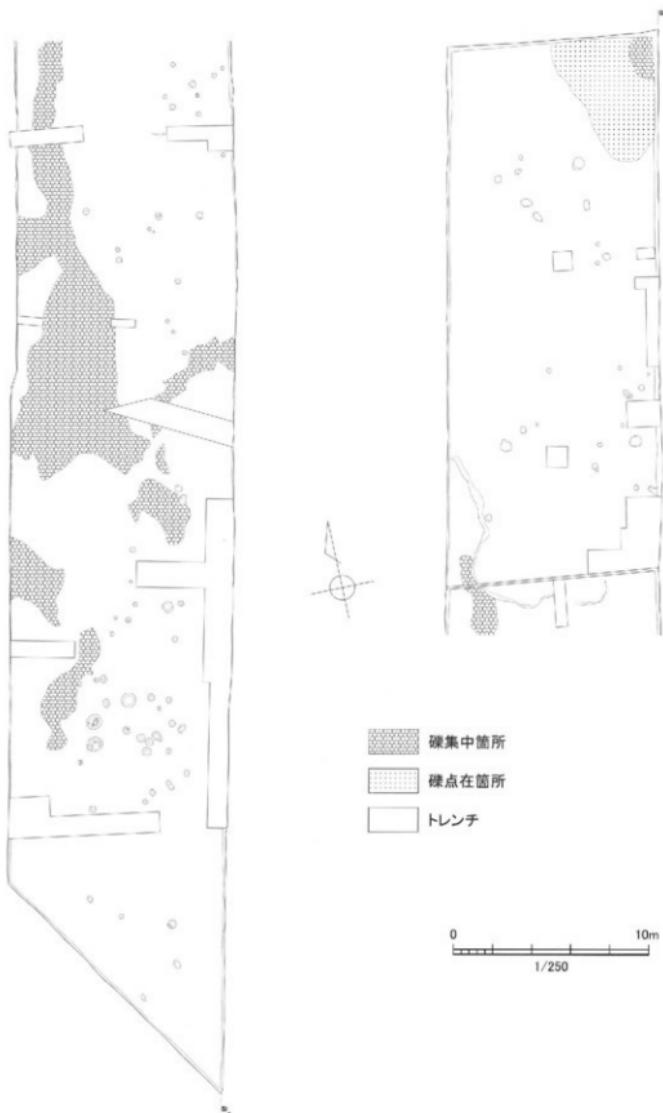
※遺跡番号は第1図と同じ。

0 100 500m

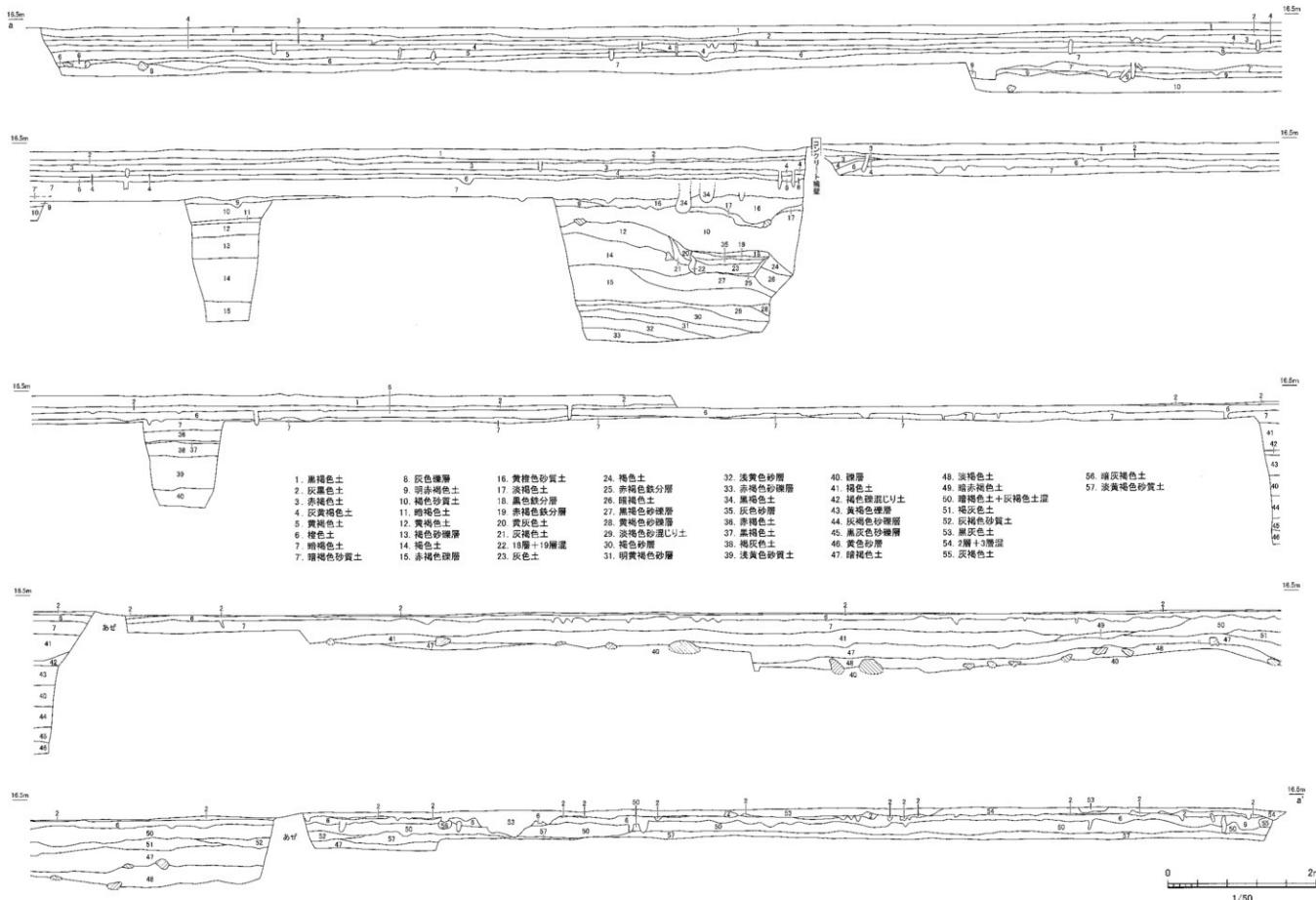
第2図 平野内における遺跡の位置と周辺の遺跡



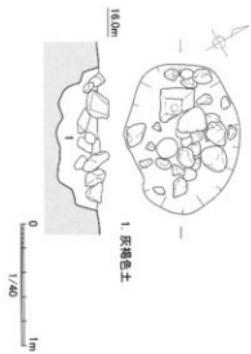
第3図 家下遺跡調査区配置図



第4図 A区遺構配置図

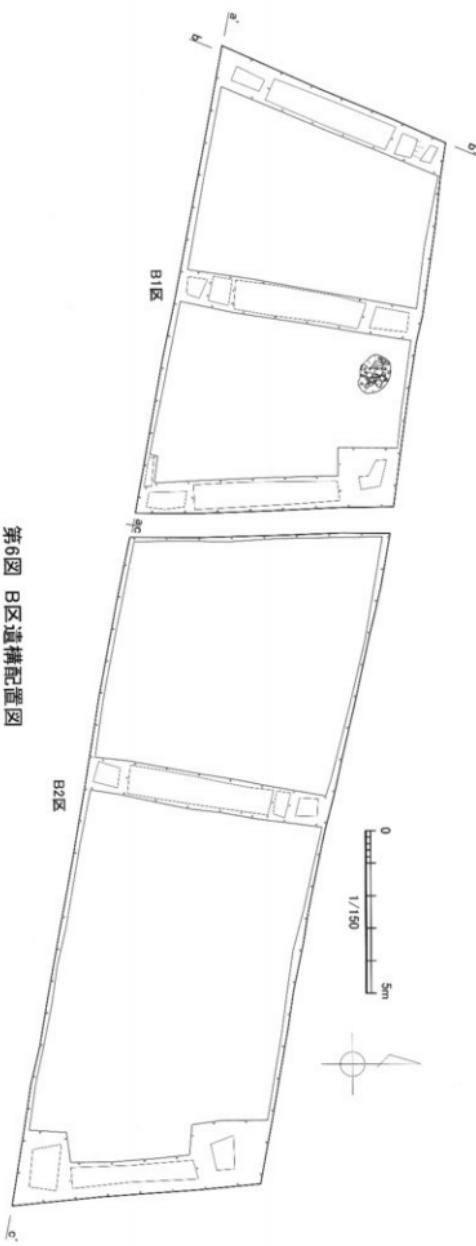


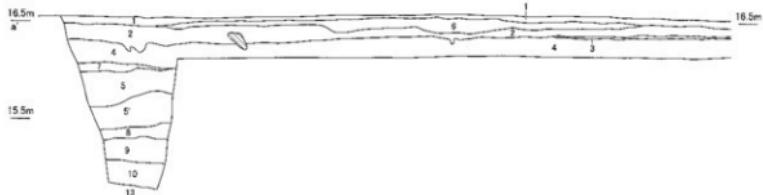
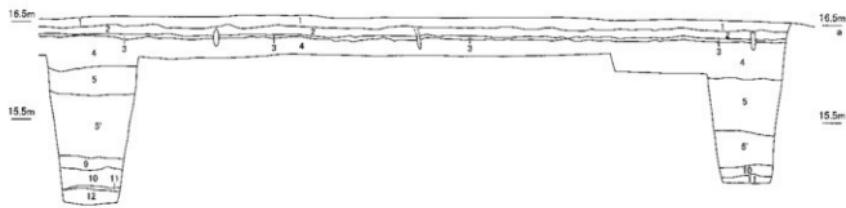
第5図 A区土層断面図



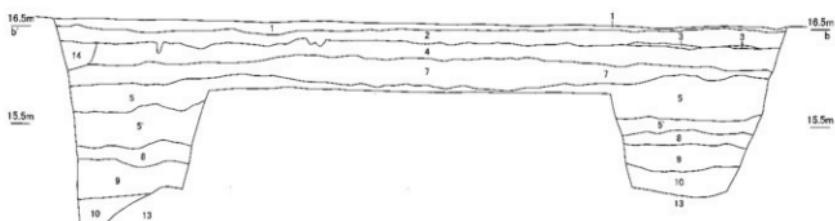
第7図 土坑平面図及び断面図

第6図 B区遺構配置図





<南壁>

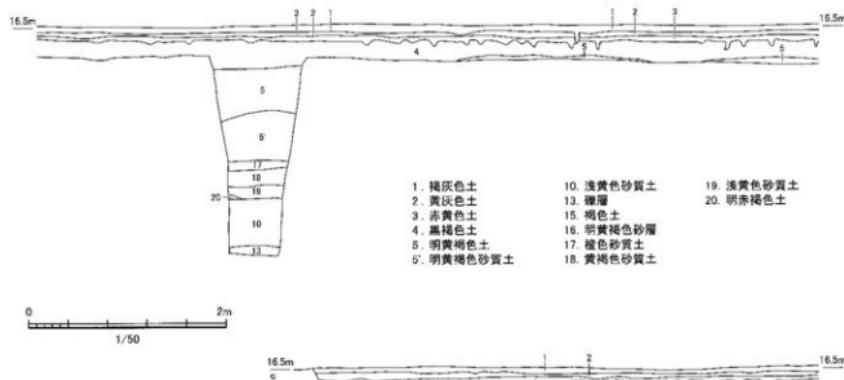
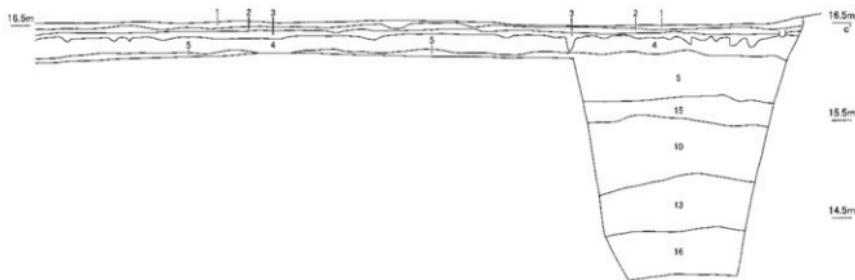


<西壁>

- | | | | |
|----------|-------------|-------------|------------|
| 1. 棕灰褐色土 | 5. 明黄褐色土 | 8. 明黄褐色砂泥じ土 | 12. 明黄褐色砂層 |
| 2. 黄灰色土 | 5'. 明黄褐色砂質土 | 9. 黄褐色土 | 13. 硬層 |
| 3. 赤黃色土 | 6. 灰色土 | 10. 淡黃色砂質土 | 14. 灰黃褐色土 |
| 4. 黑褐色土 | 7. 棕灰色土 | 11. 棕色砂質土 | |

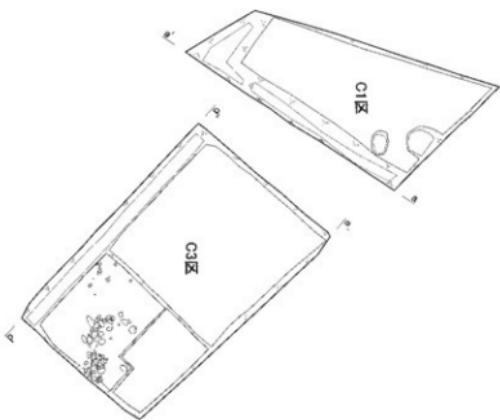


第8図 B1区土層断面図



第9図 B2区土層断面図

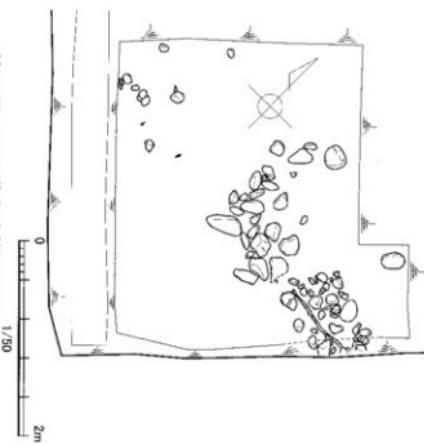
0
5m
1/150

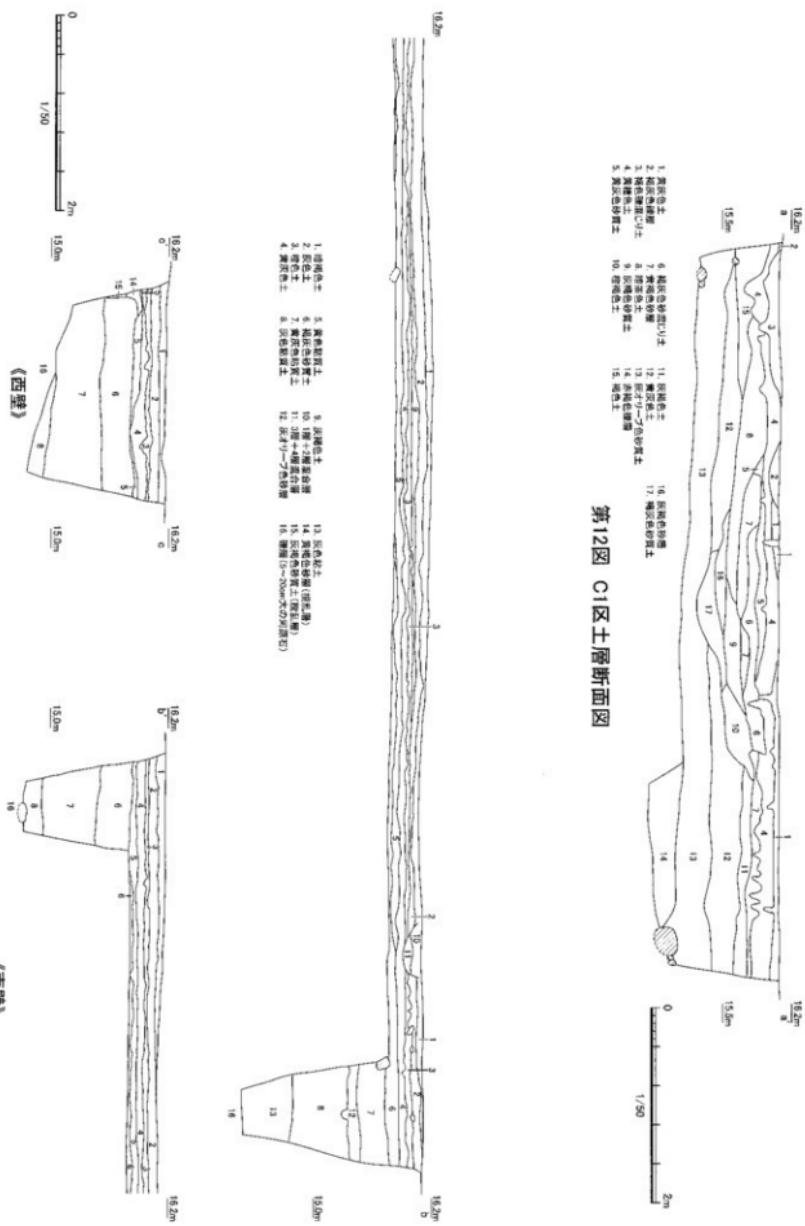


第10図 C区調査区配置図



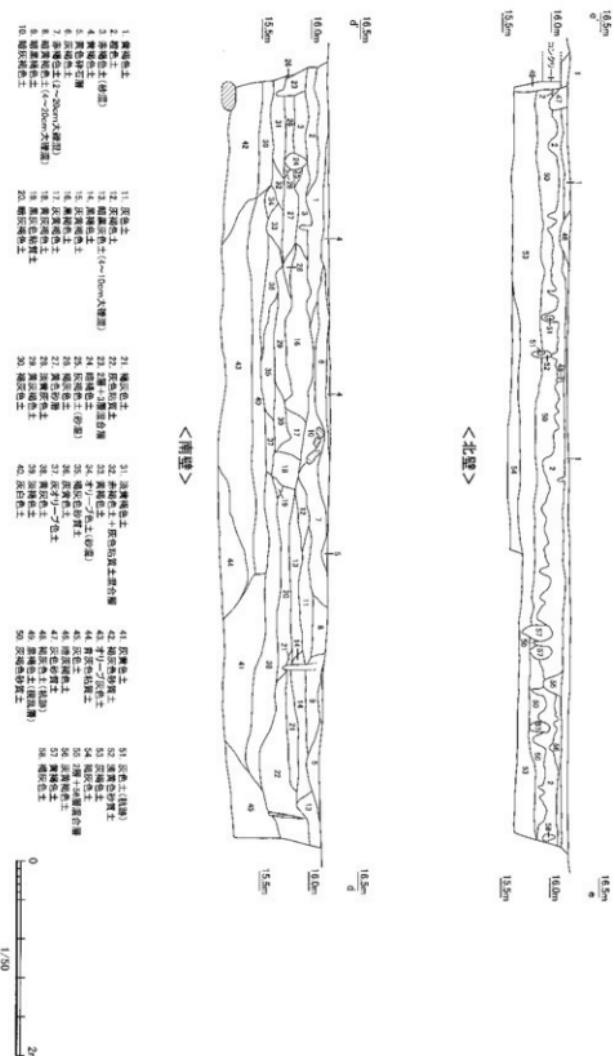
第11図 C3区護岸遺構平面図



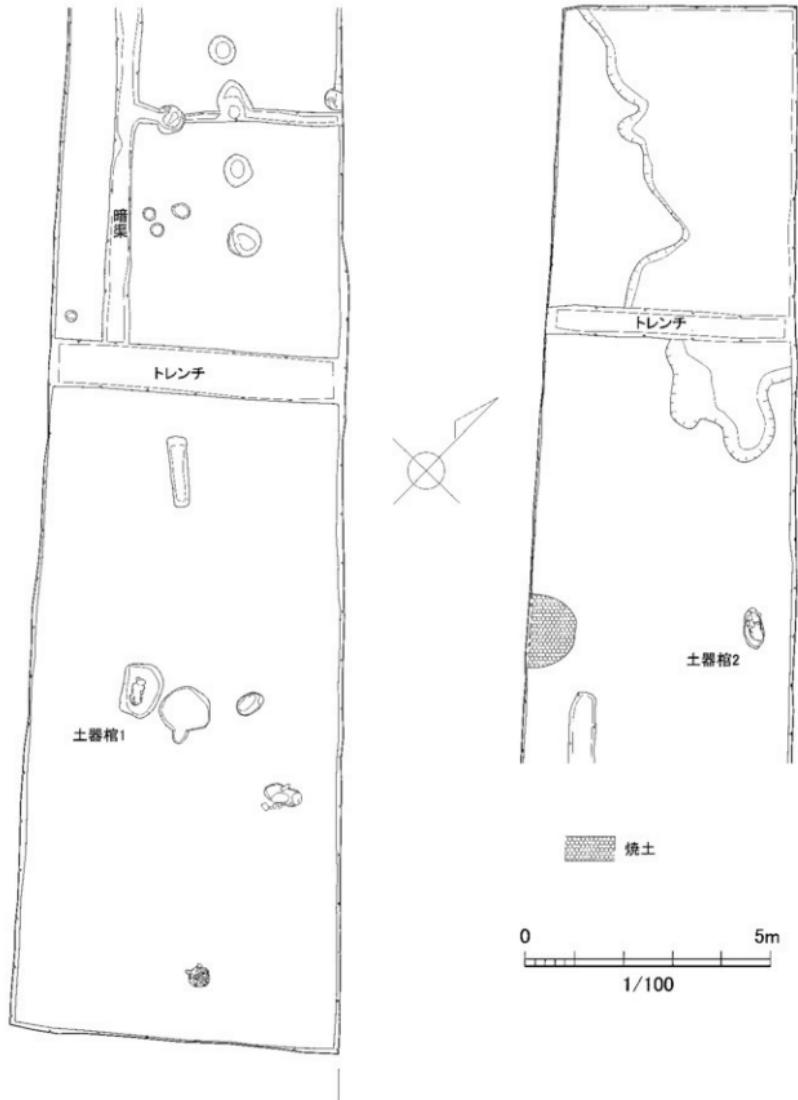


第13図 C2区土層断面図

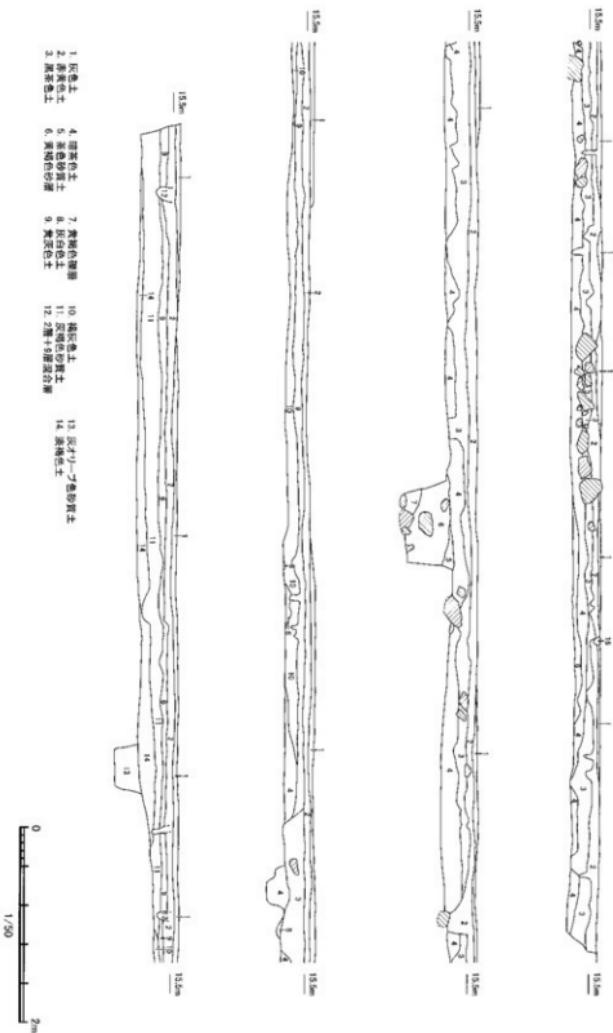
南壁



第14図 C3区土層断面図



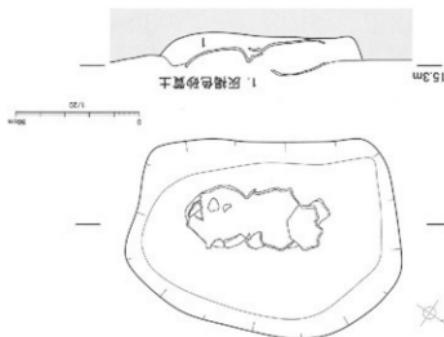
第15図 D区遺構配置図



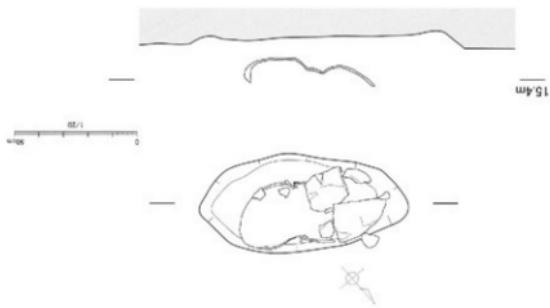
第16図 D区土層断面図

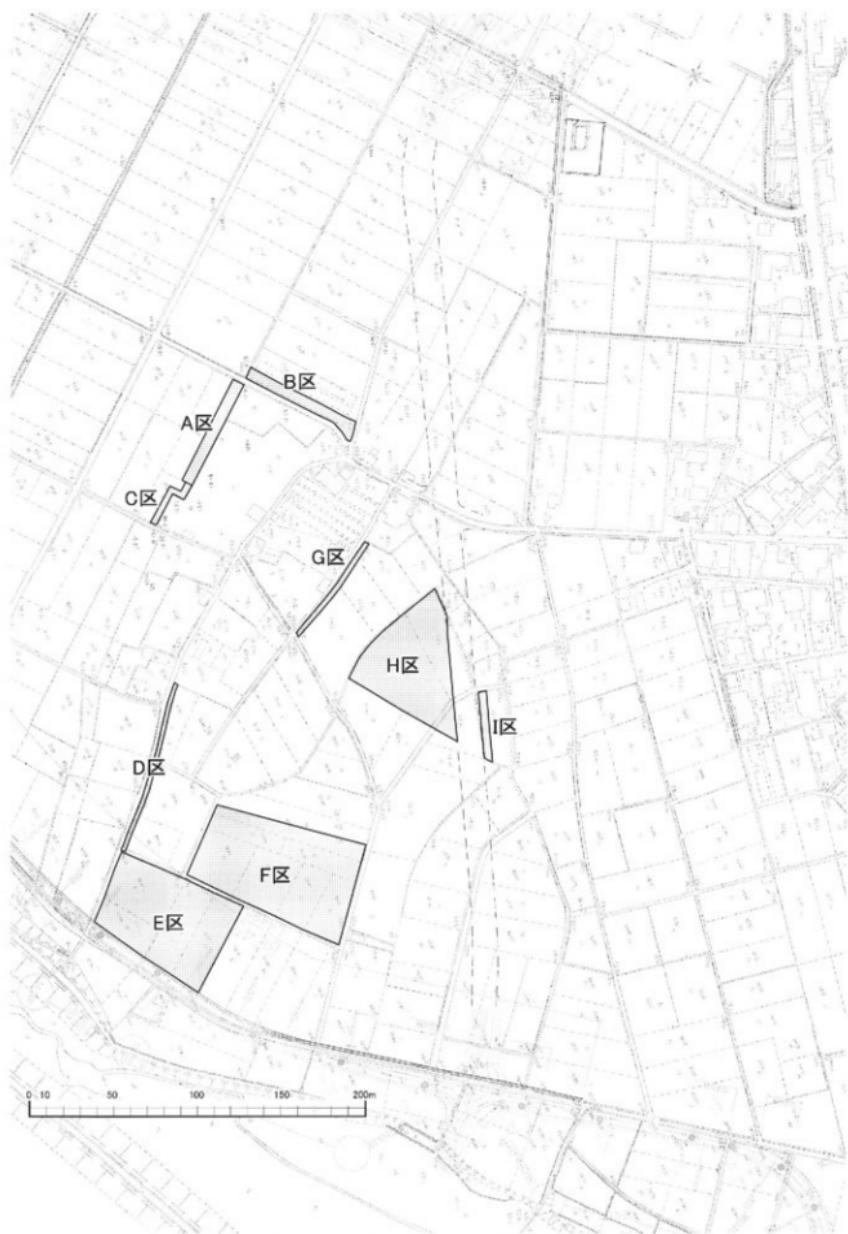
第17图 土器残基平面图及仰断面图

<2号墓>

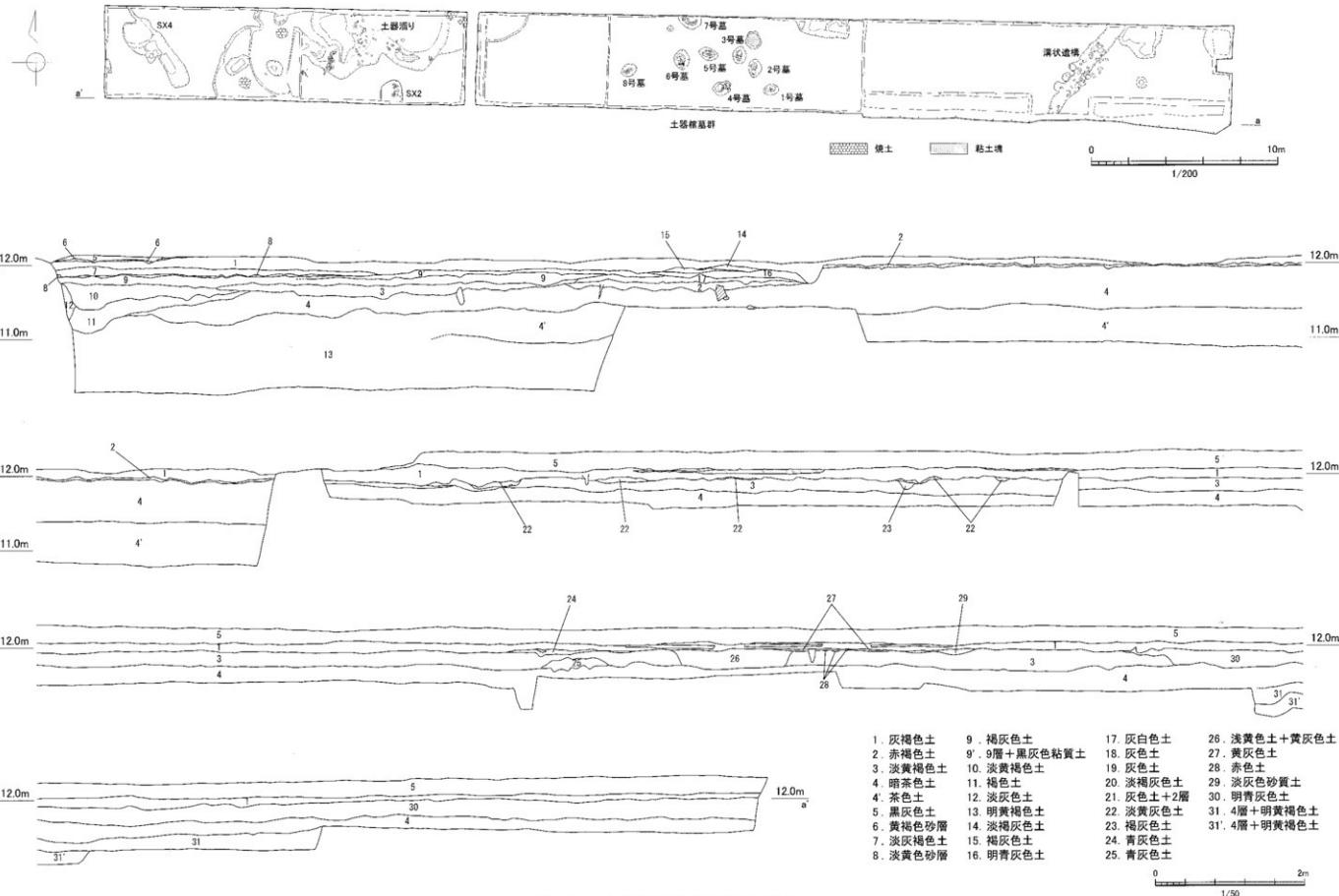


<1号墓>

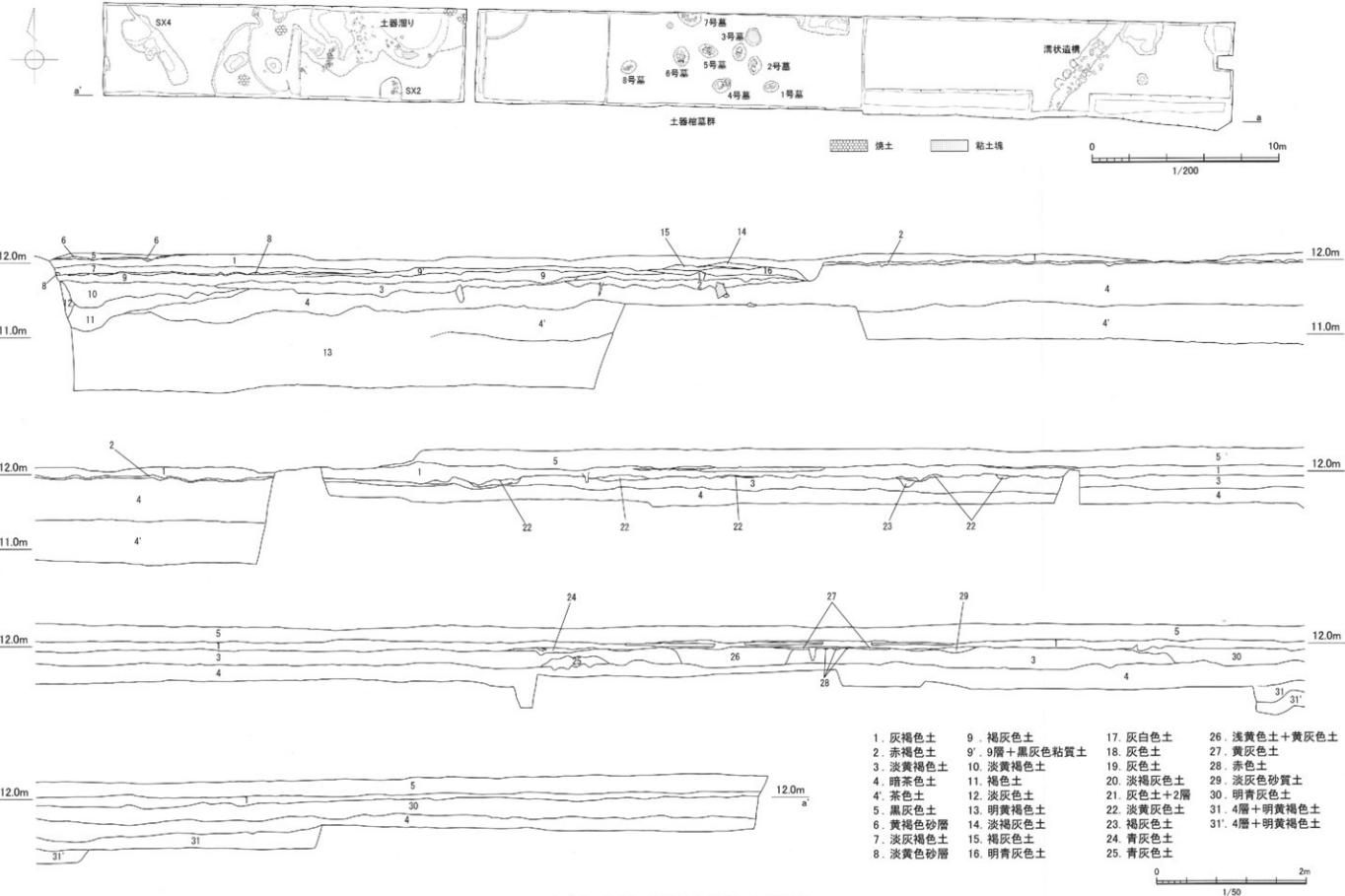




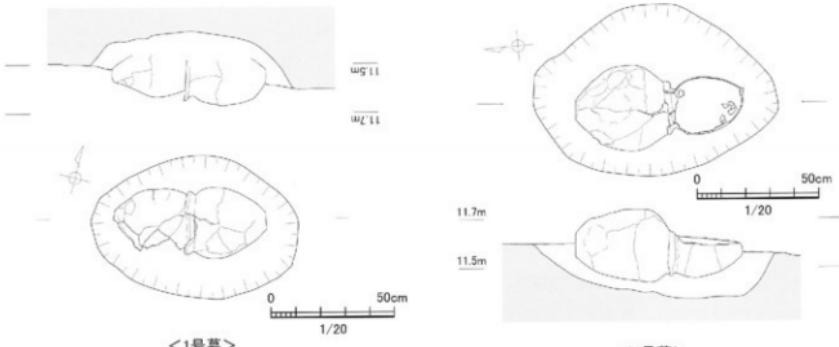
第18図 中小路遺跡調査区配置図



第19図 A区遺構配置図及び土層断面図

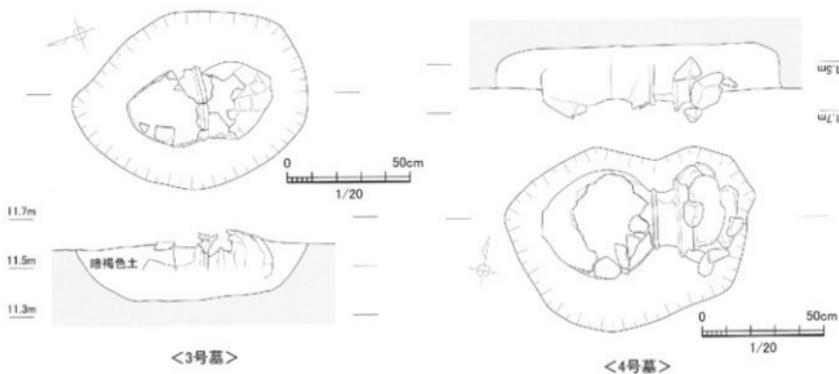


第19図 A区遺構配置図及び土層断面図



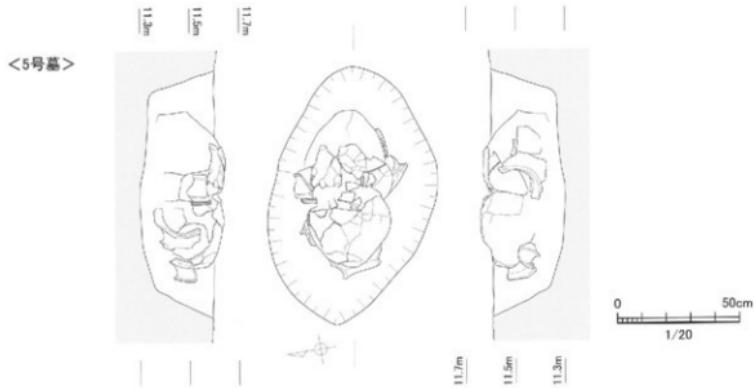
<1号墓>

<2号墓>

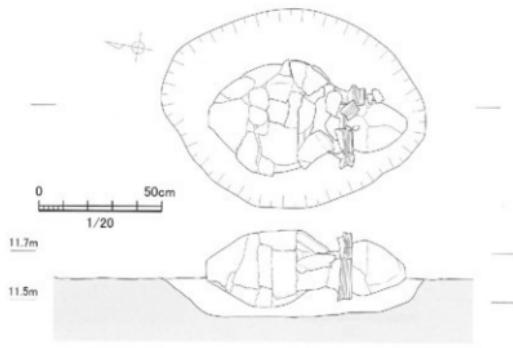


<3号墓>

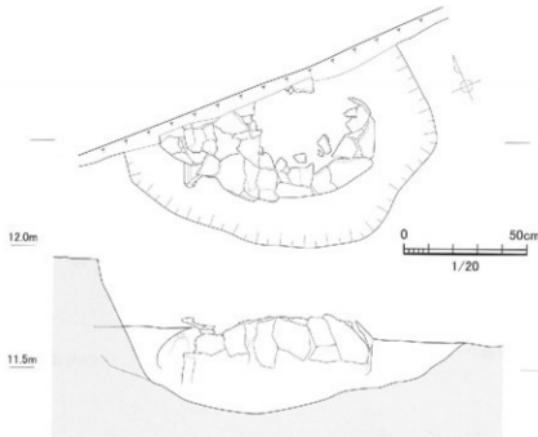
<4号墓>



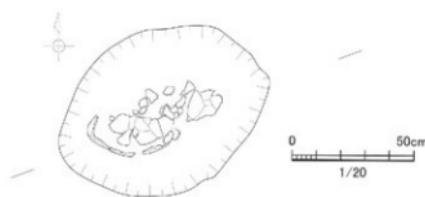
第20図 A区土器棺墓平面図及び側面図①(1~5号墓)



<6号墓>

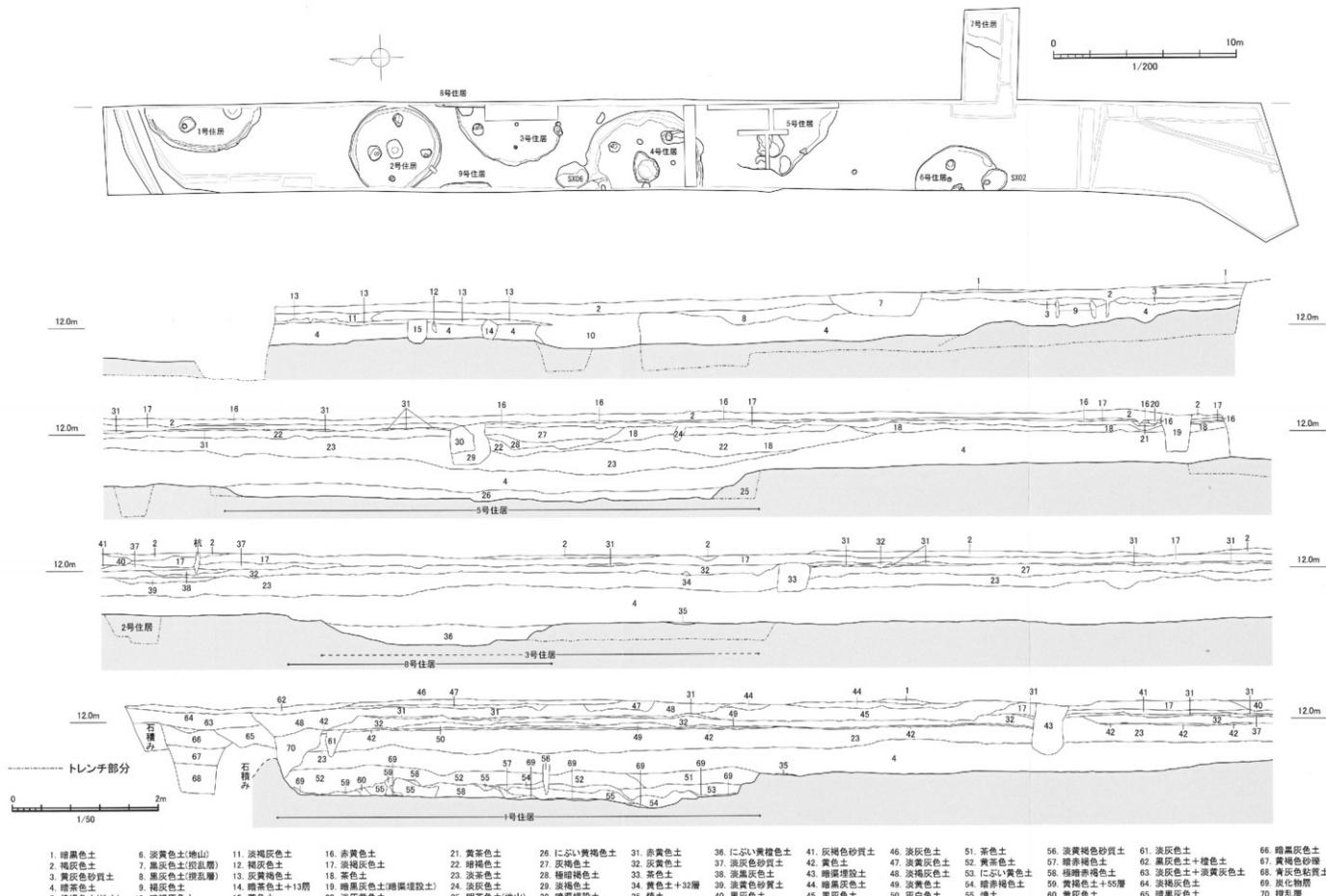


<7号墓>

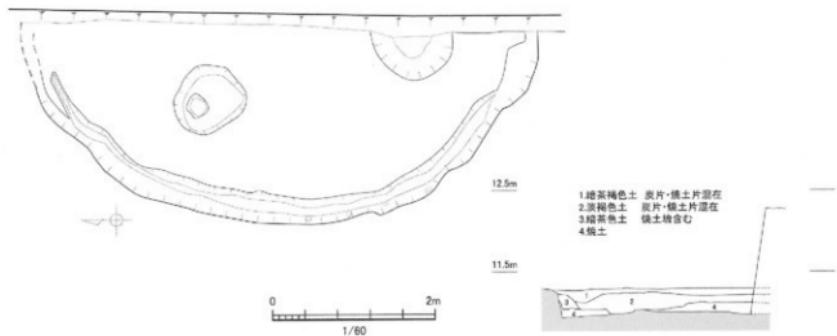


<8号墓>

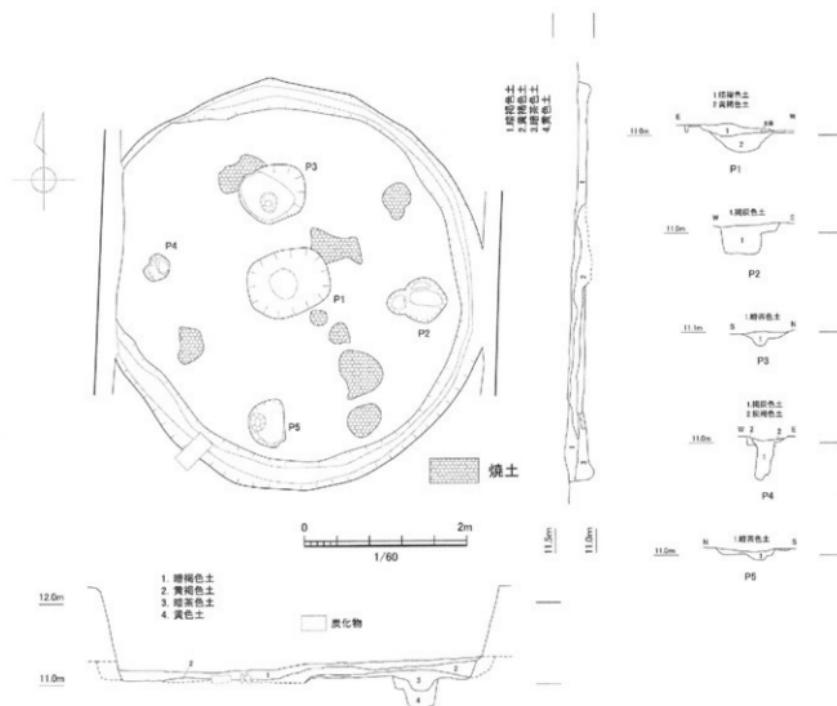
第21図 A区土器棺墓平面図及び側面図②(6~8号墓)



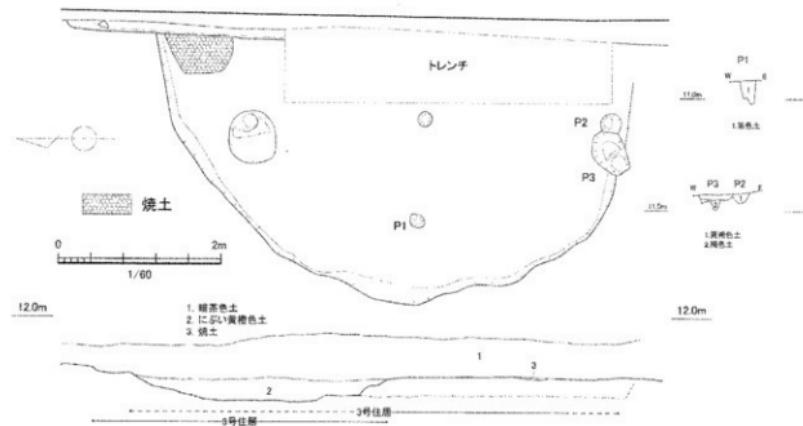
第22図 B区遺構配置図及び土層断面図



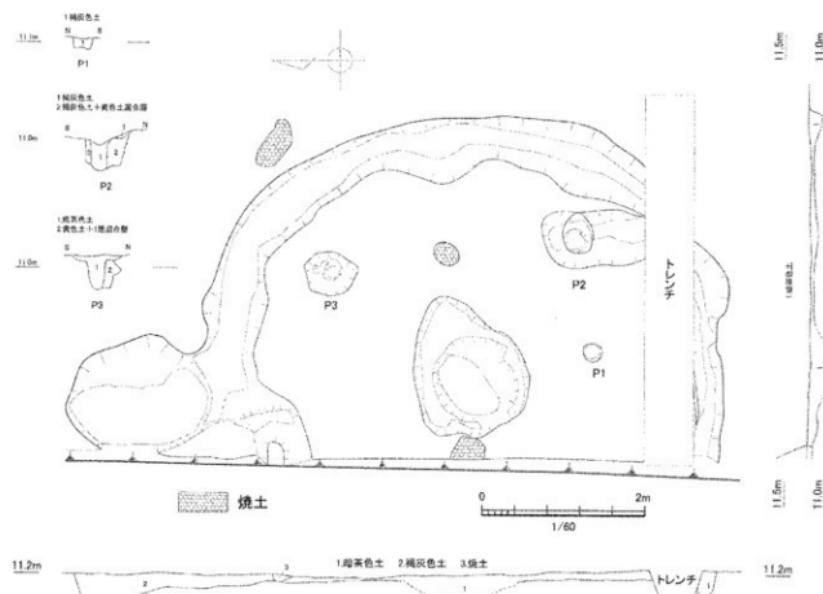
第23図 1号住居平面図及び断面図



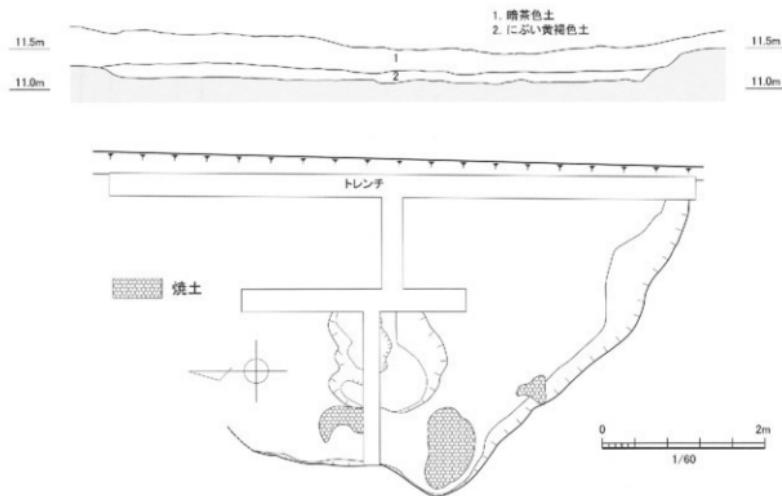
第24図 2号住居平面図及び断面図



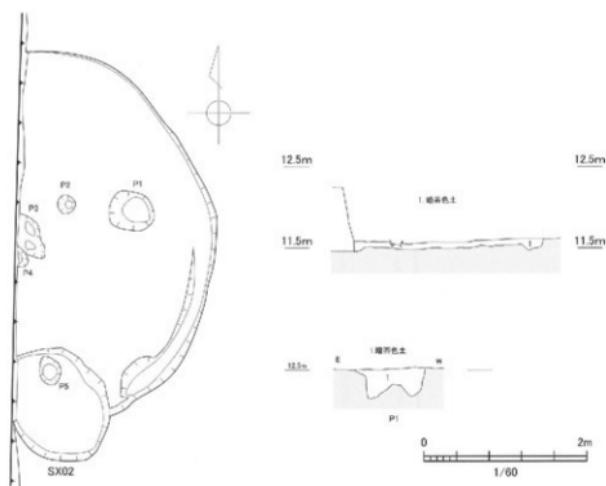
第25図 3号及び8号住居平面図及び断面図



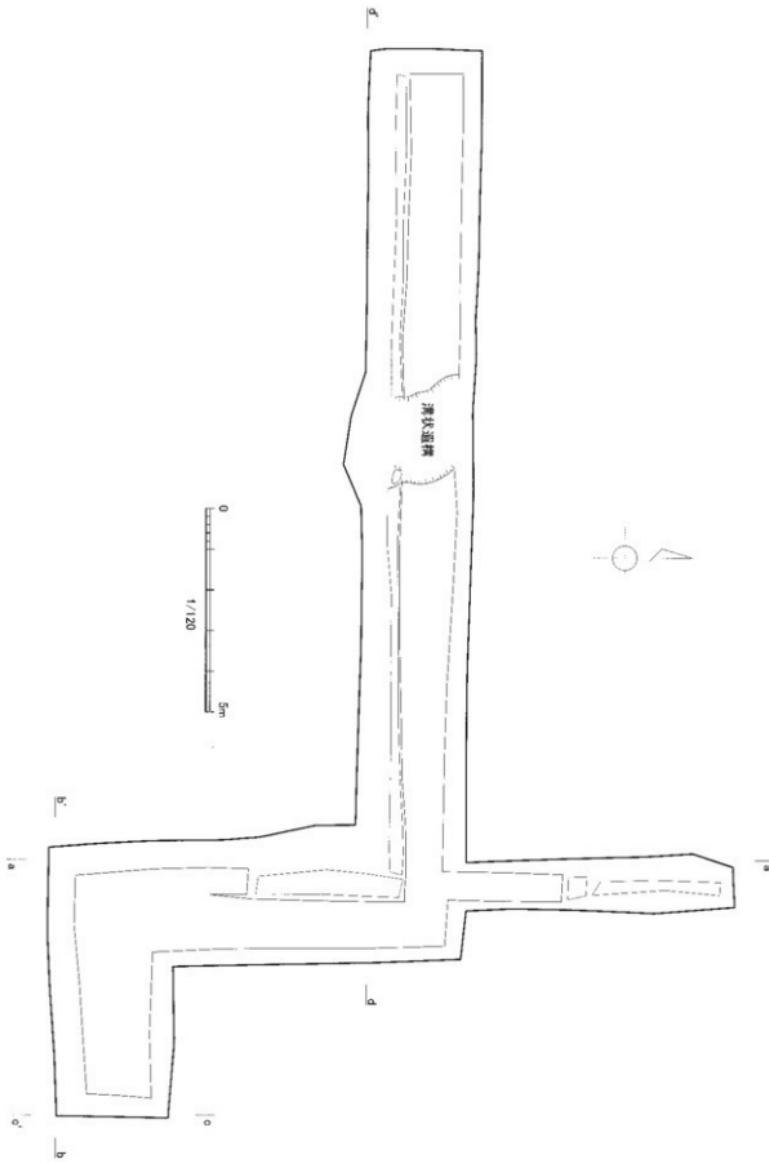
第26図 4号住居平面図及び断面図



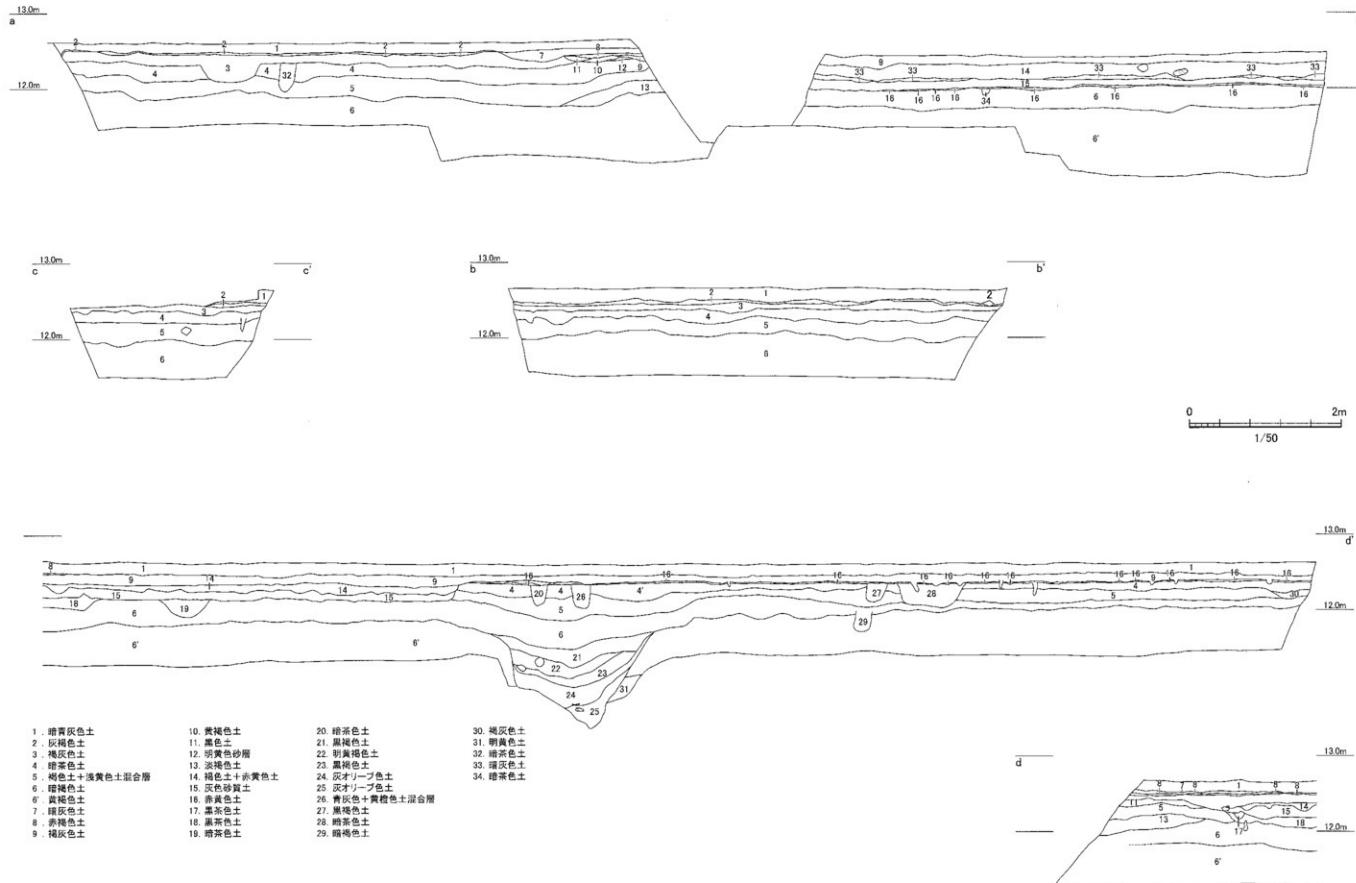
第27図 5号住居平面図及び断面図



第28図 6号住居平面図及び断面図



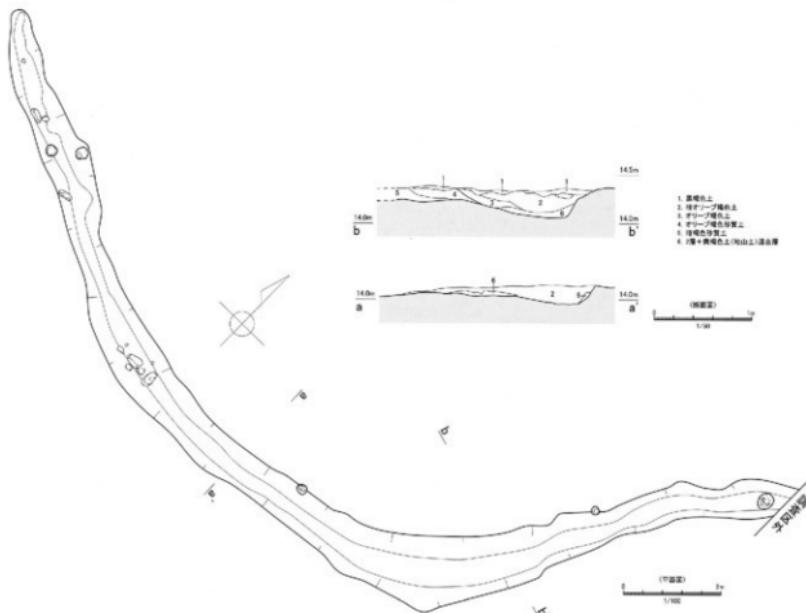
第29図 C区遺構配置図



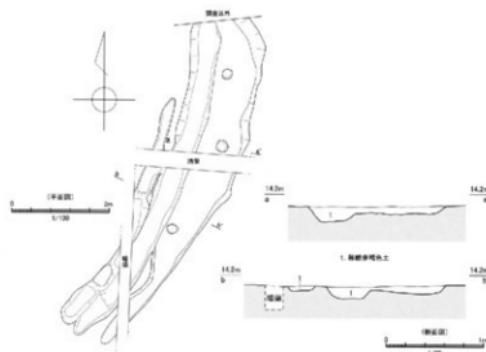
第30図 C区土層断面図



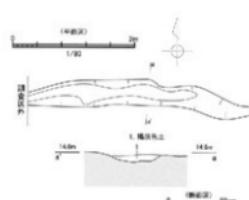
第31図 E区遺構配置図



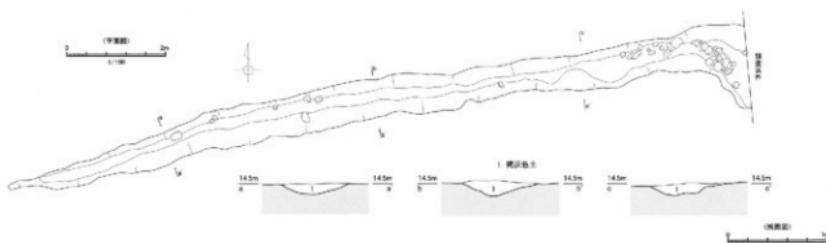
第32図 SDE1平面図及び土層断面図



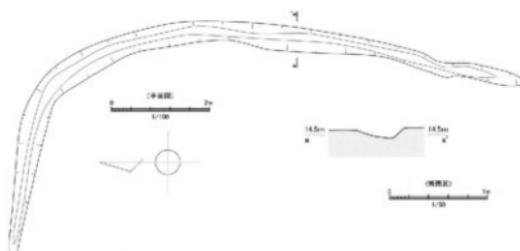
第33図 SDE2平面図及び土層断面図



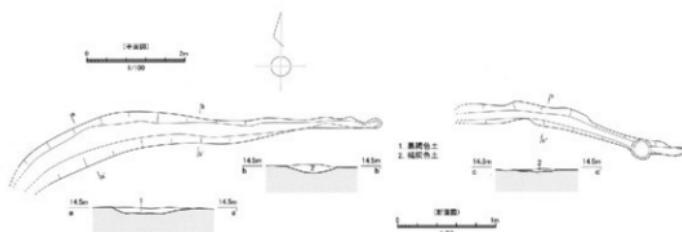
第34図 SDE3平面図
及び土層断面図



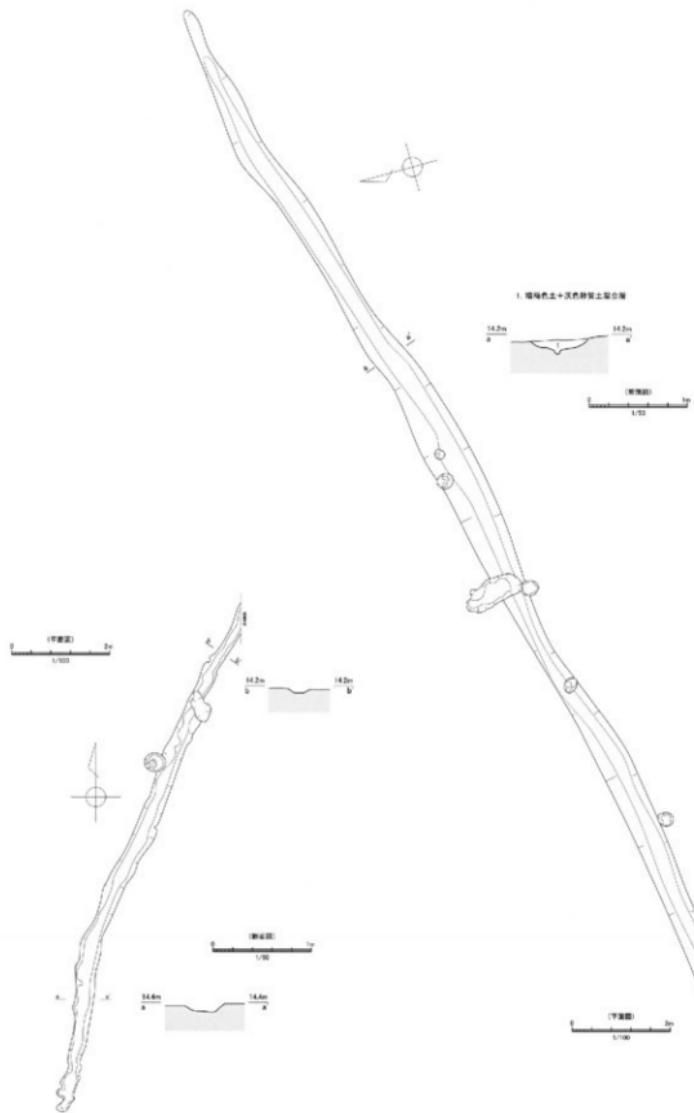
第35図 SDE4平面図及び土層断面図



第36図 SDE5平面図及び土層断面図



第37図 SDE6平面図及び土層断面図

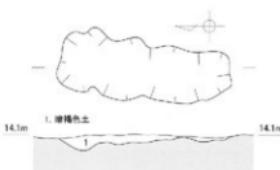


第38図 SDE7平面図及び土層断面図

第39図 SDE8平面図
及び土層断面図



<SKE1>



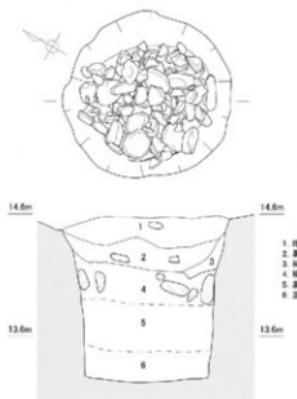
<SKE3>



<SKE2>



<SKE4>



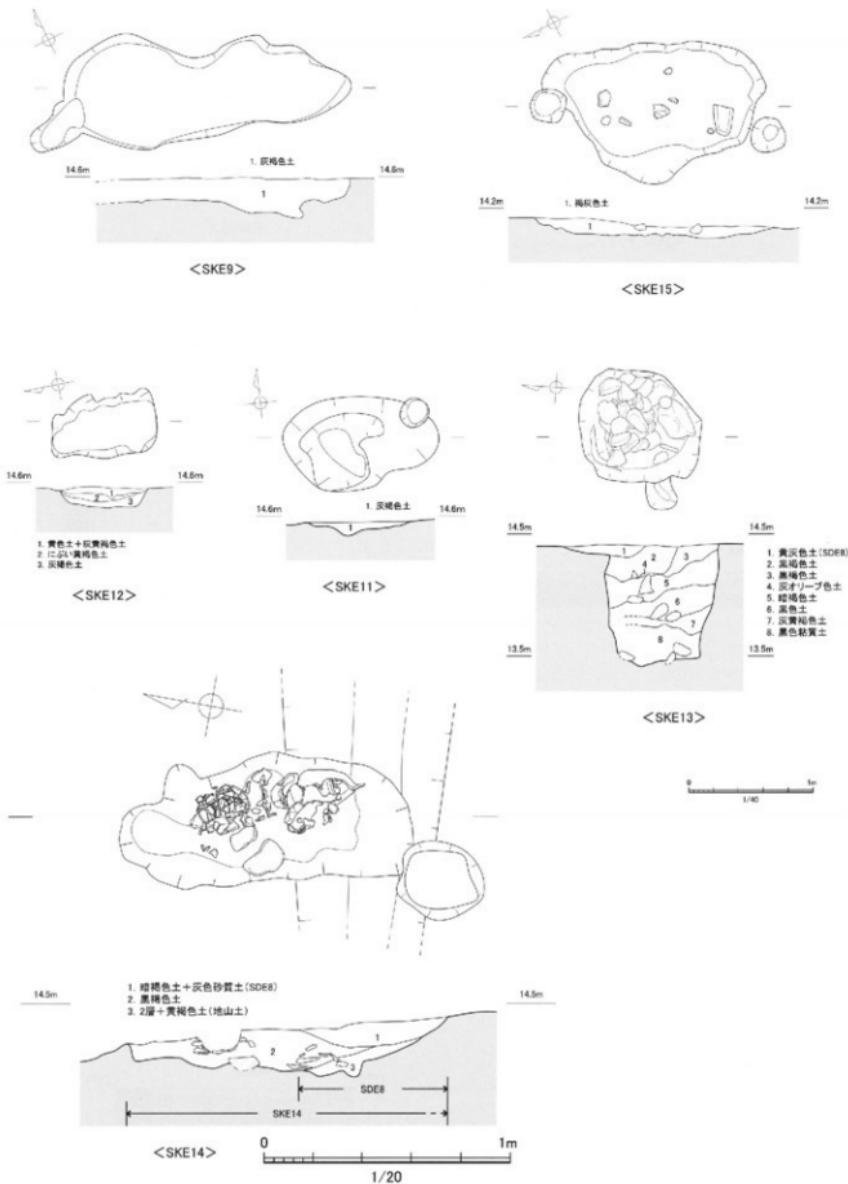
<SKE6>



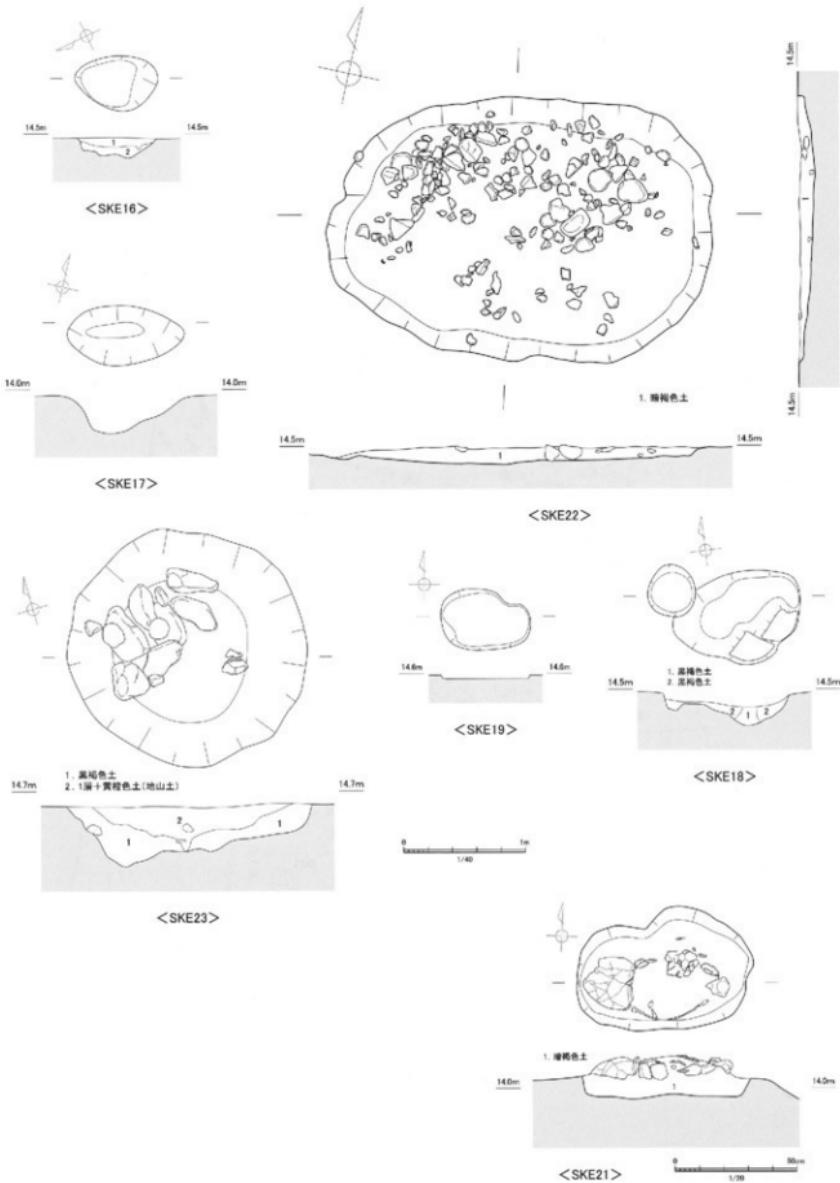
<SKE8>

0 1m
1/40

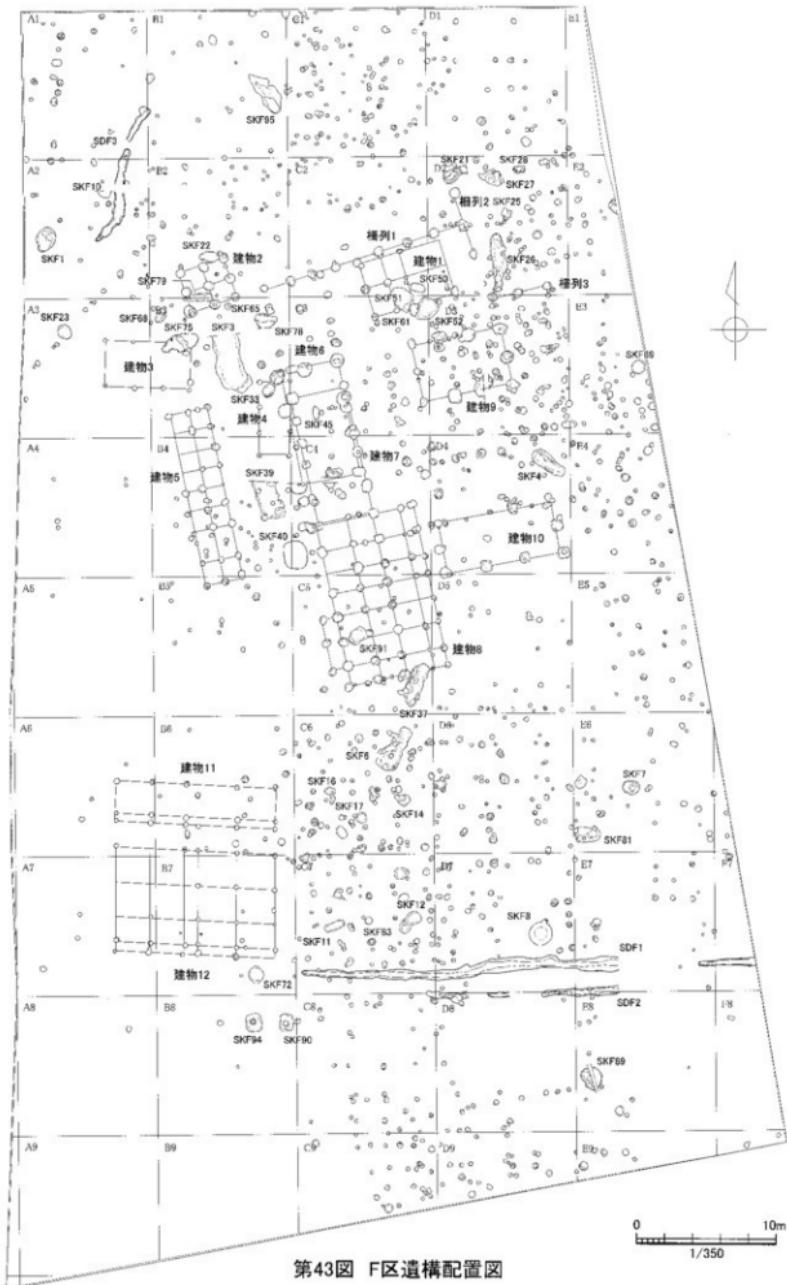
第40図 SKE平面図及び土層断面図①(SKE1~SKE8)



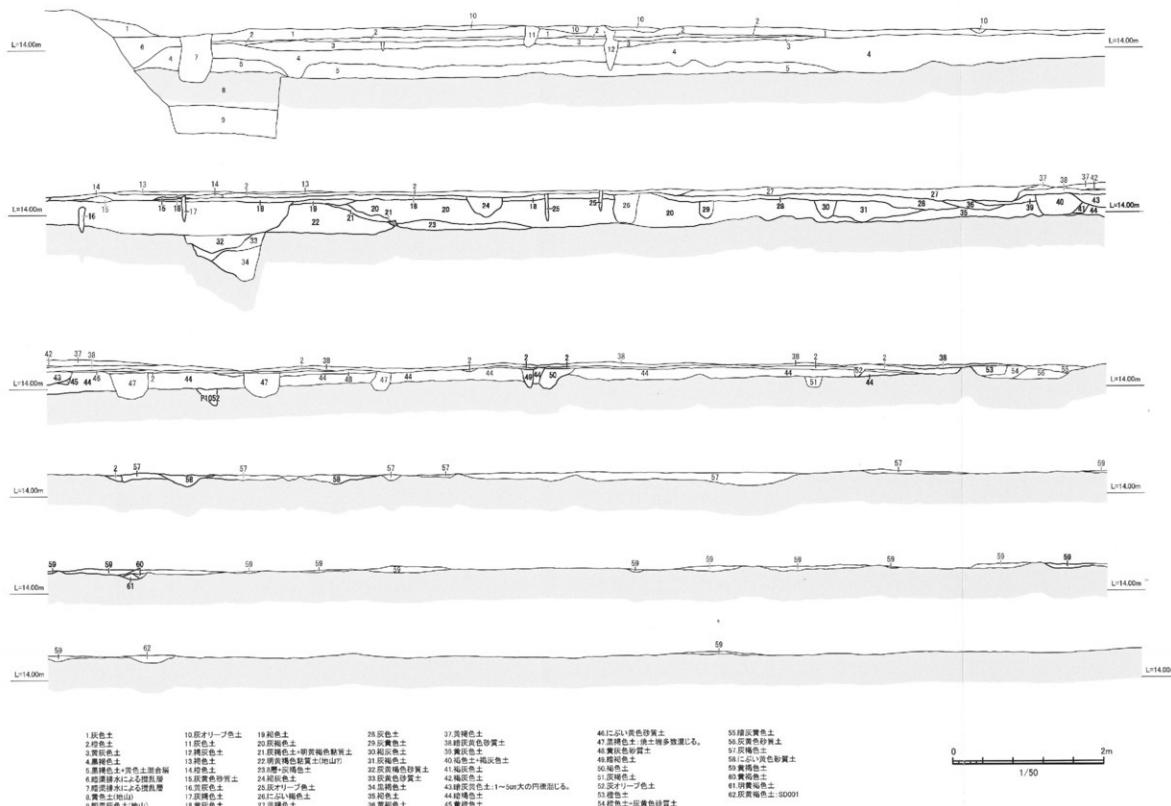
第41図 SKE平面図及び土層断面図②(SKE9~SKE15)



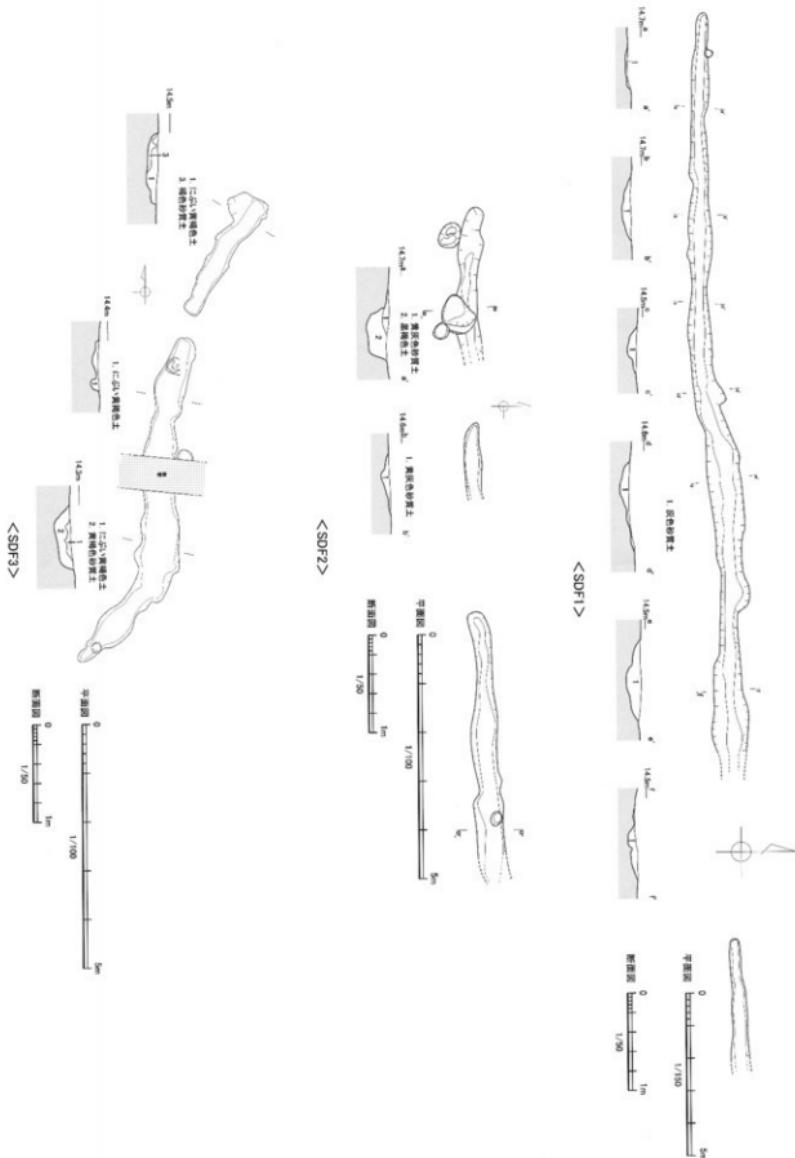
第42図 SKE平面図及び土層断面図③(SKE16~SKE23)



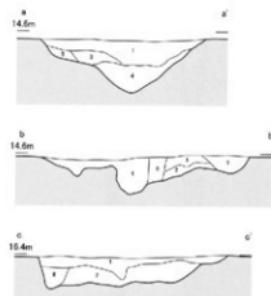
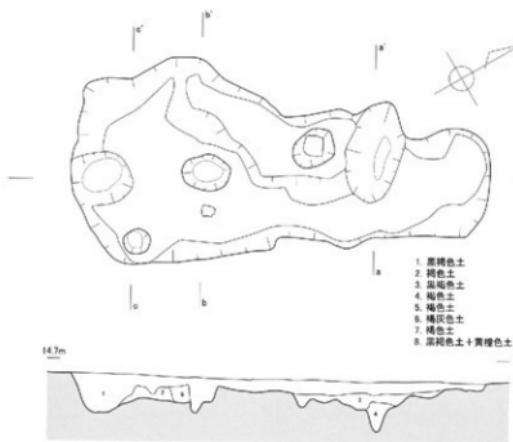
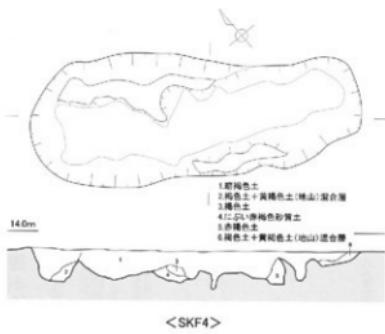
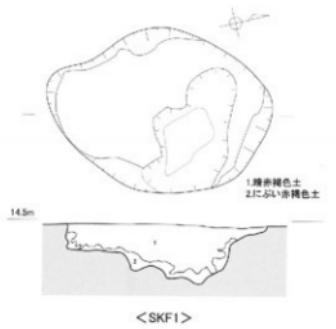
第43図 F区遺構配置図



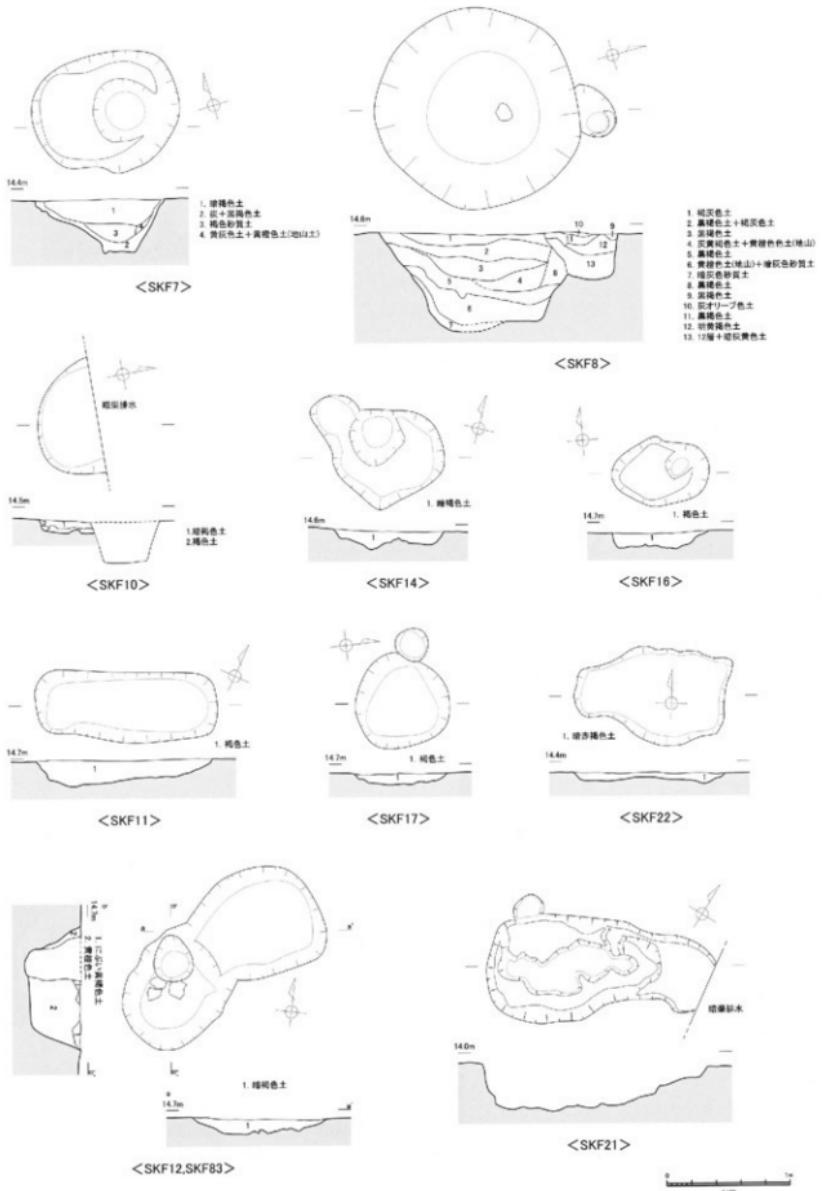
第44図 F区土層断面図



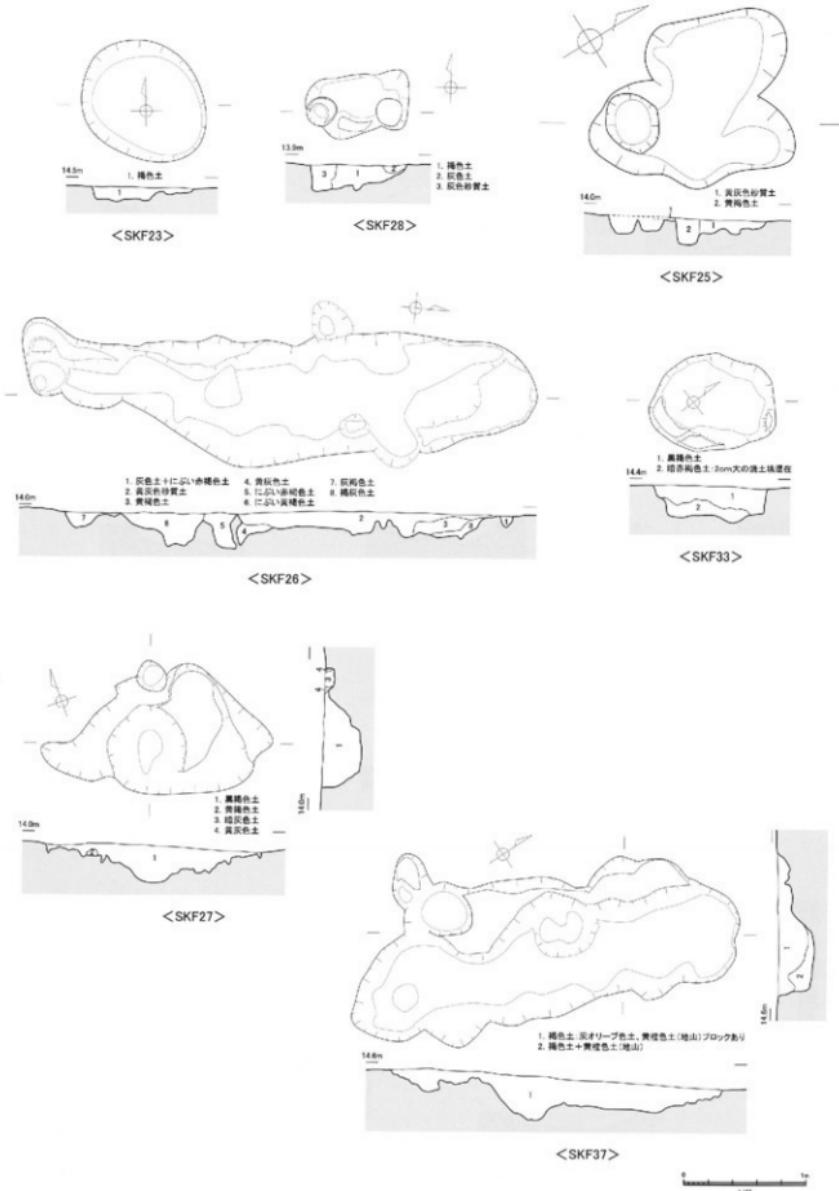
第45図 SDF平面図及び土層断面図(SDF1～SDF3)



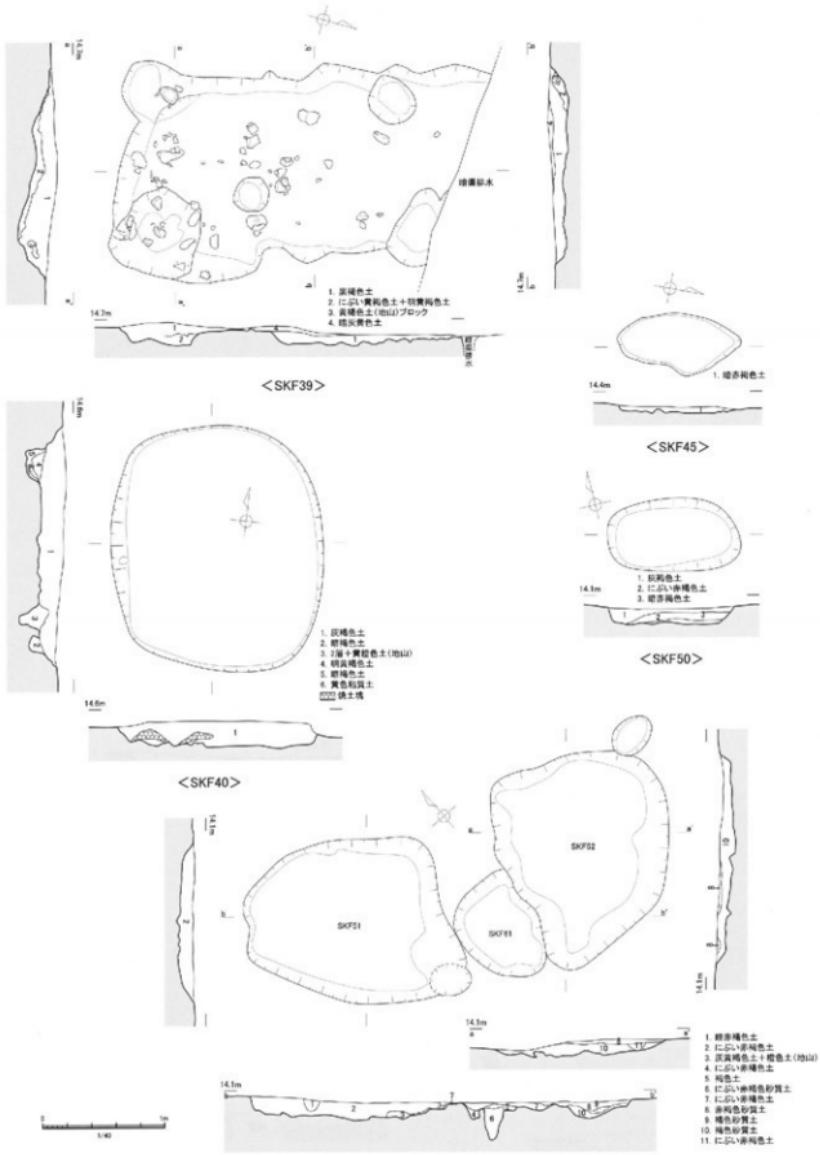
第46図 SKF平面図及び土壌断面図①(SKF1～SKF6)



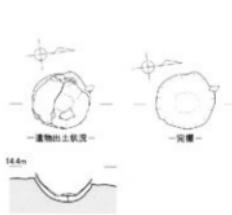
第47図 SKF平面図及び土層断面図②(SKF7～SKF22)



第48図 SKF平面図及び土層断面図③(SKF23～SKF37)



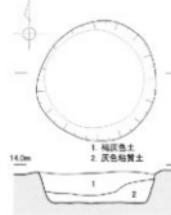
第49図 SKF平面図及び土層断面図④(SKF39～SKF52)



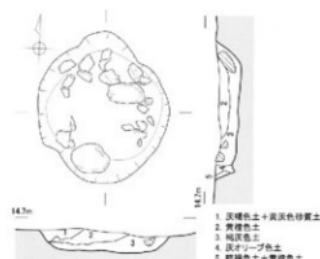
<SKF65>



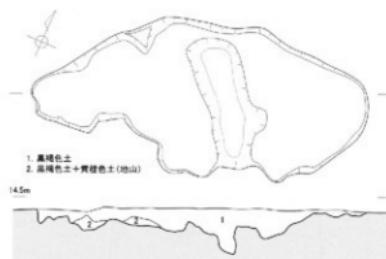
<SKF66>



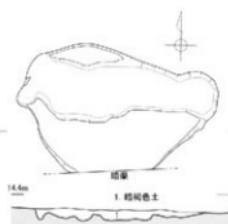
<SKF69>



<SKF72>



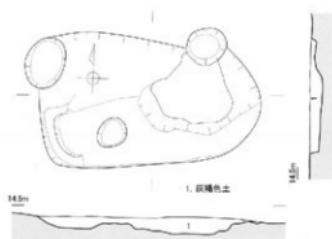
<SKF75>



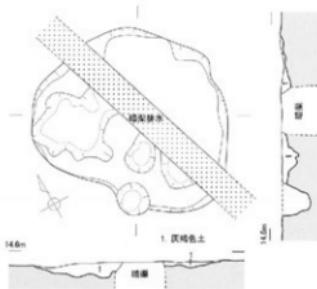
<SKF78>



<SKF79>

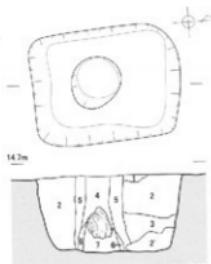


<SKF81>



<SKF89>

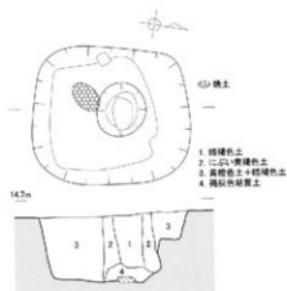
第50図 SKF平面図及び土層断面図⑤(SKF65~SKF89)



<SKF90>

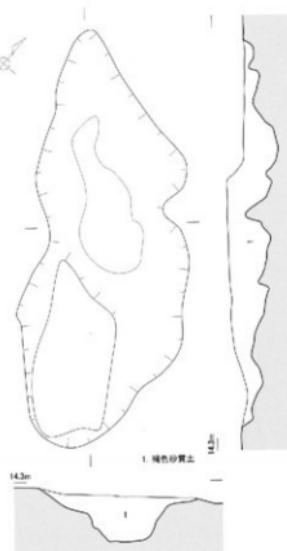


<SKF91>



<SKF94>

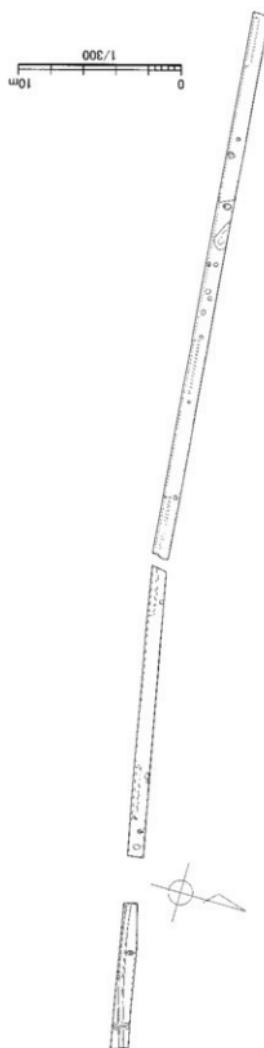
5
10
15



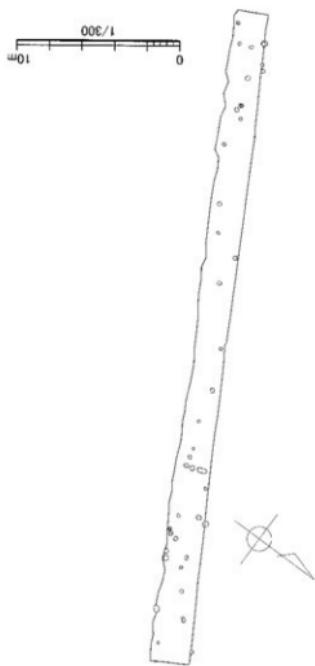
<SKF95>

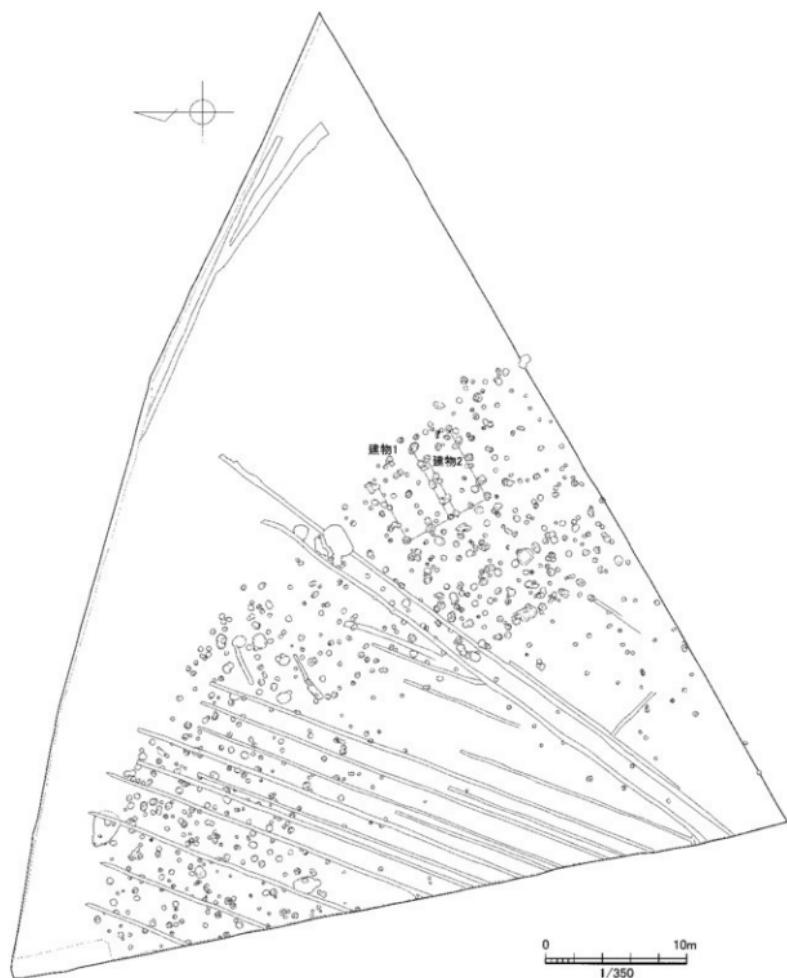
第51図 SKF平面図及び土層断面図⑥(SKF90～SKF95)

第52圖 G區遺構配置圖

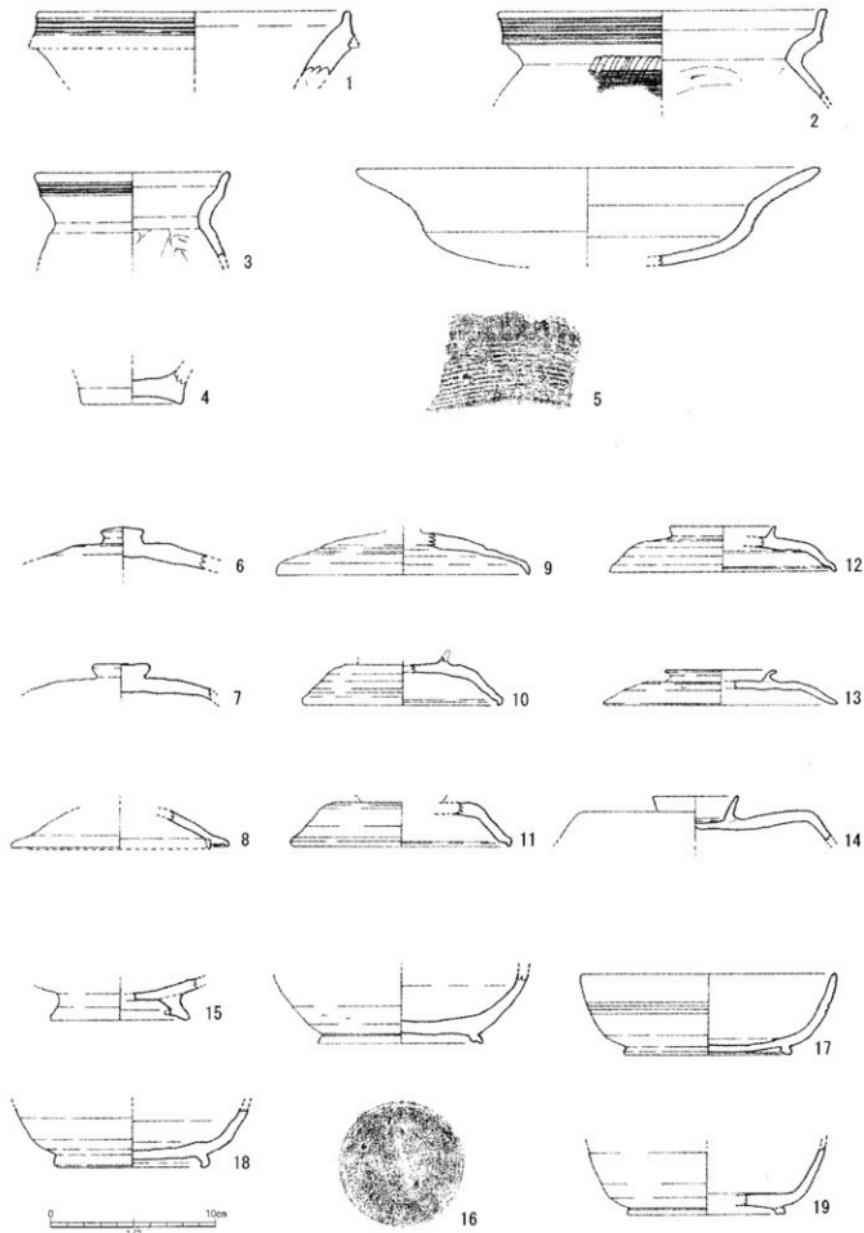


第53圖 I區遺構配置圖

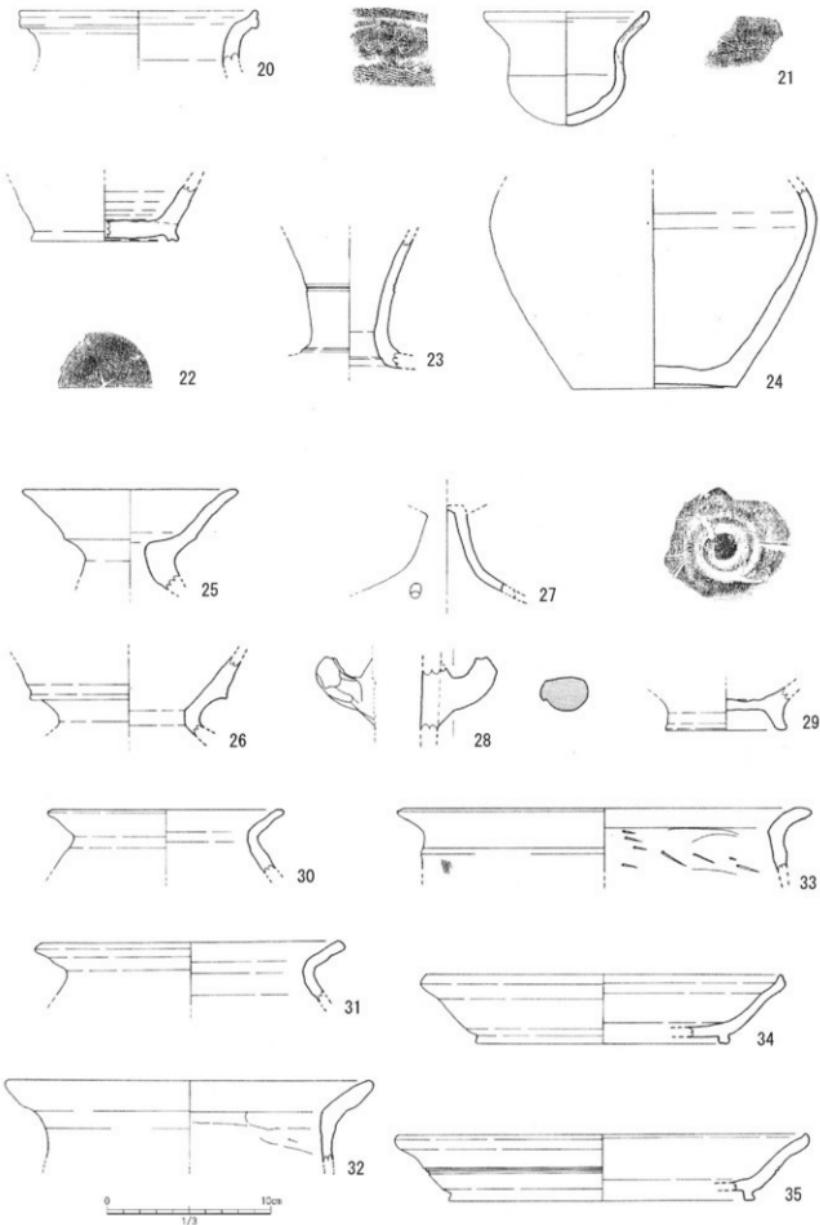




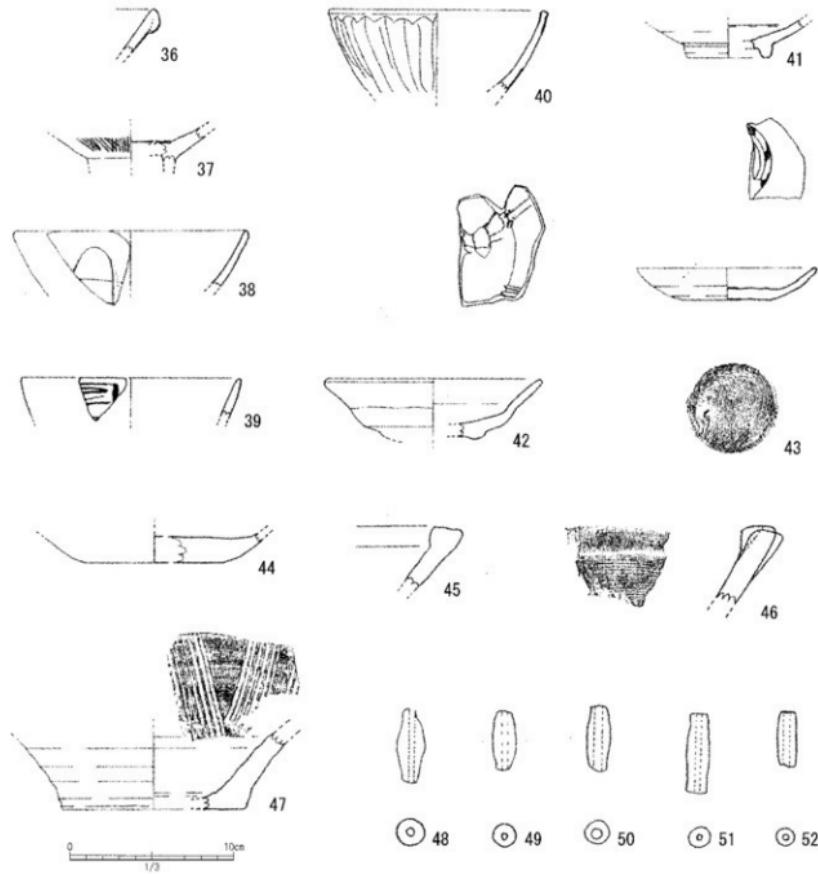
第54図 H区遺構配置図



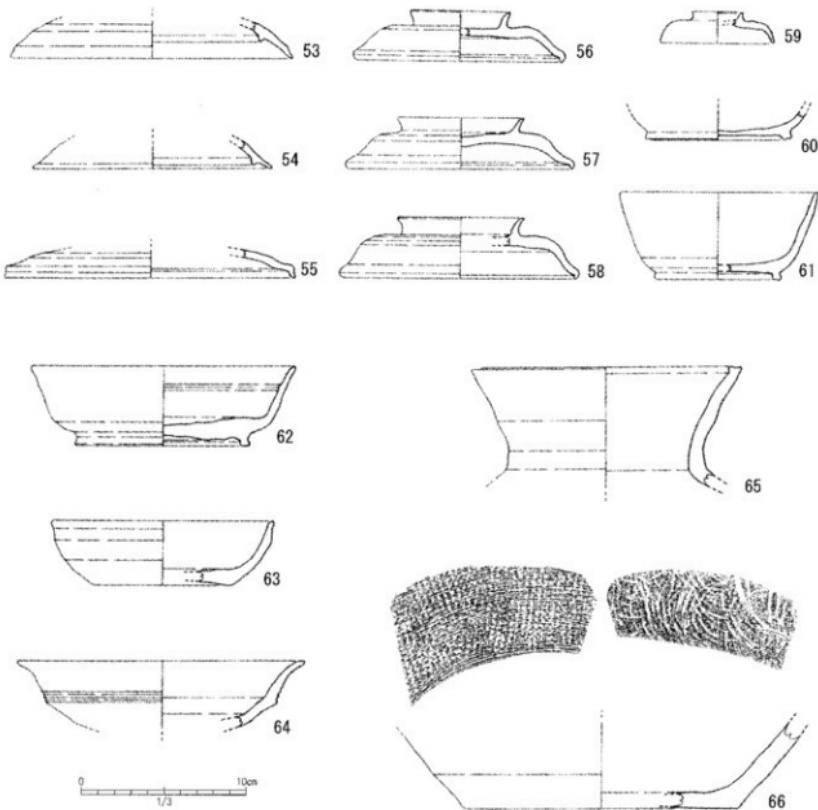
第55図 家下遺跡A区出土遺物実測図 ①



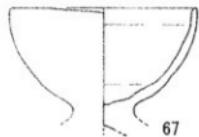
第56図 家下遺跡A区出土遺物実測図 ②



第57図 家下遺跡A区出土遺物実測図 ③



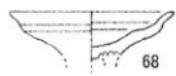
第58図 家下遺跡B区出土遺物実測図 ①



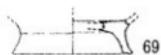
67



71



68



69



72



73



74



76



70



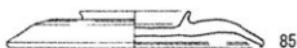
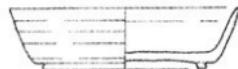
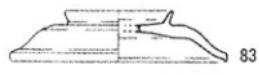
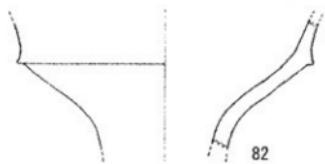
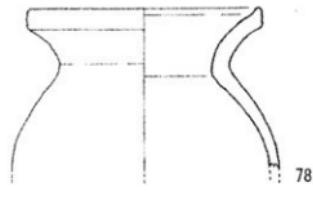
75



77

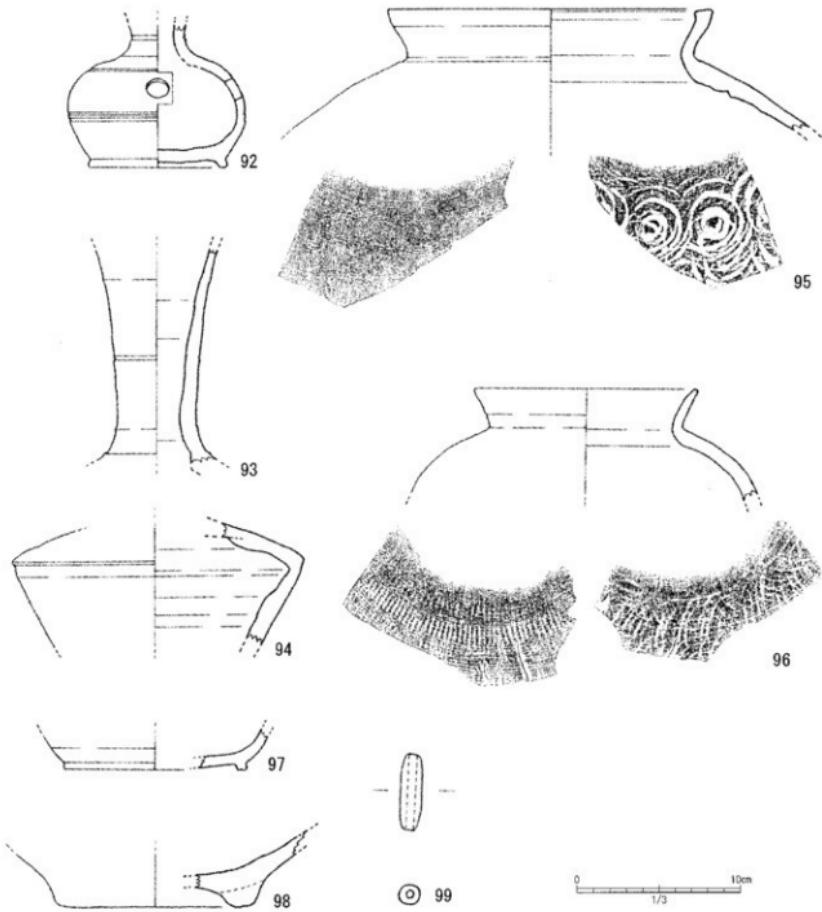


第59図 家下遺跡B区出土遺物実測図(2)

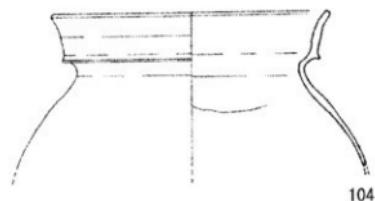
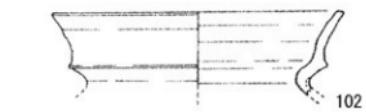
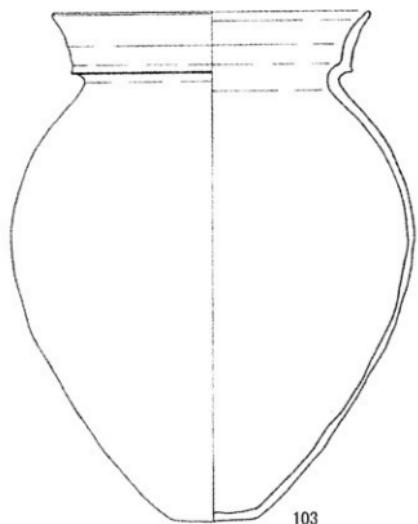
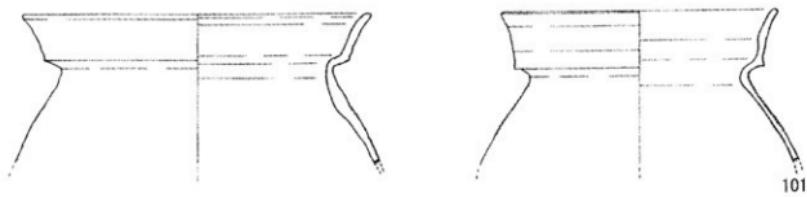


0
1/3
10cm

第60図 家下遺跡C区出土遺物実測図 ①

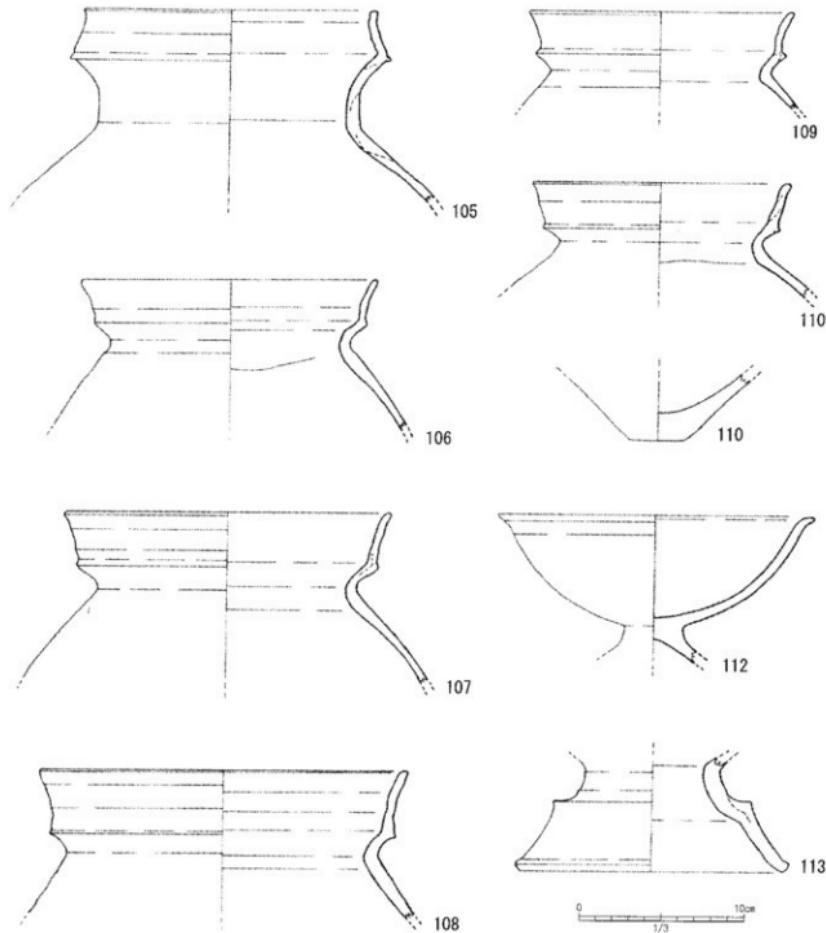


第61図 家下遺跡C区出土遺物実測図 (②)

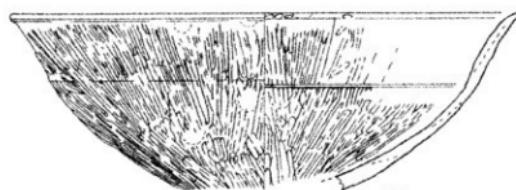
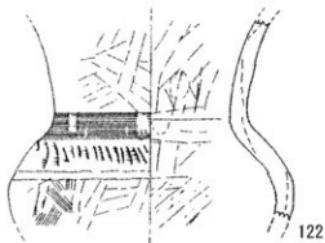
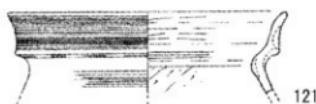
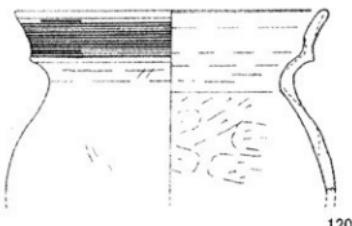
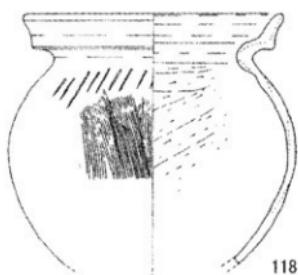
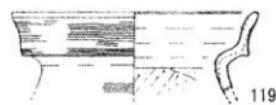
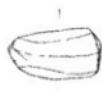


0
1/3 10cm

第62図 家下遺跡D区遺構出土遺物実測図 一土器棺1、2-

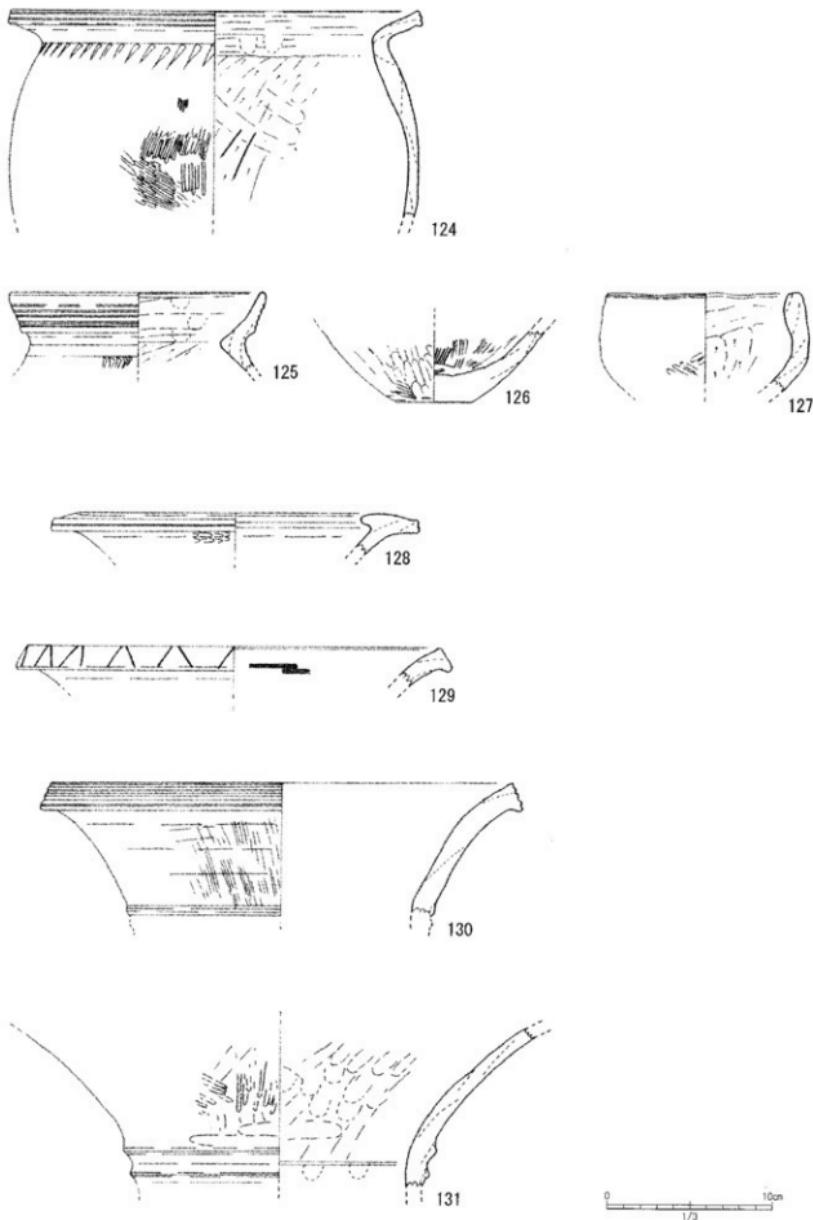


第63図 家下遺跡D区遺構外出土遺物実測図



0
1/3 10cm

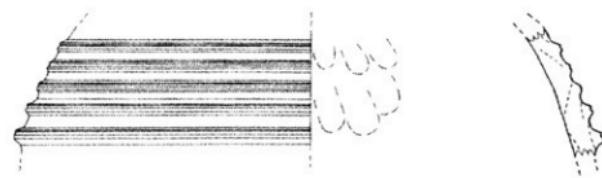
第64図 中小路遺跡A区遺構出土遺物実測図 ①一溝状遺構、SX02-



第65図 中小路遺跡A区遺構出土遺物実測図② -SX04、土器溜り-



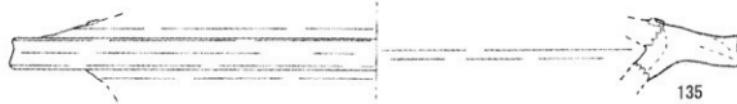
132



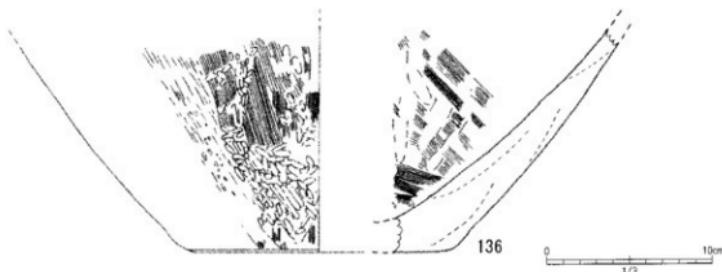
133



134



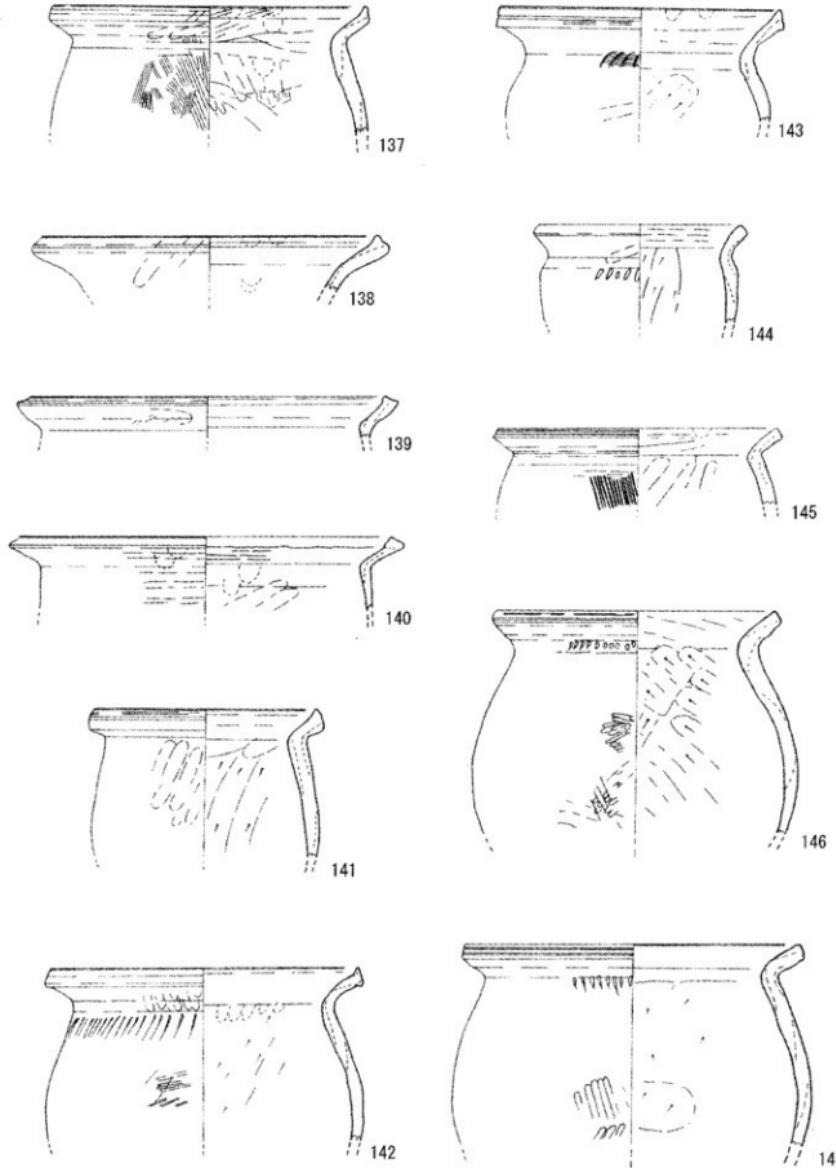
135



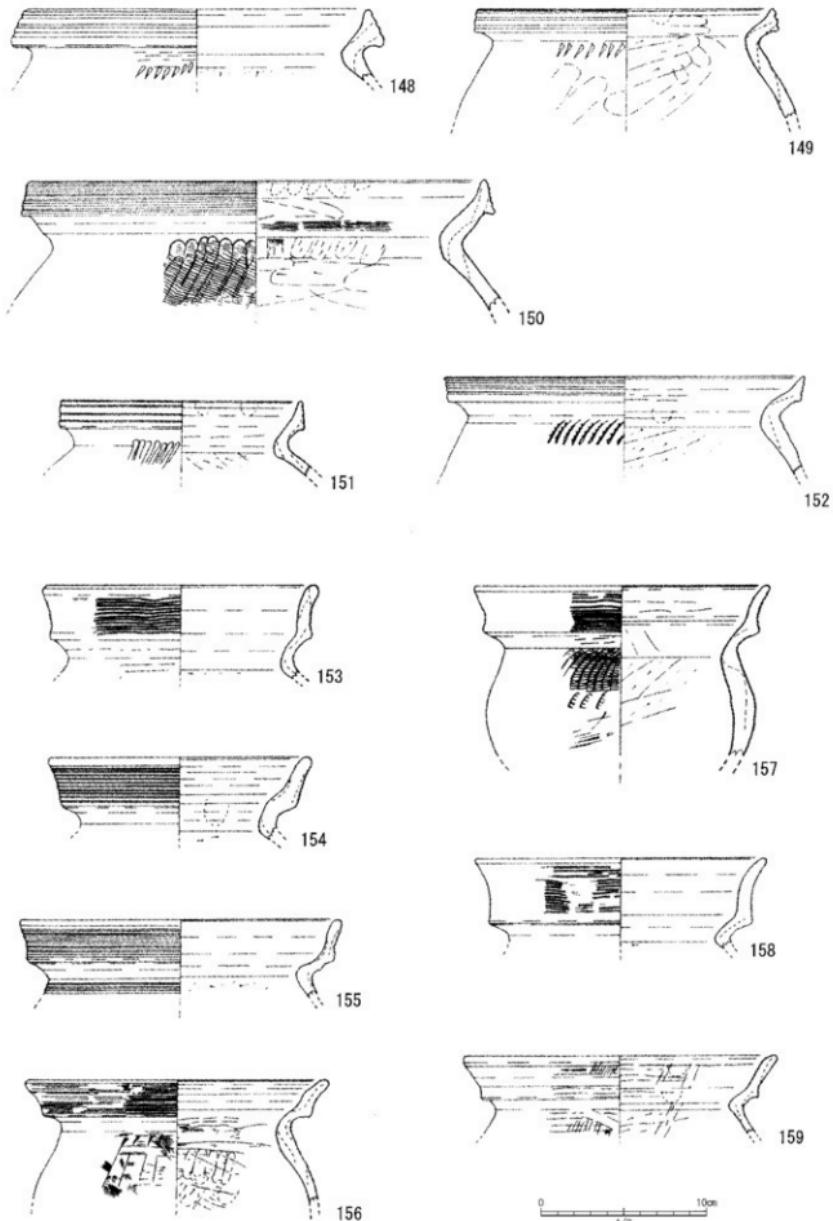
136

0
1/3 10cm

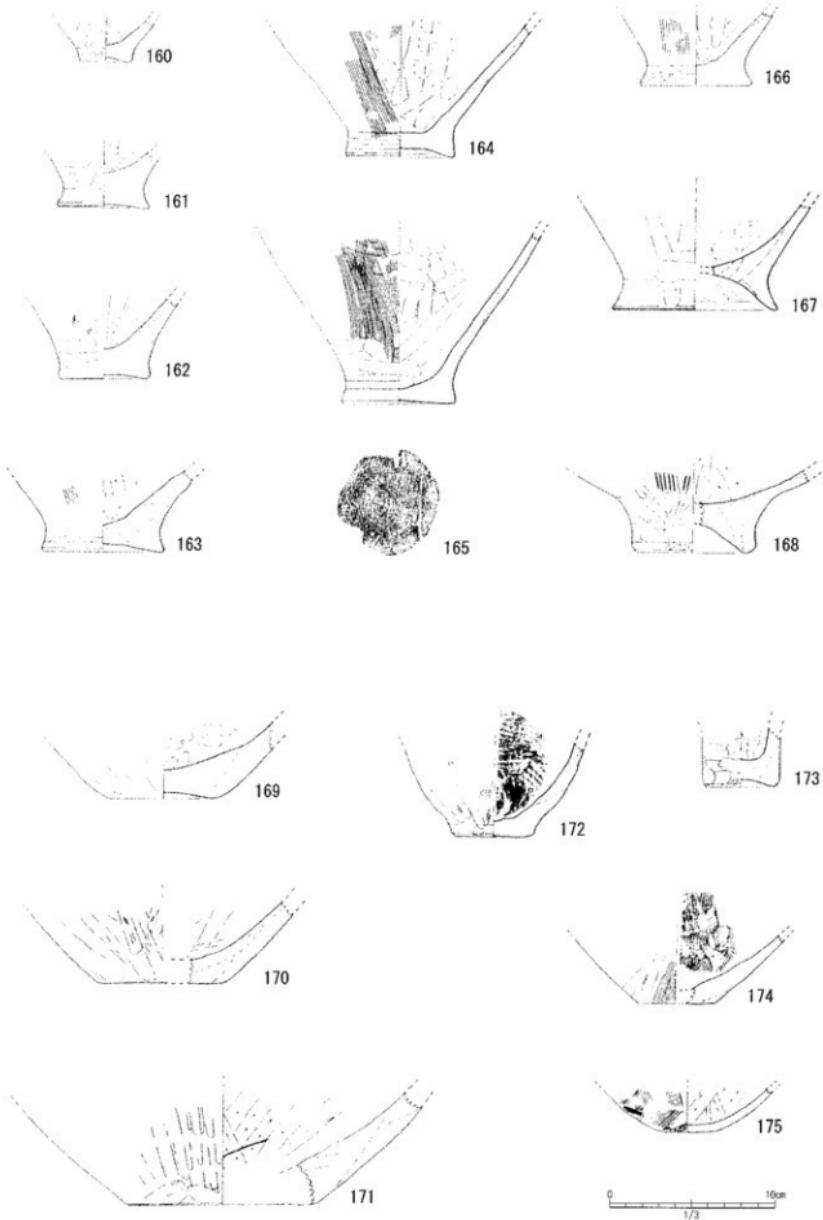
第66図 中小路遺跡A区遺構出土遺物実測図 ③ 一土器溜り -



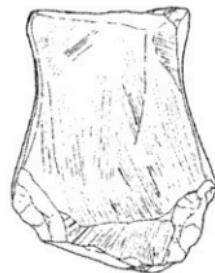
第67図 中小路遺跡A区遺構出土遺物実測図 ④ 一土器溜り一



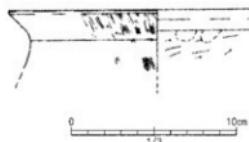
第68図 中小路遺跡A区遺構出土遺物実測図 ⑤ -土器溜り-



第69図 中小路遺跡A区遺構出土遺物実測図 (6) -土器溜り-



180

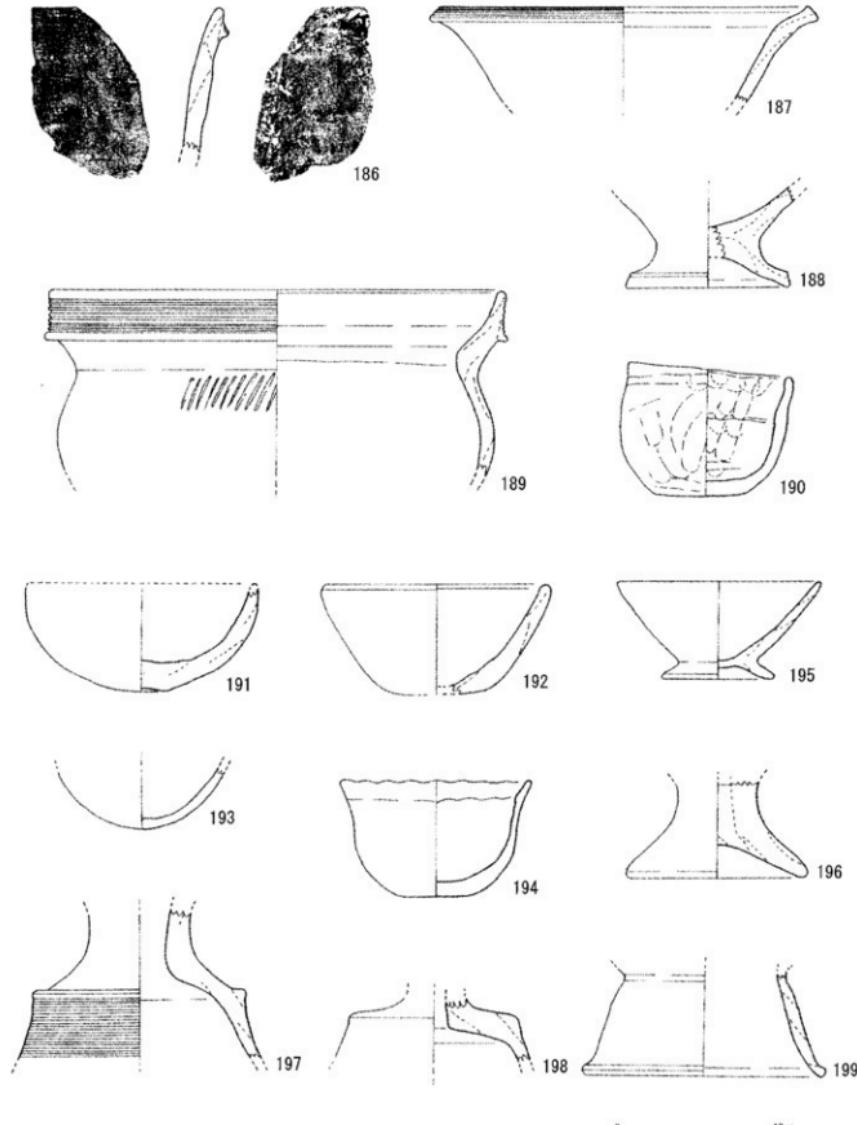


182

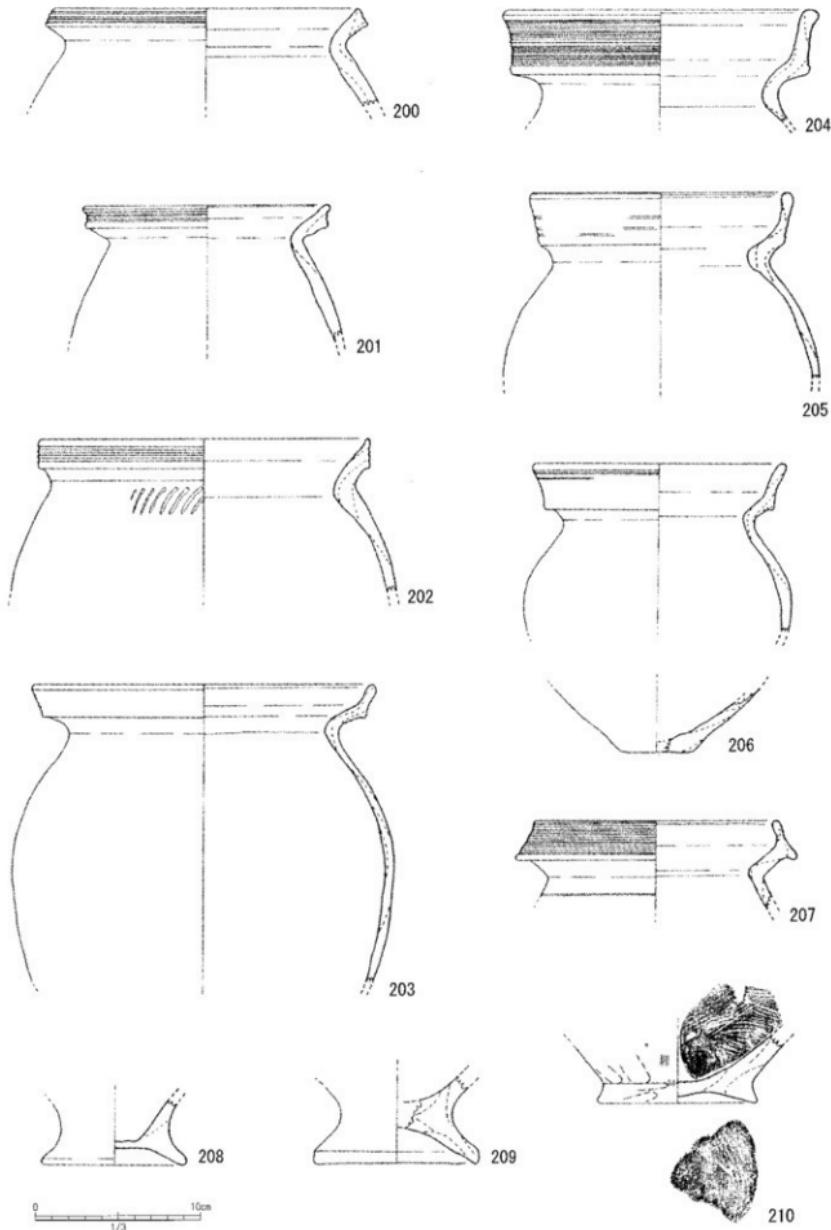


185

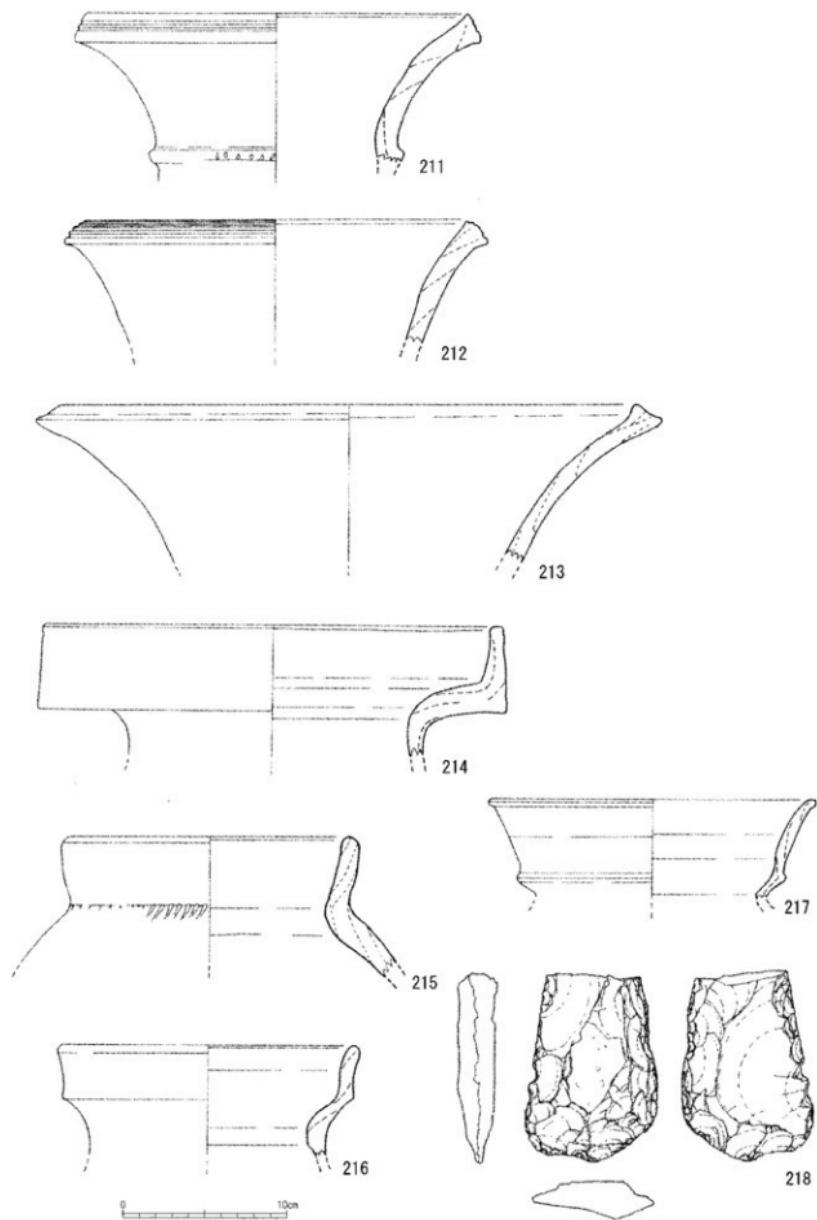
第70図 中小路遺跡A区遺構出土遺物実測図⑦－土器溜り－



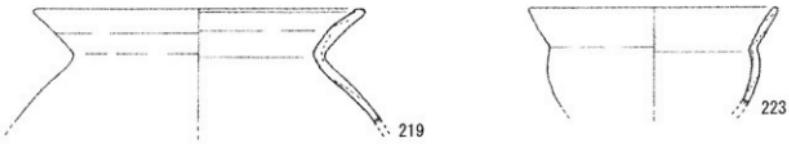
第71図 中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図 ①



第72図 中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図②



第73図 中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図 ③



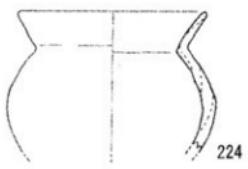
219



223



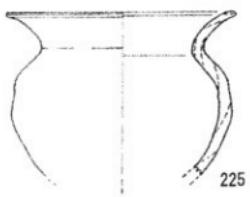
220



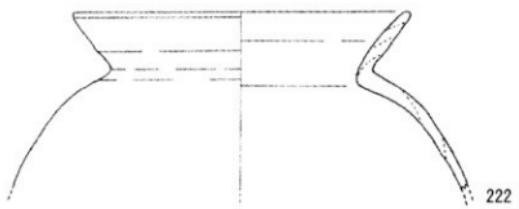
224



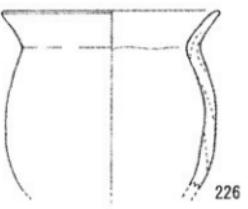
221



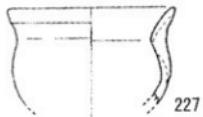
225



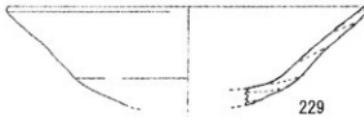
222



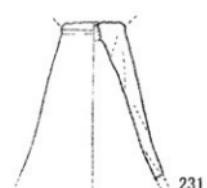
226



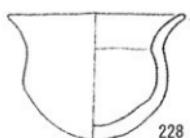
227



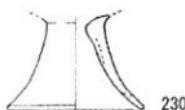
229



231



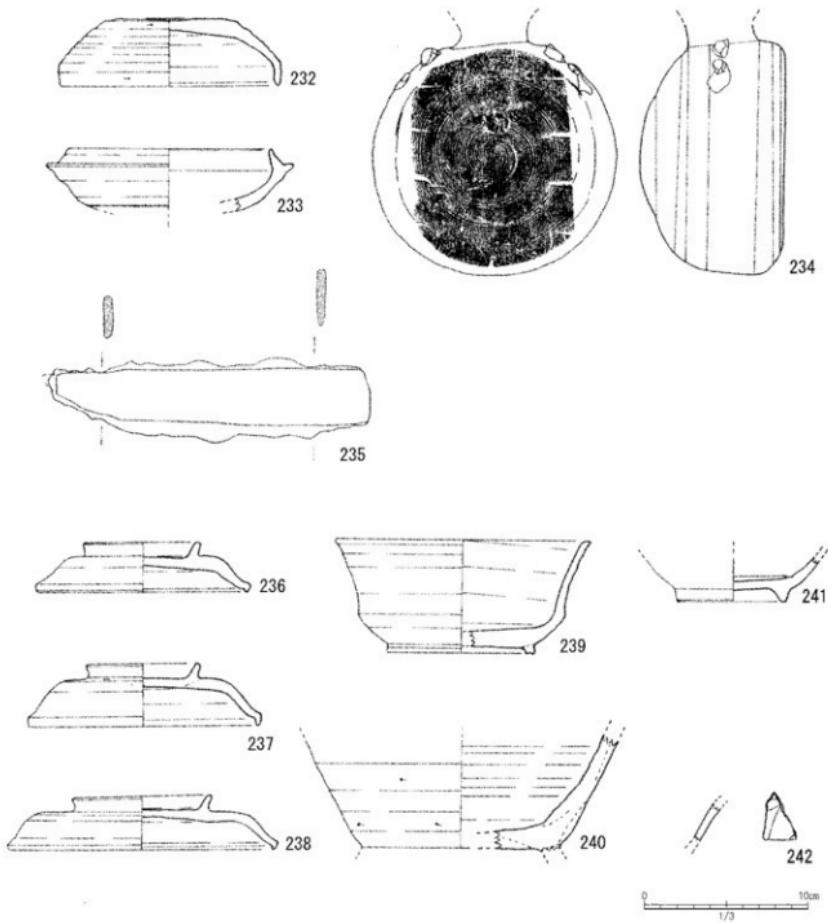
228



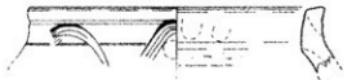
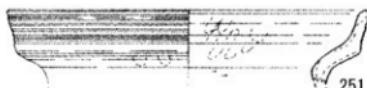
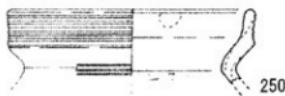
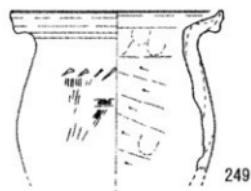
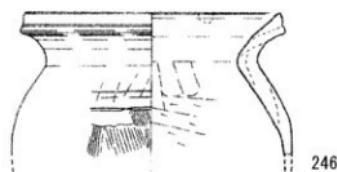
230



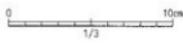
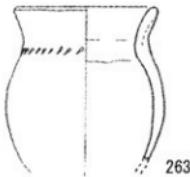
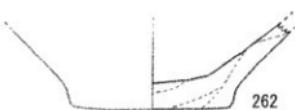
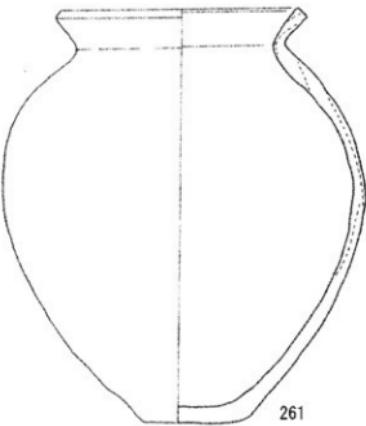
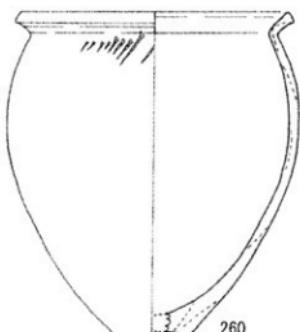
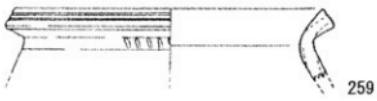
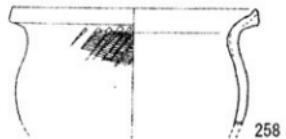
第74図 中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図 ④



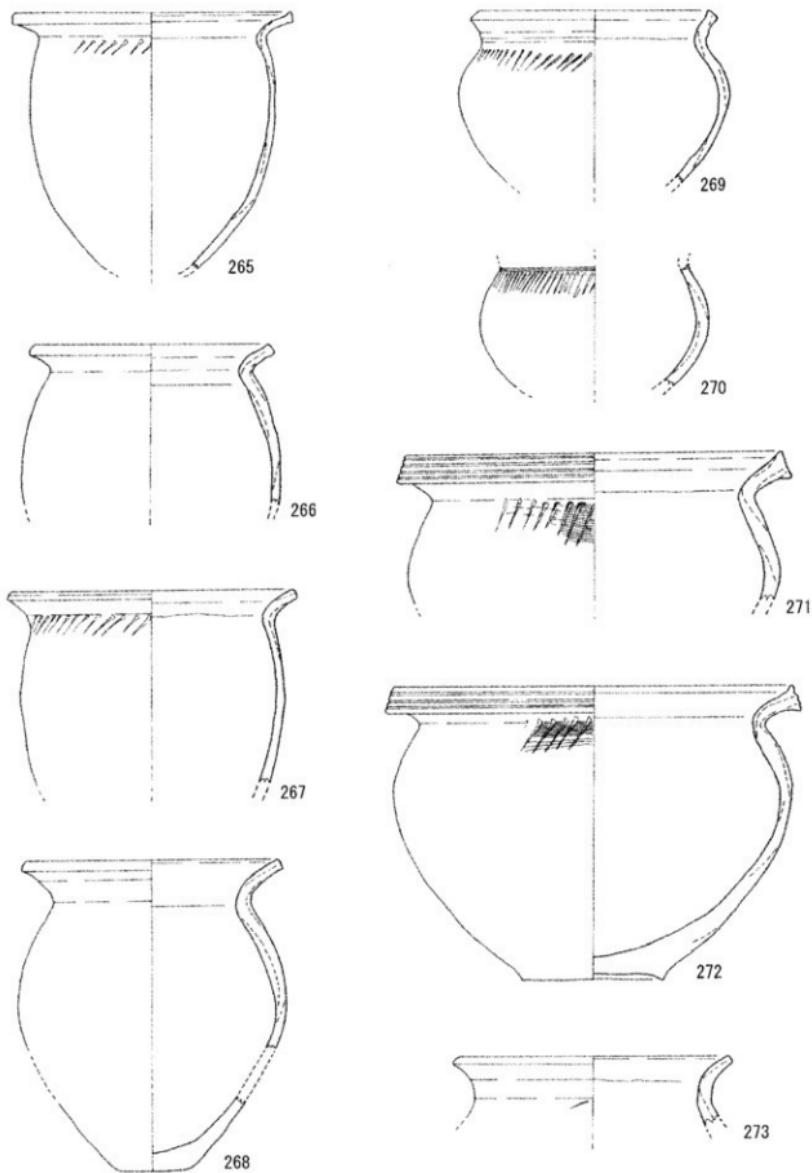
第75図 中小路遺跡A区遺構外出土遺物実測図(5)



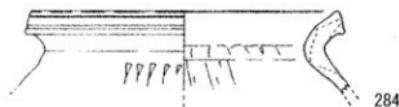
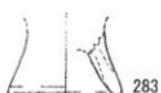
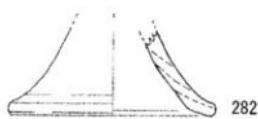
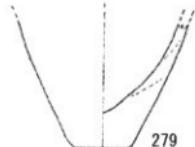
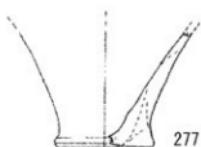
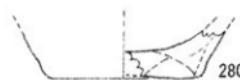
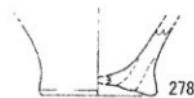
第76図 中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図 ① -SI01-



第77図 中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図 ② -S102①-

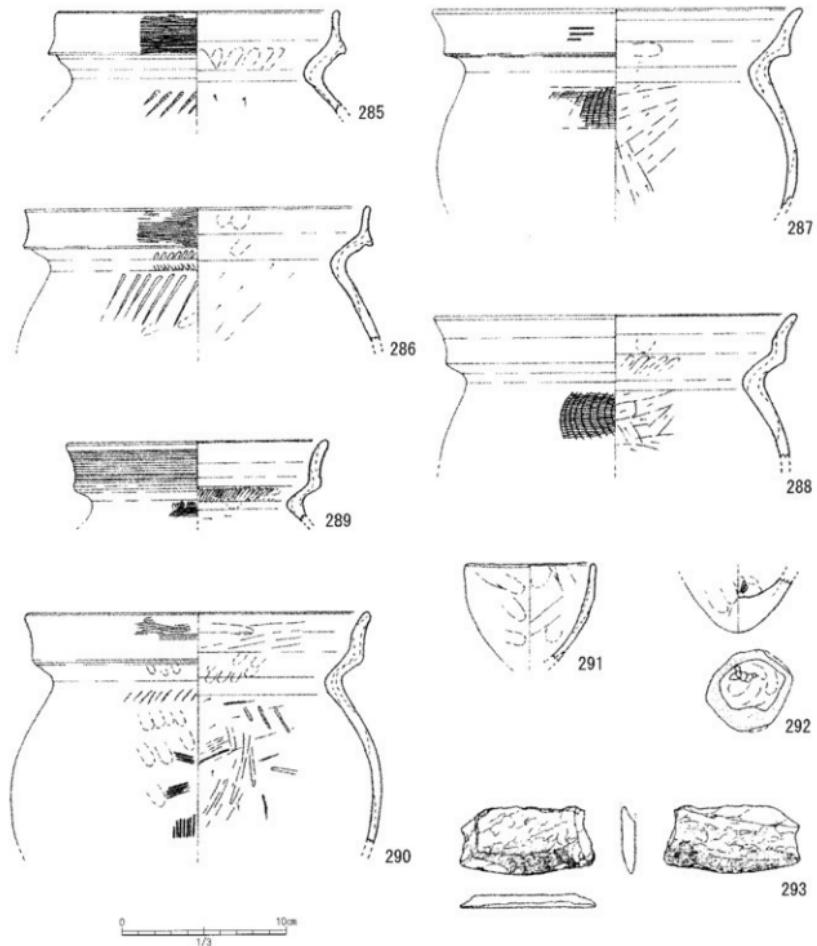


第78図 中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図 ③ -S102(2)-

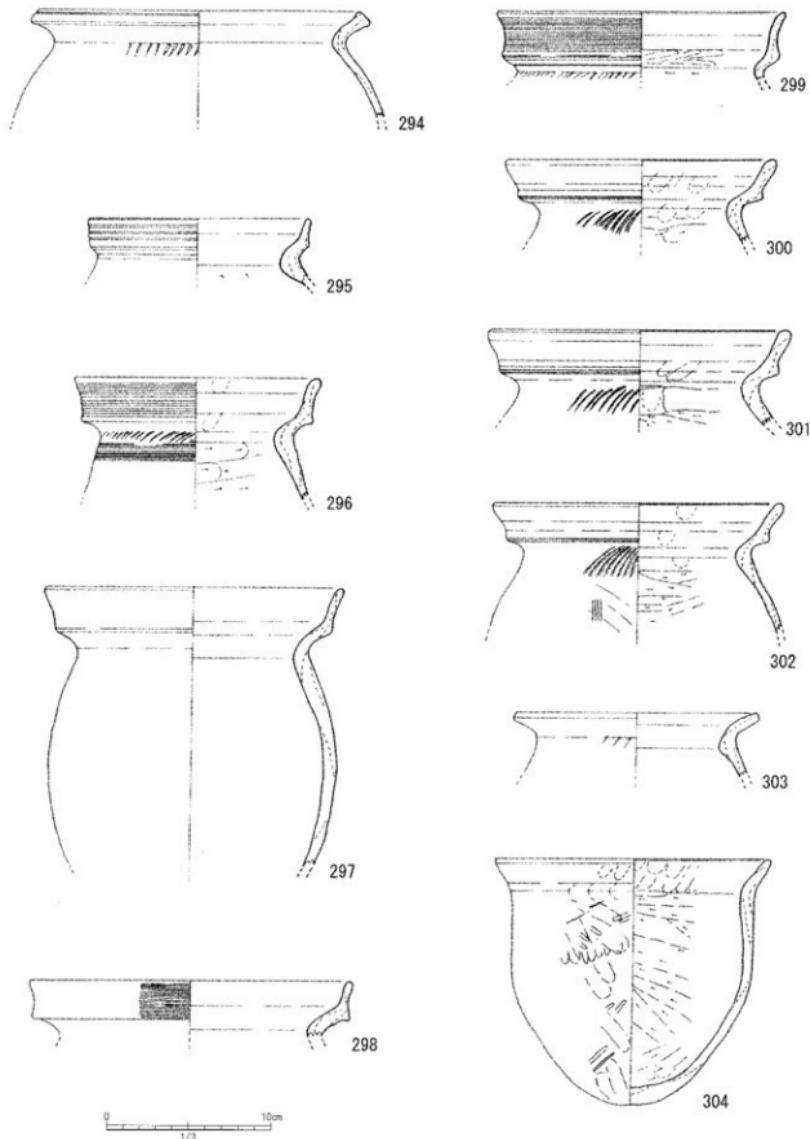


0
10cm
1/3

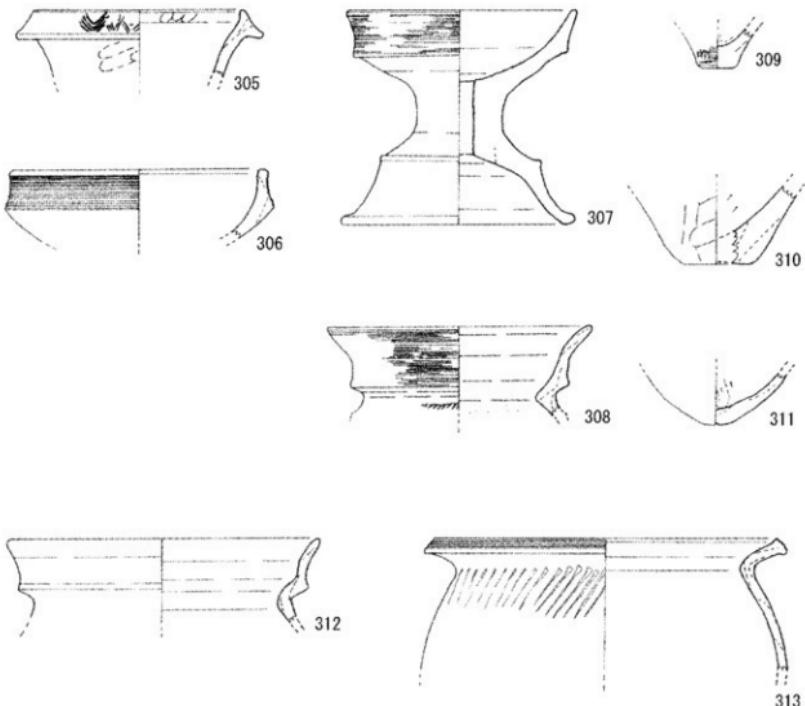
第79図 中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図 ④ -S102(3)、S103-



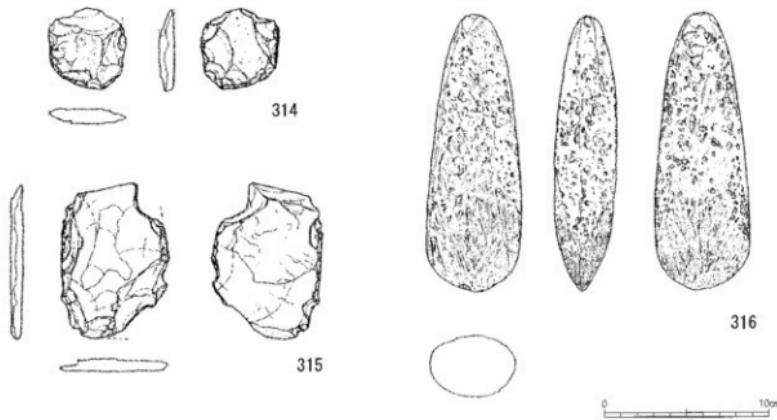
第80図 中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図 ⑤ -S104(1)-



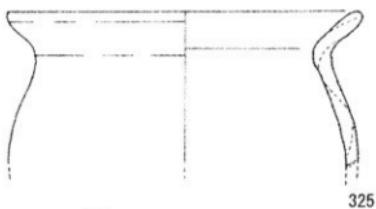
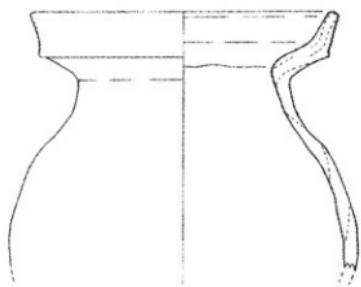
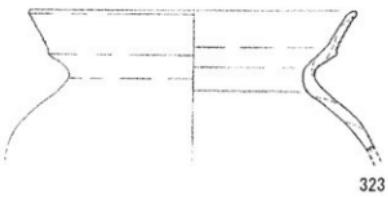
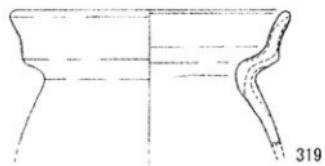
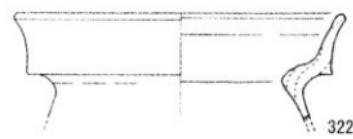
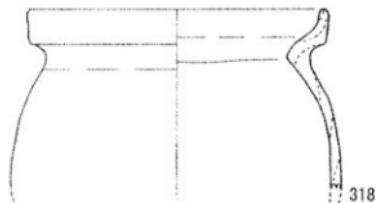
第81図 中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図 (6) -S104(2)-



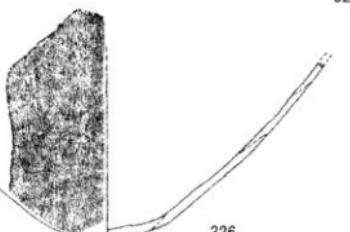
第82図 中小路遺跡B区遺構出土遺物実測図 ⑦ —S104③、S106、S107—



第83図 中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図 ①

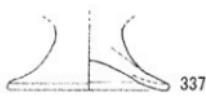


0
1/3
10cm

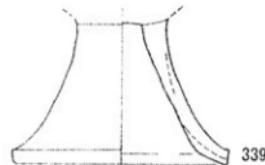


第84図 中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図 ②

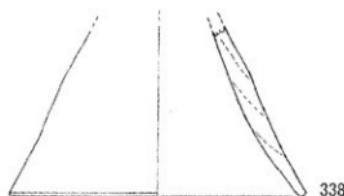




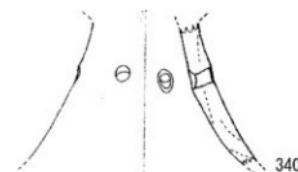
337



339



338



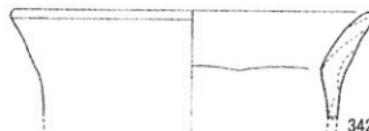
340



341



344



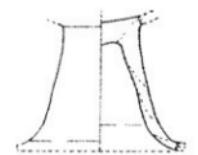
342



345



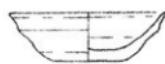
343



346



347



349



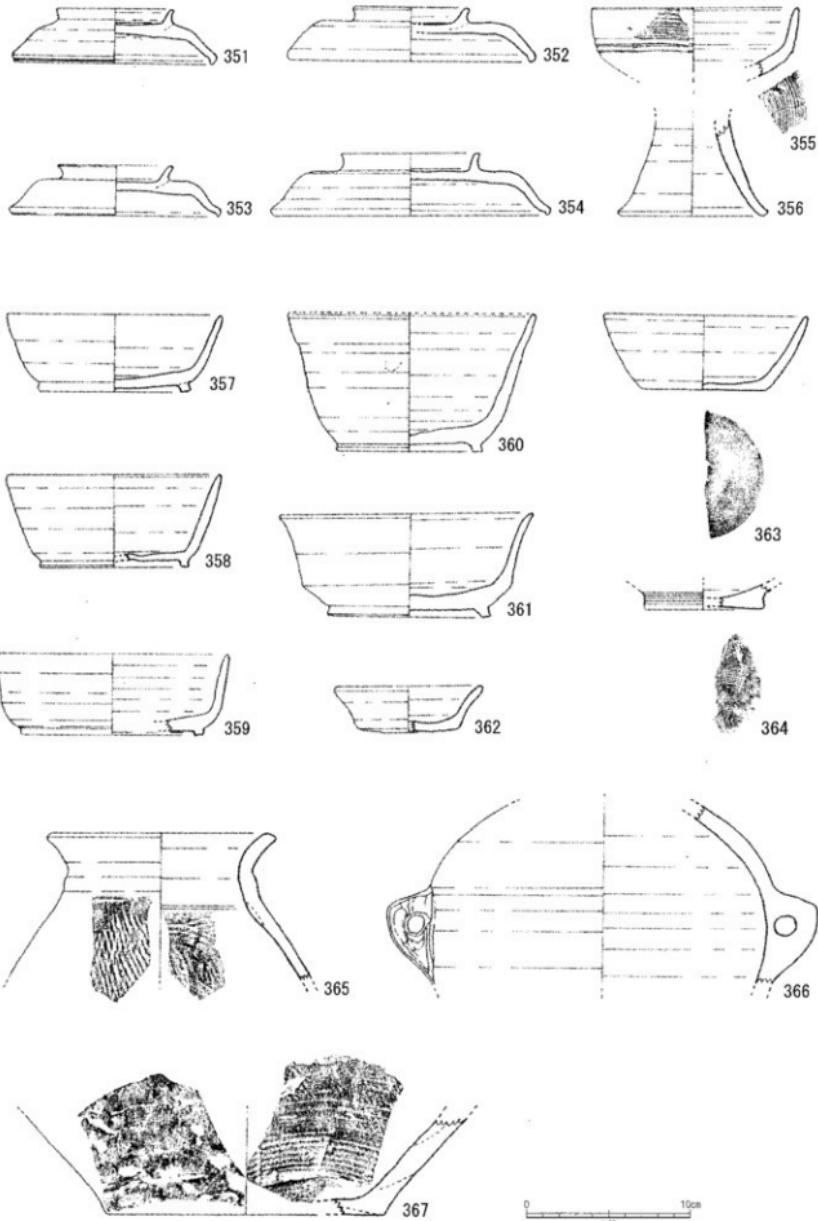
350



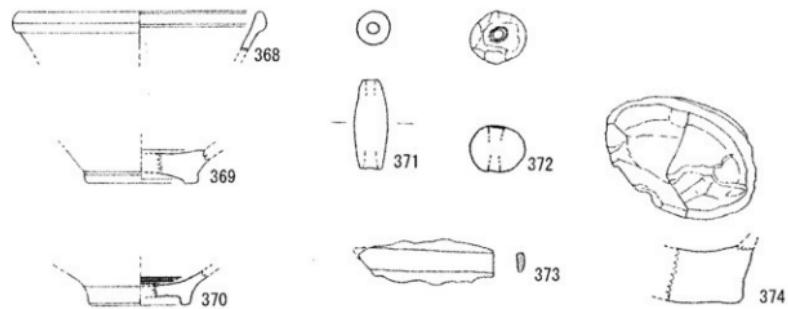
348



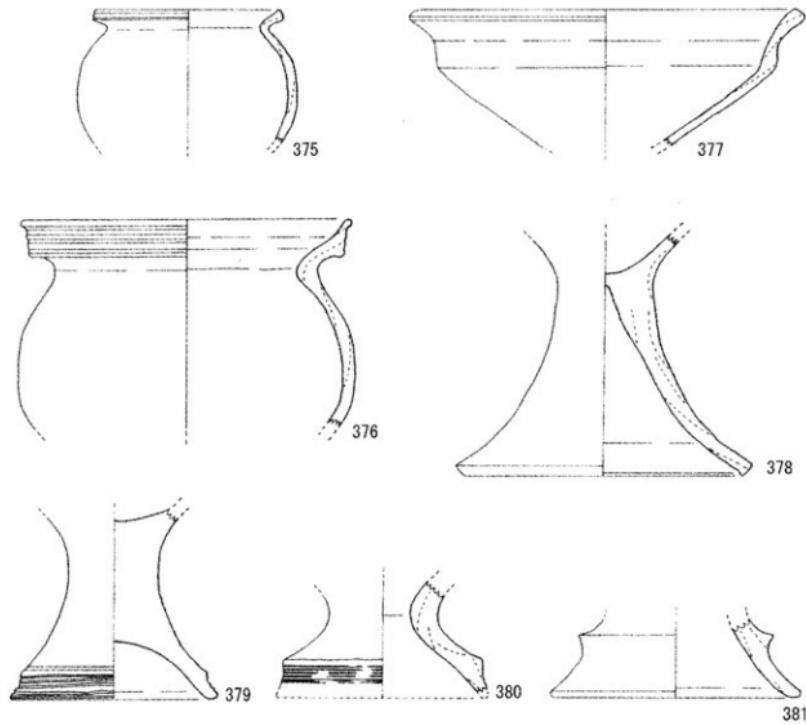
第86図 中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図 ④



第87図 中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図(5)

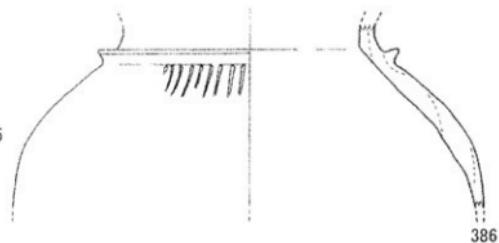
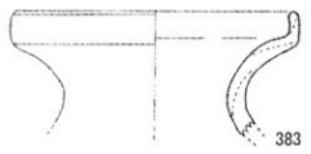
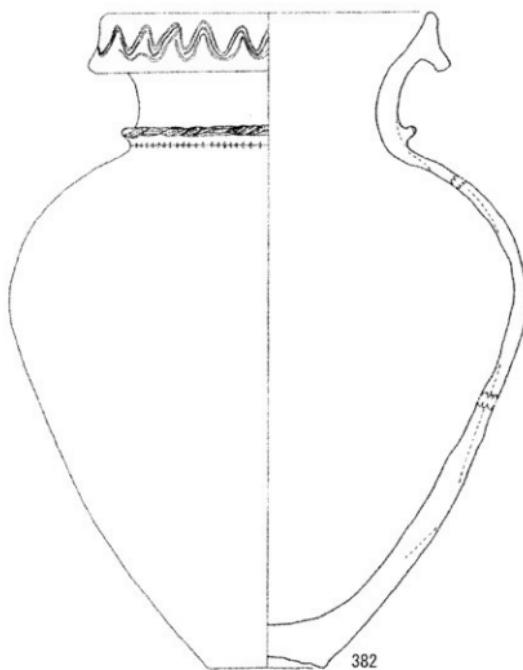


第88図 中小路遺跡B区遺構外出土遺物実測図 ⑥



0 1/3 10cm

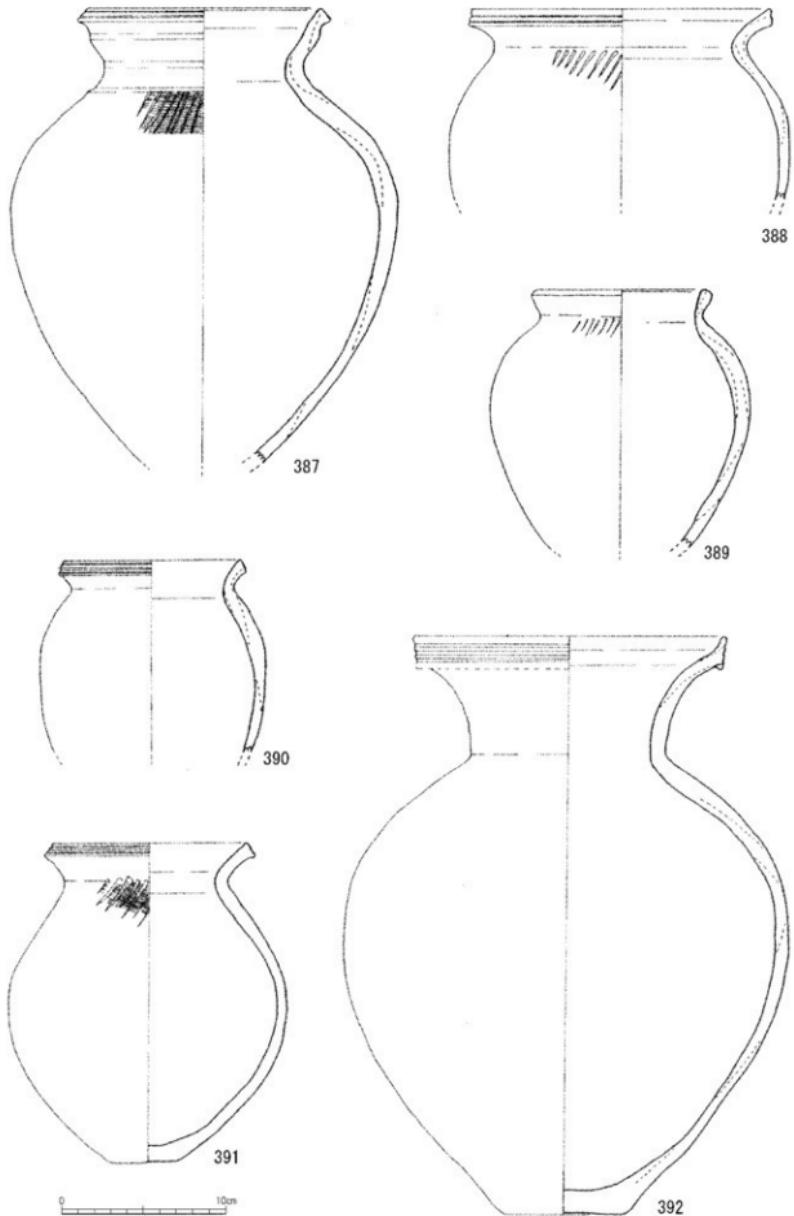
第89図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ① 一溝状遺構一



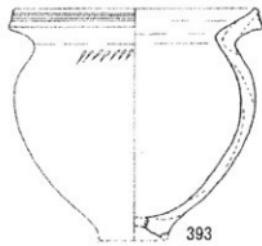
0
10cm

1/3

第90図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ②－溝状遺構－



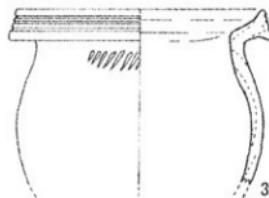
第91図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ③ 一溝状遺構 -



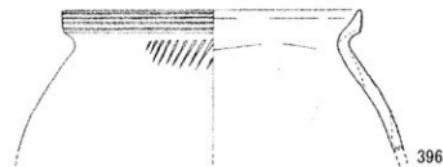
393



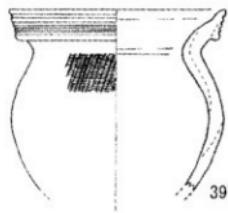
395



394



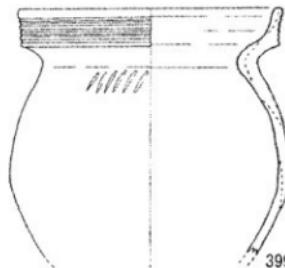
396



397



398



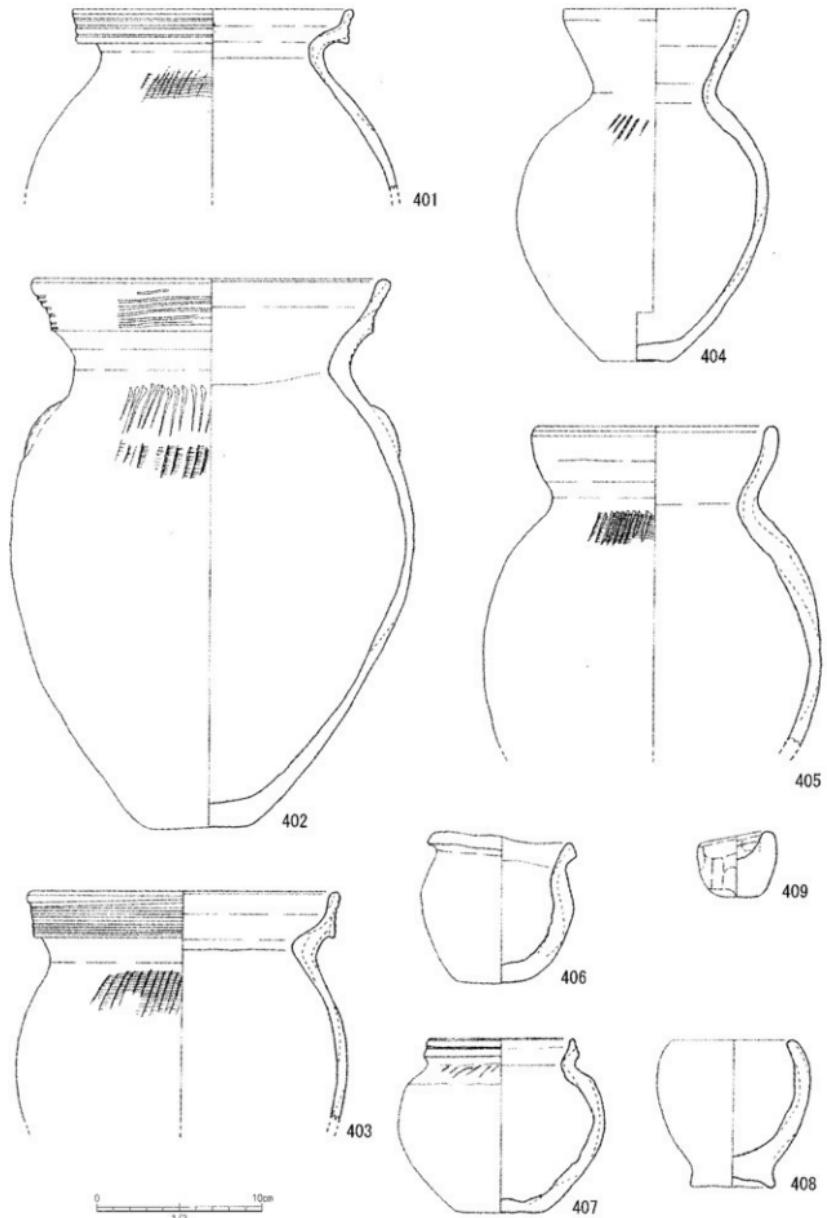
399



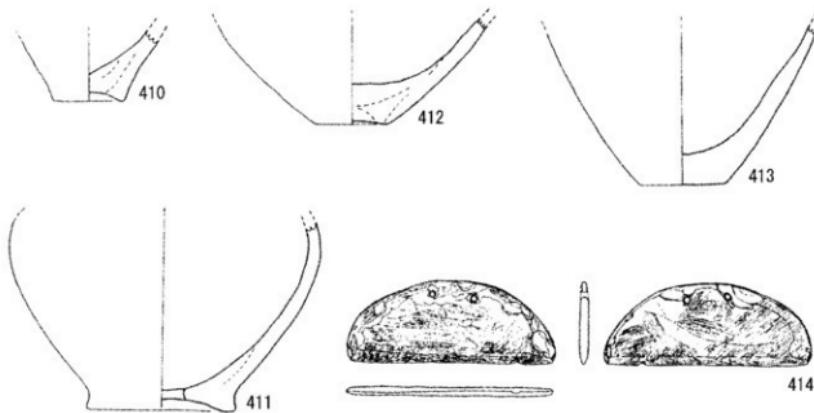
400



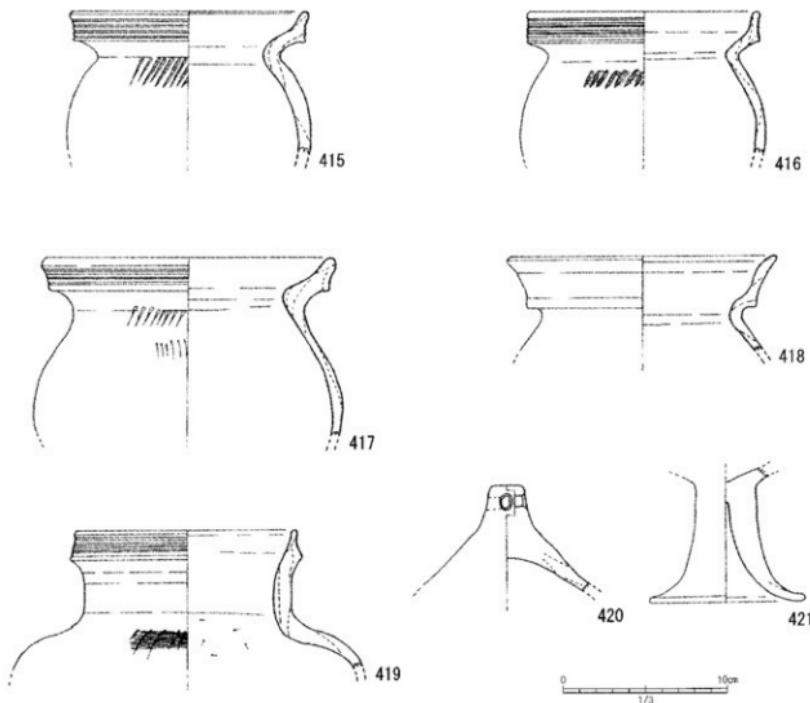
第92図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ④一溝状遺構一



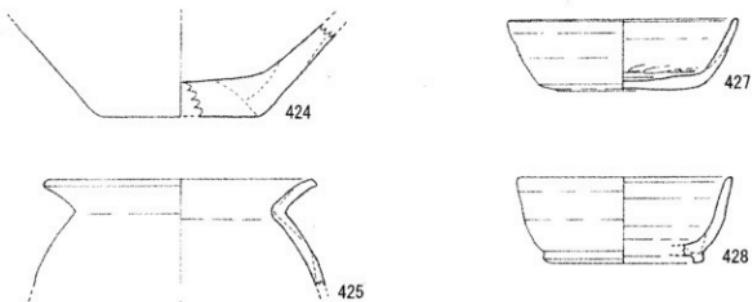
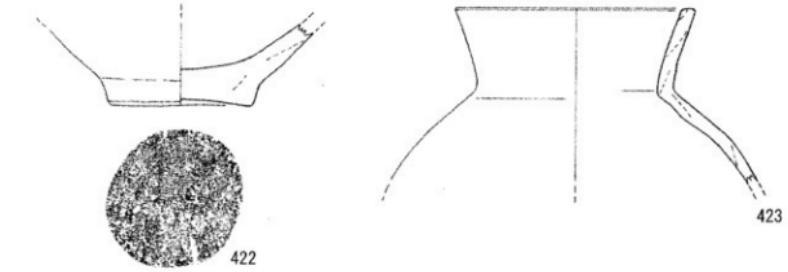
第93図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ⑤一溝状遺構-



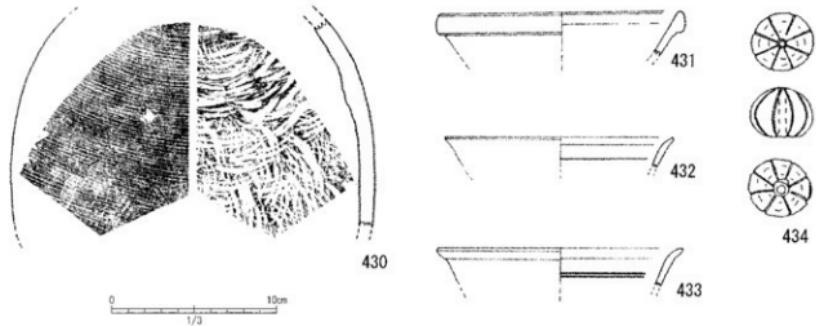
第94図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ⑥ 一溝状遺構—



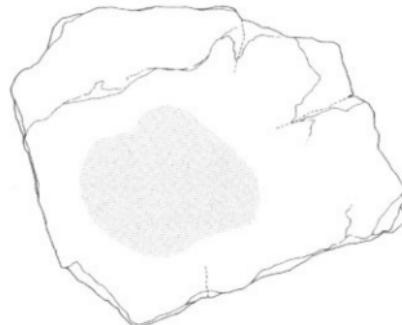
第95図 中小路遺跡C区遺構外出土遺物実測図 ①



第96図 中小路遺跡C区遺構外出土遺物実測図②



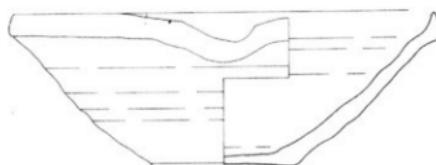
第97図 中小路遺跡D区遺構外出土遺物実測図



435



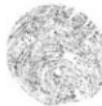
436



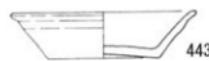
438



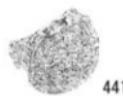
437



439



443



441



444



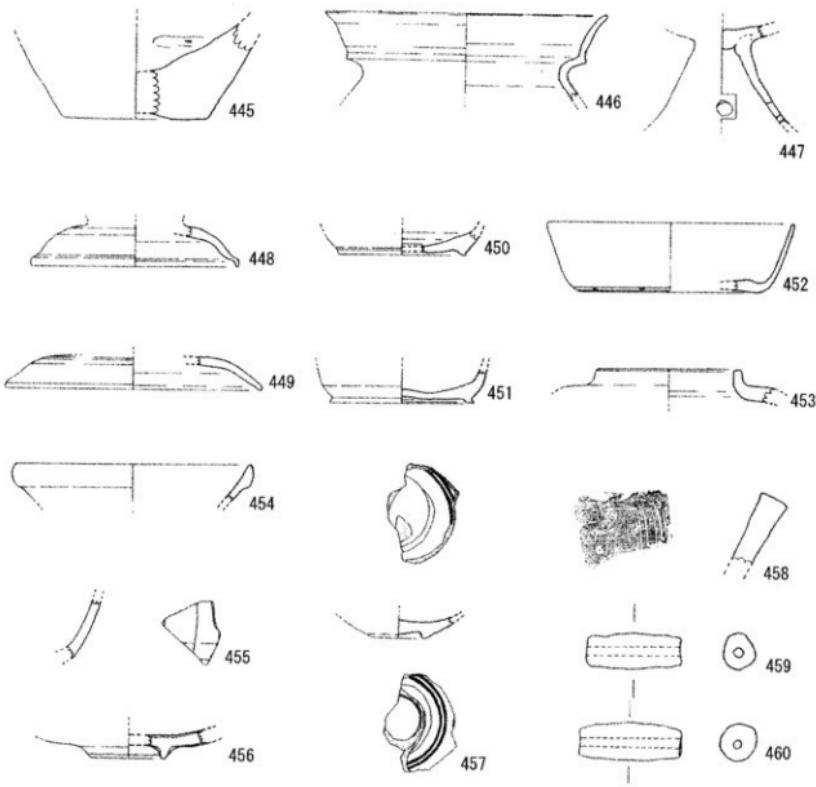
440



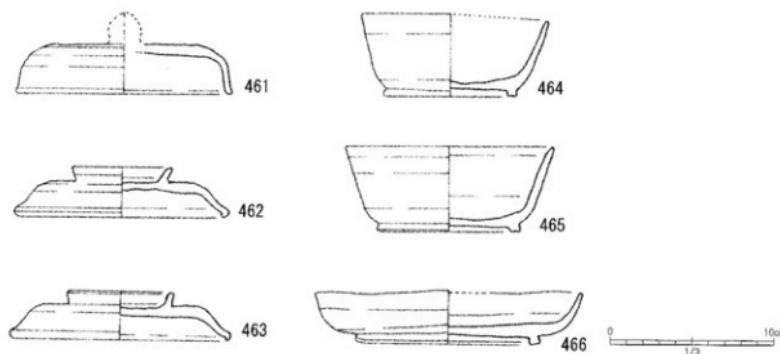
442



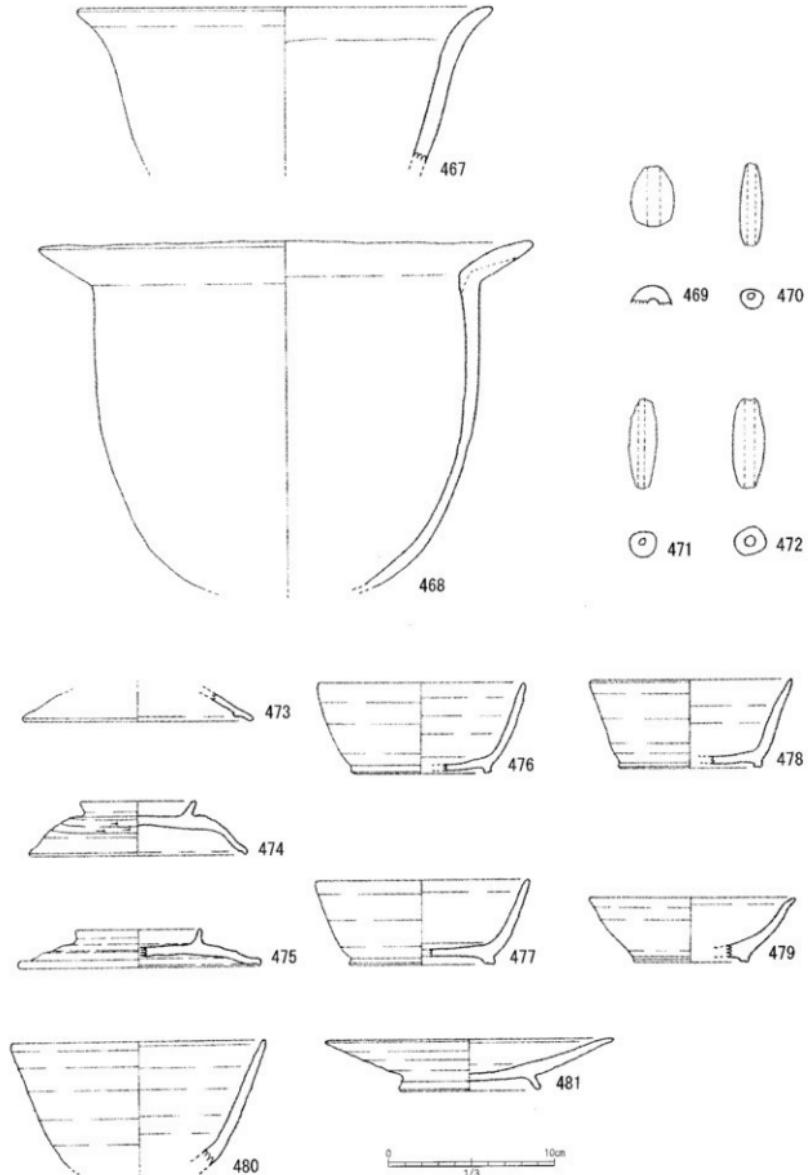
第98図 中小路遺跡E区遺構出土遺物実測図 -SKE2、SKE6-



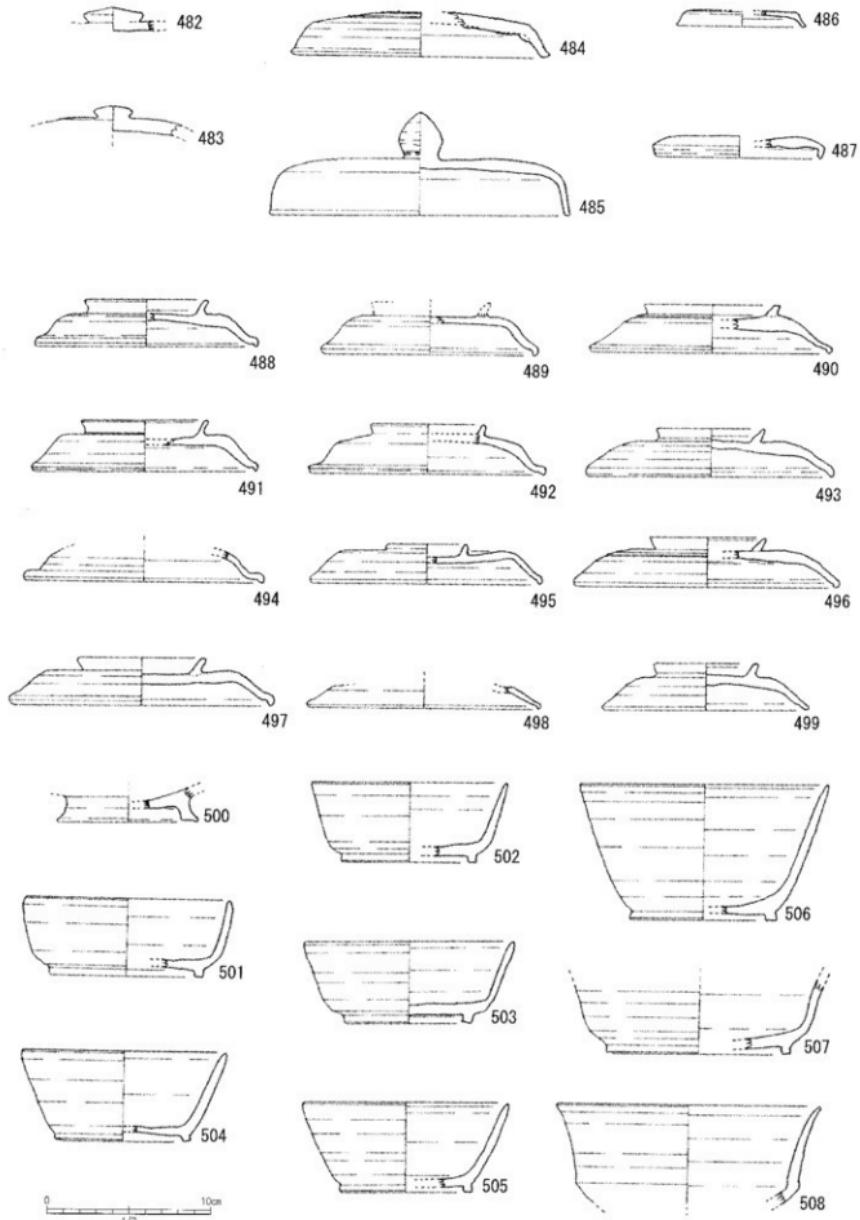
第99図 中小路遺跡E区遺構外出土遺物実測図



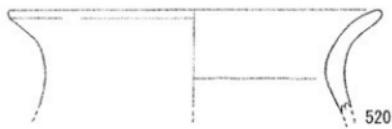
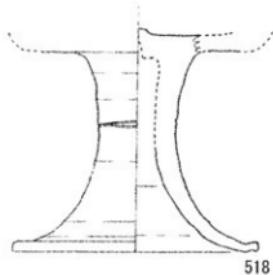
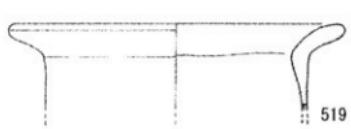
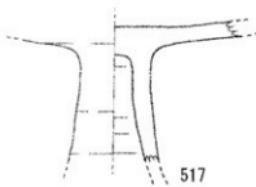
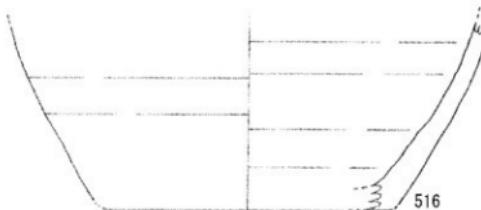
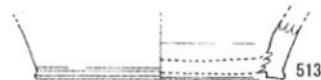
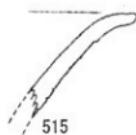
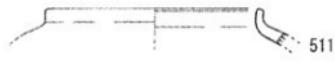
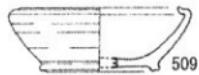
第100図 中小路遺跡F区遺構出土遺物実測図 ① -SKF3-



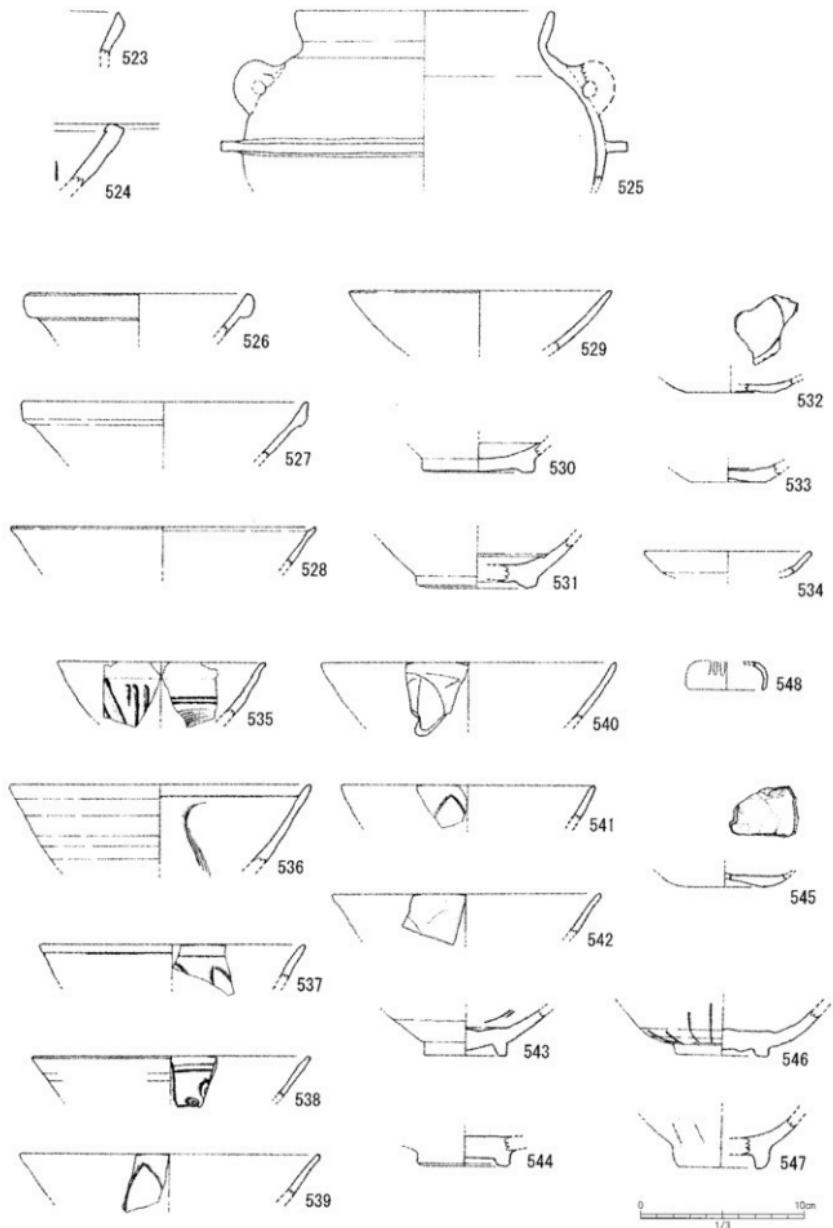
第101図 中小路遺跡F区遺構出土遺物実測図 ②—SKF3、SKF39—



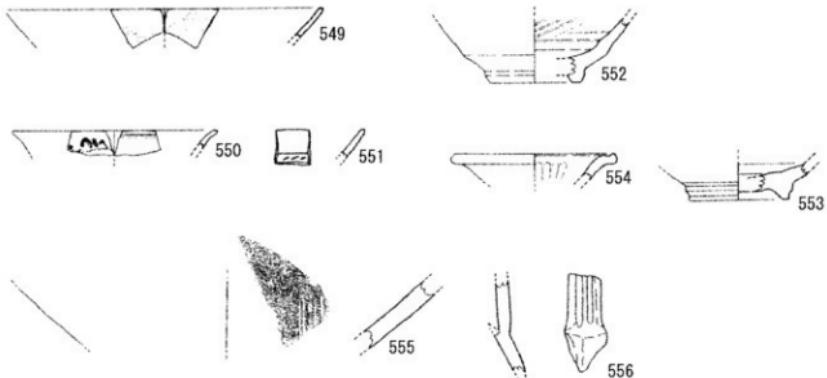
第102図 中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図 ①



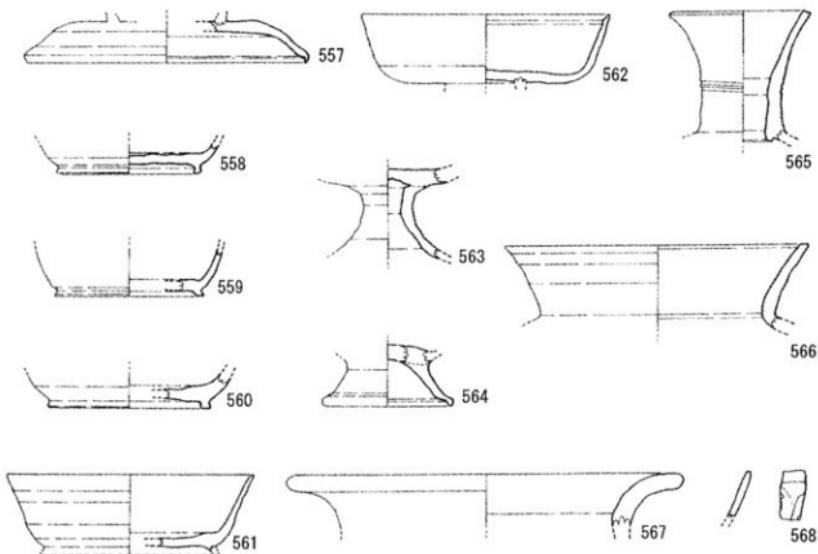
第103図 中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図 ②



第104図 中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図③



第105図 中小路遺跡F区遺構外出土遺物実測図④



0
10cm
1/3

第106図 中小路遺跡G、H、I区遺構外出土遺物実測図

第1表 家下遺跡A区出土遺物観察表

遺物 番号	発見 場所 番号	出土 地點	層別	種類	法量 (cm)	形態・手法等	調整	色第	胎土	焼成	備考
1 55	4層	弥生土器	柵 (口径)	4.6	深いV字状の底に外側に立ち上がり、口縁部は外上に弧状。口縁部・口部は内側に平行な4面壁。(内)ナデ		洗黄色	胎糸合ひ	良好		
2 56	8層	弥生土器	柵 (口径)	20.0	複合口縁。複合口下方に千鳥目。口縁部は内上に立ち上がり。縁部は斜削形。口縁部は平行4面壁。(外)ナデ、ケズリ	外)深褐色 (内)灰褐色	胎糸合ひ	良好			
3 55		弥生土器	裏 (口径)	11.5	複合口縁。複合部に小口縁。口縁部は外側面的で、口縁部に平行な4面壁。(内)ナデ、ケズリ、風化の為不鮮明。(外)ナデ	外)洗黄色 (内)灰白色	2mm以下 (内)褐色	やや不鮮明。 唐中期			
4 55	8層	弥生土器	西 (底径)	8.0	上口直。 風化の為不鮮明。	外)ナデ	2mm以下 (内)褐色	やや不良 砂を含む。			
5 56	8層	弥生土器	高床 (外縦)	30.0	複合から複合へと窓型部はなくなり、ややから口縁部に内側に立ち上がり、外側に4面壁。(内)ナデ、ケズリ、風化の為不鮮明。	外)細粒橙色 (内)白	胎糸合ひ	良好			
6 55	4層	須恵器	蓋 (つまみ紐)	2.5	ボタン状つまみ。(つまみ中央部に凹面)度数。(内)ナデ	内外)灰白色 (内)白	密	外縫全面内に 施灰			
7 55	3層	須恵器	蓋 (つまみ紐)	1.9	ボタン状つまみ。(つまみ中央部に凹面)度数。(内)ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好			
8 55	4層	須恵器	口 (縁)	12.5	口縁部に内側に立ち上がり、内側に4面壁。縁部に内側に4面壁。内側に4面壁。(内)ナデ	外)灰色 (内)白	密	良好			
9 55	3層	須恵器	口 (縁)	15.0	口縁部に内側に立ち上がり、内側に4面壁。内側に4面壁。(内)ナデ	外)灰色 (内)白	1mm以下の 白色混入。				
10 56	4層	須恵器	蓋 (口縁)	11.0	複合つまみ。縁張る。端部や内側に下部。(外)ナデ、ケズリ、風化の為不鮮明。(内)ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好			
11 55	4層	須恵器	蓋 (口縁)	12.0	正形。口縁部強く折り曲げ。縁部はやや外側に下部。(内)ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好			
12 55	4層	須恵器	蓋 (つまみ紐)	2.0	複合つまみ。肩へ口縁部にかけて外反し、内側部は下垂。(内)ナデ、ナデ	外)灰白色 (内)白	密	やや不良 軟質			
13 55		須恵器	口 (縁)	12.5	逆S型の低い窓。輪状つまみは強く外反。(内)ナデ、内縫全面施縫。	外)灰白色 (内)白	密	外縫全面部 を施灰による 変色			
14 55	3層	須恵器	蓋 (つまみ紐)	5.5	複合つまみ。天井部輪廓線、肩部強く張り。(外)ナデ、ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好			
15 55		須恵器	高台付环 (高台怪)	1.2	高く「ハ」の字状に踏ん張る高台。	外)内)灰褐色	密				
16 55		須恵器	脚付蓋 (高台怪)	10.0	底部と体部の境に高台。(外)ナデ、内)ナデ、ナデ	外)灰白色 (内)白	密	高台内にヘラ 記号			
17 55	7	須恵器	口 (縁)	15.0	口縁部内部に押さえて突き出をなす。体上。(外)ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好			
18 55	3層	須恵器	高台付环 (高台怪)	8.0	「ハ」の字状の高い高台。内側に小さく凹む。(外)ナデ、内)ナデ、内縫ナデ後ナデ	外)灰白色 (内)白	2mm以下の 白色混入。	良好			
19 55	3層	須恵器	高台付环 (高台怪)	9.0	肩部や内よりにつく。底部と体部の境に内側に凹む。	外)内)灰褐色	密	良好			
20 56	4層	須恵器	西? (口縁)	14.0	口縁部は内方に屈折。口縁部上面に内凹。(外)ナデ	外)灰褐色 (内)白	1mm以下の 白色混入。	良好	外縫一部被灰		
21 55	7	須恵器	小器 (縫縫)	6.0	3段式尖(あこがれ)底。縫縫部上に凸起があり、また(外)ナデ、内)ナデ、内縫ナデ後ナデ	外)灰褐色 (内)白	密	良好			
22 55	7	須恵器	脚付蓋 (高台怪)	8.0	3段式尖(あこがれ)底。縫縫部上に凸起があり、また(外)ナデ、内)ナデ、内縫ナデ後ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好	縫縫内にヘラ 記号		
23 55	7	須恵器	長縫壺	2.0	縫縫部中位に角の平行旋渦。縫縫部に接着。(外)ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好	縫縫内にヘラ 記号		
24 55	4層	須恵器	西 (底径)	1.0	外縫部に縫縫を刻む。(外)ナデ、内)ナデ、内縫ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好	縫縫内に 施灰		
25 55	8層	土師器	蓋 (口縁)	1.0	受け部全体的に、縫縫部をくくる。縫縫部下部で大きく屈曲。(内)ナデ、ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好	外縫全面に 施灰		
26 55	8層	土師器	蓋 (口縁)	1.0	受け部全体的に、縫縫部をくくる。縫縫部下部で大きく屈曲。(内)ナデ、ナデ	外)灰白色 (内)白	密	良好	外縫全面に 施灰		
27 55	7	土師器	脚付蓋 (高台怪)	1.0	「ハ」の字状で底縫部に開き、縫縫部下部で風化の為不鮮明。(外)ナデ、内)ナデ	外)灰白色 (内)白	2mm以下の 白色混入。	良好			
28 55	4層	土師器	敷把手	1.0	ナデ、ハケ目、ケズリ	外)灰白色 (内)白	密	良好			
29 55	7	土師器	裏 (高台付环)	7.0	高くふんわりした高台で、表面凹凸感。底部を内側に切り倒す。(内)ナデ	外)内)灰褐色 (内)白	密	良好			
30 55	4層	土師器	横 (口縁)	11.0	縫縫部「ハ」の字状に屈曲。口縫縫部に内凹。(外)ナデ、ハケ目、ケズリ	外)内)灰褐色 (内)白	3mm以下の 白色混入。	良好	布留式		
31 55	4層	土師器	裏 (口縁)	10.0	縫縫部「ハ」の字状に屈曲。縫縫部下面に内凹。(外)ナデ、ケズリ	外)内)灰褐色 (内)白	密	良好			
32 55	3層	土師器	蓋 (口縁)	22.0	ナデ、ハケ目、ケズリ	外)内)灰褐色 (内)白	3mm以下の 白色混入。	良好			
33 55	4層	土師器	縛 (口縁)	1.0	「ハ」の字状に外反。(外)ナデ、内)ナデ、ケズリ	外)内)灰褐色 (内)白	2mm以下の 白色混入。	良好			
34 55	4層	土師器	皿 (口縁)	21.0	1体部内側で立ち上がり、口縫縫部で外反。(外)ナデ	外)内)灰褐色 (内)白	密	良好	全面赤色顔料		
35 55	7	土師器	皿 (高台付环)	15.0	口縫縫部や内側上方にしまづら。(外)ナデ	外)内)灰褐色 (内)白	2mm以下の 白色混入。	良好			
36 55	3層	磁器	白磁碗	1.0	口縫縫部で内側に立ち上がり、口縫縫部で外反。(外)ナデ	外)内)灰褐色 (内)白	胎I灰白色 胎II白磁	良好	白磁IV類		
37 55	7	2層	磁器	皿	胎II灰白色	胎I灰白色 胎II白磁	密	良好			
38 55	3層	磁器	青磁碗 (口縁)	14.0	内側に外反。(外)ナデ	胎II灰白色 胎IIオリーブ灰	密	良好	龍泉系茶碗B2		
39 55	4層	磁器	青磁碗 (口縁)	13.0	内側に外反。(外)ナデ	胎II灰白色 胎IIオリーブ灰	密	良好	龍泉系茶碗C2		
40 55	7	6層	磁器	青磁碗 (口縁)	14.0	縛書き捺文。	胎II灰白色 胎IIオリーブ灰	密	良好	龍泉系茶碗D4	
41 55	2層	磁器	碗 (底径)	5.0	胎II灰白色。底内側に内凹。(外)ナデ	胎II灰白色 胎II黄褐色	密	良好	胎解剖 16℃～17℃初		
42 55	4層	磁器	皿 (口縁)	12.0	底内側に内凹。(外)ナデ	胎II灰白色 胎II黄褐色	密	良好			
43 55		土師器	皿 (口縁 底径)	1.5	底部凹部切り。内側底部に溝状圧痕。(外)ナデ	胎II灰白色 胎II黄褐色	密	良好			

44	57		5層	磁器	盤 7 (近程) 5.4 盤(口径)	外) ナデ、施面圧痕あり (2) 斜いヶけ	釉土 洗黄褐色 釉面有压痕凹凸	密	良好	調査
45	57		4層	瓦質土器	盤(口径)	外) ナデ、施面圧痕あり (2) 斜いヶけ	灰白色	密	良好	
46	57		4層	瓦質土器	口徑、様子不明。	外) ナデ (3) 斜いヶけ	外) 浅灰色 (3) 斜いヶけ	密	良好	
47	57		陶器	すり鉢 (底径)	11.0~7×7×1単位の残り目 長さ) 4.5 幅) 0.5	外) ナデ (内) ナデ	内) 白色 外) 反色	密	良好	調査系
48	57		4層	土器	長さ) 4.5 幅) 0.5 高さ) 3.4 底面(口) (底) 孔(底)	1.2) 前縁形 1.3) 前縁形 1.4) 前縁形 1.5) 中央部や脚らみ、両側が聞く棒状形。 長さ) 4.1 底面(口) (底) 孔(底)	灰白色	密	良好	
49	57		3層	土器	高さ) 4.1 底面(口) (底) 孔(底)	1.4) 前縁形 1.5) 中央部や脚らみ、両側が聞く棒状形。 長さ) 4.0 底面(口) (底) 孔(底)	にぶい黃褐色	密	良好	
50	57		5層	土器	高さ) 4.1 底面(口) (底) 孔(底)	1.5) 中央部や脚らみ、両側が聞く棒状形。 長さ) 4.0 底面(口) (底) 孔(底)	明赤褐色	密	良好	
51	57		8層	土器	高さ) 4.1 底面(口) (底) 孔(底)	1.4) 中央部や脚らみ、両側が聞く棒状形。 長さ) 4.0 底面(口) (底) 孔(底)	暗色	密	良好	
52	57		6層	土器	高さ) 4.1 底面(口) (底) 孔(底)	1.2) 棒状形 1.3) 棒状形 1.4) 棒状形	灰白色	密	良好	

第2表 家下遺跡B区出土遺物観察表

遺物番号	図版名	出土	層位	種別	香椎	法縫(cm)	形态・手法等	調整	色調	釉土	焼成	備考
53	58		5層	磁器	壺蓋 (口径)	17. 大型で、低い器の器形。かえりは小さく、又片開よりにつく。に縦筋部が付く。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰白色	密	良好		
54	58		2層	磁器	壺蓋 (口径)	14. 4) 小さく、浅器よりにつく。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰白色	密	良好		
55	58		4層	磁器	壺蓋 (口径)	12. 大型の器、構造は底で乳の外方に下垂。側部部に斜めに縦筋部が付く。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰色	密	良好		
56	58		4層	磁器	壺蓋 (口径)	13. 瓦状つき込み、又片開から側部への移行は強くつまづき、内側は器底から内側に反し、縫合はさくらん。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	青灰色	密	良好	口縫部重ね焼きによる変色	
57	58		4層	磁器	壺蓋 (口径)	13. 6) 瓦状つき込み、又片開から側部への移行は弱くつまづき、内側は器底から内側に反し、縫合はさくらん。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰色	密	良好		
58	58		4層	油壺	壺蓋 (口径)	14. 0) 瓦状つき込み、又片開から側部への移行は強くつまづき、内側は器底から内側に反し、縫合はさくらん。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰色	密	良好	口縫部重ね焼きによる変色(被焼)	
59	58		4層	直筒器	蓋 (2つ口)(裏面)	6.8) 1) 円形の蓋から片開水平で、底面部から「い」字状の下端。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の白化焼け	良好		
60	58		4層	直筒器	直筒(西台型)	8. 頭済済の器、唇ぐくの内側が丸く、背は平、唇は斜めで、側部部に斜めに縦筋部が付く。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰白色	密	良好		
61	58	8	4層	直筒器	直筒(西台型)(裏面)	1.8) 脇(いわ)の字状に聞く縦筋的な体形、口縫部は丸くおさまる。底・側部均不透明。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰色	密	良好		
62	58	8	5層	以容器	直筒(西台型)(裏面)	7.5) 瓦状と丸くおさまる。底・側部均不透明。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	青灰色	密	良好		
63	58		4層	直筒器	口(口径)	15. 直筒台は瓦状につく。蓋(いわ)の字状に聞く。蓋面部は斜めで、側部部に斜めに縦筋部が付く。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰色	密	良好		
64	58		4層	直筒器	口(口径)	13.4) 瓦状の器、底・側部内側部に浮き上がり。口縫部は斜めで、側部部に斜めに縦筋部が付く。	外) 回転ナデ、ナデ? (被焼の為不詳) (内) 回転ナデ	灰色	密	良好		
65	58		2層	直筒器	口(口径)	11. 不透明と半透明で食器。口縫部は斜めで、側部部に斜めに縦筋部が付く。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	外) 灰色 内) 反色	密	良好		
66	58		4層	直筒器	窓(窓)	15. 改めて直筒として立てるための体形。口縫部に内側に肥厚。口縫部は斜めに。	外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	灰色	密	良好	外側被焼	
67	59	8	6層	土師器	台付(口径)	11. 直筒へ口縫部にかけて内側し、ボーダー状に差す。	外) 窓(いわ)口付ナデ、ナデ? (内) 窓(いわ)口付ナデ	外) 緑色 内) にぶい褐色	密	良好	被焼含む	
68	59		6層	土師器	小型窓(口径)	12. 直筒へ口縫部にかけて脛やかに外反し。口縫部は斜めで、側部部に斜めに縦筋部が付く。	外) 瓷化の為不詳 (内) 瓷化の為不詳	浅黄褐色	密	良好	被焼含む	
69	59		4層	土師器	直筒(西台型)	7.2) 「いわ」の字状に聞く直筒。	外) ナデ(被焼の為不詳) (内) 瓷化の為不詳	外) にぶい褐色 内) 反色	3mm以下の良好 密	良好	被焼含む	
70	59		2層	土師器	所(底径)	5.1) 直筒・底部縁を絞る。底部回転式切り。	外) 瓷化の為不詳	緑色	密	良好		
71	59	8	5層	土師器	窓(窓)	14. 窓(いわ)の字状に斜めに彎曲し、口縫部は逆「いわ」の字状に外反する。	外) ナデ、ハケ目、指壓凹痕あり (内) ナデ、ケズリ	浅黄褐色	密	良好		
72	59		4層	土師器	窓(窓)	22.4) 窓(いわ)の字状に屈曲し、口縫部は短く外反。	外) ナデ(被焼の為不詳) (内) ナデ(被焼の為不詳)	2mm以下の良好 密	良好			
73	59		4層	土師器	直(底径)	13. 底部回転式切り。直筒内底に油状沾染底。	外) 瓷化の為不詳 (内) 回転ナデ	緑色	密	良好		
74	59		4層	土師器	窓(窓)	14. 窓(いわ)の字状に斜めに彎曲し、口縫部は逆「いわ」の字状に外反する。	外) ナデ、ハケ目、指壓凹痕あり (内) ナデ、ケズリ	釉土 白色 釉土 反色	密	良好	窓(窓)系の切縫	
75	59		4層	土師器	青窓(窓)	15. 土窓窓で、直筒五角窓。窓は完全に厚く、側面窓で、窓枠を斜め張り。窓(いわ)内部分が窓枠で、窓枠を斜め張り。	外) 瓷化の為不詳 (内) 回転ナデ	釉土 白色 釉土 反色	密	良好		
76	59		2層	土師器	窓(窓)	口縫、窓(いわ)。	外) 瓷化の為不詳 (内) 回転ナデ	釉土 反色 釉土 白色	密	良好	160中	
77	59		1層	土師器	染付窓	窓(窓)部に墨で書き直し。全體輪輪。内側底・底部に墨。	外) 瓷化の為不詳 (内) ナデ、ケズリ	釉土 反色 釉土 白色	密	良好		

第3表 家下遺跡C区出土遺物観察表

遺物番号	図版名	出土	層位	種別	香椎	法縫(cm)	形态・手法等	調整	色調	釉土	焼成	備考
78	60	C3区	53層	衍生土器	壺(口径)	13. やや直筒気味の壺。口縫部上方に肥厚。口縫部の内側に斜めに縦筋部が付く。	外) 強いケイデ、ハケ目? (内) ナデ、ケズリ	浅黄褐色	3mm以下の石膏含む。	やや不良		
79	60	C3区	53層	衍生土器	壺(口径)	13. 壺(いわ)の字状に斜めに彎曲し、口縫部上方に肥厚。口縫部の内側に斜めに縦筋部が付く。	外) 強いケイデ、ハケ目? (内) ナデ、ケズリ	浅黄褐色	3mm以下の石膏含む。	やや不良		
80	60	C3区	54層	衍生土器	壺(口径)	14. 壺(いわ)の字状に斜めに彎曲し、口縫部上方に肥厚。口縫部の内側に斜めに縦筋部が付く。	外) 強いケイデ、ハケ目? (内) ナデ、ケズリ	浅黄褐色	2mm以下の石膏含む。	やや不良		

81	60	C3区	50層	寄生土器	壁	口径	20.0	複合口縫。複合部を水平方向に突出。口縫部が複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ハケ 内) ケズリ、風化の為不鮮明	褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	やや不良			
82	60	C3区	53層	寄生土器	台面			複合口縫部の受け部。複合部斜め下方に外) ハケ後ミガキ 突出。13段以上の中間部底盤。	外) ナデ 内) ハケ 内) ケズリ	褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好			
83	60	C3区	2層	須恵器	灰面	口径	15.0	複状つまみ。天井と一体部への移行部鋸歯や外) 反気孔の口縫部。底盤部小さく下へ傾く。	外) 丸転ナデ 内) 丸転ナデ、ナデ	黒灰色	1mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	口縫部重ね焼きによる変色		
84	60	B	C3区	54層	須恵器	灰面	口径	5.0	複状つまみ。天井と一体部への移行部鋸歯や外) 反気孔の口縫部。底盤部小さく下へ傾く。	外) 丸転ナデ 内) 丸転ナデ、ナデ	灰白色	2mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好		
85	60	C3区	54層	須恵器	灰面	口径	5.0	複状つまみ。天井と一体部への移行部鋸歯や外) 反気孔の口縫部。底盤部小さく下へ傾く。	外) 丸転ナデ 内) 丸転ナデ、ナデ	灰白色	2mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	口縫部重ね焼きによる変色(裏面)		
86	60	C3区	53層	須恵器	高台付	口径	2.0	須付部に重ね焼き感。全周底盤。内底盤。外) 丸転ナデ	外) 緑灰色 内) 灰色	墨	墨内に白い斑点がある。	良好	墨内に白い斑点がある。		
87	60	C3区	53層	須恵器	高台付	口径	4.0	須付部へら切り窓。底部境に破け痕。外) 丸転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内) 2段継ぎ窓。底部境に破け痕。高台内凹 3段以上につき。須付部傾いて凹状。	外) 丸転ナデ 内) 丸転ナデ、ナデ	暗灰色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好			
88	60	B	C3区	54層	須恵器	高台付	口径	4.0	須付部へら切り窓。須付部傾いて凹状。 須付部へら切り窓。須付部傾いて凹状。	外) 丸転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内) 丸転ナデ、ナデ	灰白色	墨	墨内に白い斑点がある。	良好	外面被灰
89	60	C3区	53層	須恵器	高台付	口径	4.0	須付部へら切り窓。須付部傾いて凹状。 須付部へら切り窓。須付部傾いて凹状。	外) 丸転ナデ、回転アーチナデ 内) 丸転ナデ、ナデ	灰白色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好			
90	60	B	C3区	53層	須恵器	高台付	口径	4.0	須付部へら切り窓。須付部傾いて凹状。 須付部へら切り窓。須付部傾いて凹状。	外) 丸転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内) 丸転ナデ	灰白色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好		
91	60	B	C3区	53層	須恵器	短縫唇	口径	1.0	直角的な開口。肩部強く張る。口縫部がくぼむ。	外) 回転ナデ、回転ケズリ後ナデ 内) 回転ナデ	墨	墨内に白い斑点がある。	良好	外面上部・内底盤被灰	
92	61	9	C3区	2層	須恵器	底	底径	10.0	「八」の字形に開く直高台。口縫部に辺板。底部上位、中位ではそれぞれ1条の内縫部があり、各次元部間に凹字文がある。	外) 回転ナデ、風化氣味 内) 下槽	灰白色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好		
93	61	9	C1区	周邊	須恵器	長縫唇	口径	10.0	口縫部に直高台。内縫部に凹字文7個ある。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	墨白色	5mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	外面半分被灰	
94	61	9	C3区	53層	須恵器	長縫唇	最大径	16.0	直高台。口縫部へら切り窓。直高台	外) 丸転ナデ 内) 丸転ナデ	墨白色	5mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	外面上部被灰	
95	61	9	C3区	53層	須恵器	要	口径	16.0	直高台。口縫部へら切り窓。直高台	外) 丸転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内) 丸転ナデ	黄灰色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好		
96	61	9	C3区	53層	須恵器	要	口径	16.0	直高台。口縫部へら切り窓。直高台	外) 丸転ナデ、同心円タウツタナデ 内) 丸転ナデ	墨	墨内に白い斑点がある。	良好		
97	61	C3区	53層	土器類	高台付	口径	11.0	須付部引き込みの直高台。底部境不規則。高台外縁につく。須付内底盤に立ち上がる。	外) ナデ 内) ナデ	墨	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	全面に赤色剥落		
98	61	C1区	12層	土器類	直(底部)	口径	12.0	須付部の直高台。須付部に立てる。	外) 薄墨褐色 内) 墨	墨	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	墨内に白い斑点がある。		
99	61	C2区	6層	土製品	土縫	長さ	6.0	「音玉状」 「大根大団」 「丸子」	外) 灰白色 内) 灰白色	墨	墨内に白い斑点がある。	良好			

第4表 家下道路D区出土遺物観察表

遺物(構造)区分番号	出土地点	層位	種別	種類	法量 (cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考		
100	62	土壠柵1	寄生土器	壁	口径	15.0 馬蹄型	複合口縫。複合部が水平方向に突出。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ハケ 内) ハケ 内) ケズリ	にぶい黄褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	終末	
101	62	土壠柵1	寄生土器	壁	口径	16.0	複合口縫。複合部が水平方向に突出。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ハケ 内) ケズリ	墨白色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	終末	
102	62	土壠柵2 (基壇)	土師器	壁	口径	17.0	複合口縫。複合部へら切り窓。口縫部に反覆す(内)。馬蹄型。	外) ナデ 内) ナデ	にぶい黄褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	輪作付着	
103	62	土壠柵2	寄生土器	壁	口径	18.0	複合口縫。複合部へら切り窓。全周底盤。内底盤。外) ナデ 内) ナデ	外) 丸転ナデ 内) 丸転ナデ	墨白色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	終末	
104	62	土壠柵2	寄生土器	壁	口径	19.0	複合口縫。複合部へら切り窓。全周底盤。内底盤。外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ、指捺痕	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ、指捺痕	淡黃褐色	墨	墨内に白い斑点がある。	良好	終末
105	63	9	2層	須恵器	壺	口径	31.0	複合口縫。複合部へら切り窓。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ	淡黃褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	西部瀬戸内系 複合口縫器
106	63	4層	須恵器	壁	口径	31.0	複合口縫。複合部へら切り窓。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ	にぶい褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	終末	
107	63	9	4層	須恵器	壁	口径	31.0	複合口縫。複合部へら切り窓。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ	淡黃褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	終末
108	63	4層	須恵器	壁	口径	32.0	複合口縫。複合部へら切り窓。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ	にぶい黄褐色 内) 淡黃褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	終末	
109	63	4層	須恵器	壁	口径	36.0	複合口縫。複合部へら切り窓。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ	外) にぶい黄褐色 内) 淡黃褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	内面一部剥落	
110	63	4層	須恵器	壁	口径	35.0	複合口縫。複合部へら切り窓。口縫部は複数段で構成され、各段の内側に凹凸がある。	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ	淡黃褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	終末	
111	63	12層	須恵器	青(述近)	底	1.0	摩耗はあるが小さい平面。	外) 大川口貝 内) ケズリ	淡黃褐色	3mm以下の白色地に黒い斑点がある。	良好	外被灰(自然)	
112	63	9	4層	須恵器	低脚壺	口径	18.0	球形体形の环状。丸く素面して立ち上がる。	外) 三足 内) 丸	墨	墨内に白い斑点がある。	良好	
113	63	2層	土師器	鉢形台付	底径	16.0	脚部。底盤がくぼむ。脚部強く渦曲。	外) ナデ 内) ナデ 内) ケズリ	墨	墨内に白い斑点がある。	良好		

第5表 中小路道路A区造構出土遺物観察表

遺物(構造)区分番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考	
114	64	溝状遺構	須恵器	高台付	口径	6.0	貼り付け高台。高台部細く、ほぼ直立。	外) 回転ナデ	灰褐色	胎内充填物。	良好	外被灰(自然)
115	64	溝状遺構	須恵器	壺				外) 回転ナデ、指捺痕あり	墨	胎内充填物。	良好	外被灰(自然)

品目	規格	部品名	把手	牛角状把手。	外) ナデ	明黄褐色	5mm 以下 砂粒含む。	良好
116 64	深状通槽	土耕器	把手	単脚式。口吹式。手動式。地上にやかましく。軽量。軽量。底部へ向く。把手工事による。(丸)	内) ナデ、直角の直角ナデ、ケズリ指揮度あり	浅黄褐色	5mm 以下 砂粒含む。	良好
117 64	SX02	深生土器	把手	口径) 20.0mm。底面は斜面。底部へ向く。把手工事による。(丸)	外) ナデ、直角の直角ナデ、ケズリ	5mm 以下 砂粒含む。	良好	口縁下部～体上部スス付着
118 64	SX02	深生土器	把手	口径) 15.0mm。複合型。複合型を組み立てて。底面は斜面。底部へ向く。把手工事による。(丸)	内) ナデ、直角の直角ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	体部スス付着
119 64	SX02	深生土器	把手	口径) 15.0mm。複合型。複合型を組み立てて。底面は斜面。底部へ向く。把手工事による。(丸)	外) 明黄褐色 内) 3mm 以下 砂粒含む。	2mm 以下 砂粒含む。	良好	体部スス付着
120 64	SX02	深生土器	把手	口径) 12.0mm。くわめる。把手工事による。(丸)	内) ナデ、ケズリ	5mm 以下 砂粒含む。	良好	把手部スス付着
121 64	SX02	深生土器	把手	口径) 12.0mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	5mm 以下 砂粒含む。	良好	把手部スス付着
122 64	SX02	深生土器	広口 扉	12.0mm。把手工事による。(丸)	内) ナデ、ケズリ	5mm 以下 砂粒含む。	良好	把手部スス付着
123 64	SX02	土耕器	高杯	口径) 20.0mm。底面は斜面。底部へ向く。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	5mm 以下 砂粒含む。	良好	把手部スス付着
124 65	SX04	穿斗土器	把手	口径) 14.8mm。底面は斜面。底部へ向く。把手工事による。(丸)	外) ハラ、ナデ	4mm 以下 砂粒含む。	良好	体下部、口縁下部～スス付着
125 65	SX04	穿斗土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	内) ハラ、ナデ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
126 65	SX04	穿斗土器	底部 快移	4.0mm。底部へ向く。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
127 65	SX04	穿斗土器	把手	口径) 14.8mm。底面は斜面。底部へ向く。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面下部スス付着
128 65	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	4mm 以下 砂粒含む。	良好	体下部、口縁下部～スス付着
129 65	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
130 65	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。底面は斜面。底部へ向く。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	4mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面下部スス付着
131 65	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
132 66	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	TC
133 66	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
134 66	土耕器 0.5 間	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
135 66	土耕器 0.5 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
136 66	土耕器 0.5 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
137 67	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
138 67	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
139 67	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
140 67	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
141 67	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
142 67	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	1mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
143 67	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	5mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
144 67	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
145 67	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	ス付着
146 67	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	4mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
147 67	土耕器 0.4 間	深生土器	把手	14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	5mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
148 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
149 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	体部外表面スス付着
150 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
151 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
152 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	3mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
153 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
154 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
155 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	外表面スス付着
156 68	土耕器	深生土器	把手	口径) 14.8mm。把手工事による。(丸)	外) ナデ、ケズリ	2mm 以下 砂粒含む。	良好	ス付着

157	68	土器部④ 4脚 弥生土器	腰 (口径)	縫合口縫、口縫に13mm以上の平行状歯文。縫合口(外) ノデ(ヨコ)、ハケ(ナメ)	縫合口縫、口縫に13mm以上の平行状歯文。縫合口(外) ノデ(ヨコ)、ハケ(ナメ)	浅黄褐色 3mm以下 砂粒含む	良好	
158	68	土器部④ 4脚 弥生土器	腰 (口径)	縫合口縫、口縫に13mm以上の平行状歯文。縫合口(外) ノデ(ヨコ)、ハケ(ナメ)	縫合口縫、口縫に13mm以上の平行状歯文。縫合口(外) ノデ(ヨコ)、ハケ(ナメ)	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 3mm以下 砂粒含む	良好	
159	68	土器部④ 4脚 弥生土器	腰 (口径)	縫合口縫、口縫に13mm以上の平行状歯文。縫合口(外) ノデ(ヨコ)、ハケ(ナメ)	縫合口縫、口縫に13mm以上の平行状歯文。縫合口(外) ノデ(ヨコ)、ハケ(ナメ)	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 3mm以下 砂粒含む	良好	
160	69	土器部④ 4脚 弥生土器	底部 (底径)	小製品、縫合部に浅く下向方に突出。外ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ	小製品、縫合部に浅く下向方に突出。外ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
161	69	土器部④ 3脚 弥生土器	底部 (底径)	底部僅かに上延。シボリ状に浅くくぼませる。	底部僅かに上延。シボリ状に浅くくぼませる。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	底部ス付番
162	69	土器部④ 3脚 弥生土器	底部 (底径)	底部僅かに上延。シボリ状に浅くくぼませる。	底部僅かに上延。シボリ状に浅くくぼませる。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	底部ス付番
163	69	土器部④ 3脚 弥生土器	底部 (底径)	底部上延。シボリ状に浅くくぼませる。	底部上延。シボリ状に浅くくぼませる。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
164	69	土器部④ 弥生土器 (底部)	底部 (底径)	底部は上延。底、縫合部の縫合跡。シボリ状に外ハケナデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ	底部は上延。底、縫合部の縫合跡。シボリ状に外ハケナデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	外周ス付番
165	69	土器部④ 弥生土器 (底部)	底部 (底径)	底部にすり切る。縫合部に浅くくぼませる。	底部にすり切る。縫合部に浅くくぼませる。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	体上部、内面 にス付番
166	69	二重底② 2脚 弥生土器	底部 (底径)	底部平底。シボリ状に浅くくぼませる。	底部平底。シボリ状に浅くくぼませる。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
167	69	土器部④ 弥生土器	底部 (底径)	底部平底。	底部平底。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	
168	69	土器部④ 弥生土器 (底部)	底部 (底径)	「ハ」字状に聞く高めの台面。	「ハ」字状に聞く高めの台面。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
169	69	土器部④ 弥生土器 (底部)	底部 (底径)	底部上延。	底部上延。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	体下部ス付番
170	69	土器部④ 弥生土器 (底部)	底部 (底径)	底部平底。	底部平底。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
171	69	土器部④ 弥生土器 (底部)	底部 (底径)	「ハ」字状に上延。	「ハ」字状に上延。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
172	69	土器部④ 弥生土器 (底部)	底部 (底径)	底部は浅く延び、底、体部場の後は上延。シボリ状に左側に凹み、右側に凸み。	底部は浅く延び、底、体部場の後は上延。シボリ状に左側に凹み、右側に凸み。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	内外ス付番
173	69	二重底④ 4脚 弥生土器	底部 (底径)	底部上延。底部には直立して立ち上がるがる。	底部上延。底部には直立して立ち上がるがる。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	
174	69	二重底④ 4脚 弥生土器	底部 (底径)	平底。	平底。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
175	69	土器部④ 弥生土器	底部 (底径)	やわらい丸底の平底。	やわらい丸底の平底。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	底部ス付番
176	70	土器部④ 弥生土器	高环 (口径)	手彌足「ハ」字状に大きく開き、脚部は小さく閉める。	手彌足「ハ」字状に大きく開き、脚部は小さく閉める。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	
177	70	土器部④ 弥生土器	高环 (口径)	外側・脚部場は「ハ」字状に屈曲。	外側・脚部場は「ハ」字状に屈曲。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	
178	70	土器部④ 弥生土器	培 (口径)	外側から立ち上がりにくおさめる。	外側から立ち上がりにくおさめる。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
179	70	土器部④ 弥生土器	培或高环 (口径)	複合土縫合で縫合部を強く下向方に安治。口縫合部。内ナデ(ミガキ(頭部))	複合土縫合で縫合部を強く下向方に安治。口縫合部。内ナデ(ミガキ(頭部))	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	
180	70	二重底④ 石器	砾石 (底径)	5.5mm使用。剝いて細条数多め。	5.5mm使用。剝いて細条数多め。			
181	70	土器部④ 4脚 上仰脚 7	腰 (口径)	口縫合部噴狀。	口縫合部噴狀。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
182	70	土器部④ 4脚 上仰脚	腰 (口径)	底部第2子、腰部は弓状に屈曲。	底部第2子、腰部は弓状に屈曲。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	
183	70	土器部④ 4脚 土師器 (底部)	底部 (底径)	底部「ハ」字状に屈曲。底部は内側に凹む。底部は内側に凹む。	底部「ハ」字状に屈曲。底部は内側に凹む。底部は内側に凹む。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	
184	70	土器部④ 4脚 土師器	堆 (口径)	体部大部は内側に凹む位置。口縫合部や腰部は内側に凹む。	体部大部は内側に凹む位置。口縫合部や腰部は内側に凹む。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	ス付番
185	70	土器部④ 4脚 土師器	堆 (口径)	体部大きめ。腰部、口縫合部内側に斜め下延。内側に張り出し、内側する。	体部大きめ。腰部、口縫合部内側に斜め下延。内側に張り出し、内側する。	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 1mm以下	良好	

第6表 中小路道路A区構造出土遺物観察表

遺物 名	出土地 名	出土 部位	種類	器形 (底径)	法量 (cm)	形態・手法等	調査	色調	崩 損	備考
186	71	A6区 4脚 縫合式土器	深井	口縫合(内)平坦型。口縫合下刻目を施す。安治。	10.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 3mm以下	良好	口縫合近ス付番
187	71	A10区 4脚 弥生土器	堆?	口縫合。腰部は弓状に屈曲。	14.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 3mm以下	良好	
188	71	A10区 4脚 弥生土器	台付縫 (底径)	底部「ハ」字状に屈曲。底部は内側に凹む。底部は内側に凹む。	14.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 3mm以下	良好	
189	71	A8区 4脚 弥生土器	堆	底部平底。底、体部場の横は丸くをもつ。底部は内側に凹む。	11.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 3mm以下	良好	
190	71	A6区 4脚 弥生土器	堆	底部平底。底、体部場の横は丸くをもつ。底部は内側に凹む。底部は内側に凹む。	12.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 3mm以下	良好	円形
191	71	A9区 4脚 弥生土器	堆	人字形孔、腰部は弓状。底部は内側に凹む。底部は内側に凹む。	2.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 3mm以下	良好	やや不良
192	71	A8区 4脚 弥生土器	堆?	底部平底。底、体部場の横は丸くをもつ。底部は内側に凹む。	14.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 3mm以下	良好	
193	71	A11区 2脚 弥生土器	堆/底部	底部丸底。	1.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 2mm以下	良好	ス付番
194	71	A11区 30個 弥生土器	堆	底部丸底に近い平面。底部から内側して斜め下延。底部丸底に近い平面。底部丸底に近い平面。	14.0	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外) ノデ(ナメ)、ナデ(ナメ)、カズリ、指痕底あり	外に少い黄褐色 内に少黄褐色 砂粒含む 2mm以下	良好	外周ス付番

195	71	42	A10区	2番 沙生土槽	脚(口径) 器(底)	12.4 痕部は深く「ハ」字状に立ち上がり、口端部6.5で丸くおさまる。痕部は頗る「ハ」字状に大きく開き、端部丸くおさまる。	外) 痕部三万キ・ナメスハケ・ヲ ア、脚部ヨココナデ・ミガキ 内) ローリー・ヨココナデ・ミガキ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
196	71		A8区	2番 劳生土器	高杯(口径) 高径	13.1 第一部は円柱に纏わりて「ハ」字状に大きく開き、丸くおさるの脚部・器底。 青黄地や黄地、白地に「ハ」字状に大きさ異なる下部と、直角をなす。直角の先端は丸くおさまる。	外) 痕部ミガキ・指揮頭あり、器底 内) ローリー・ヨココナデ・ミガキ 白白色 3mm以下の砂粒含む。 良好
197	71	42	A7区	4番 游生土器	碧玉器台	13.2 脚部ならびに軽く開き、端部丸くおさまる。	外) 口縁ナフ 内) 脚部ナフ、下部コナ・ナメナデ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
198	71		A7区	4番 劳生土器	器台	13.3 脚部ならびに軽く開き、端部丸くおさまる。	外) 脚部ナフ 内) 口縁ナフ、下部コナ・ナメナデ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
199	71		A8区	2番 劳生土器	琥珀色台座	13.4 痕部「ハ」字状に覗きながら下脚。口端部は脚部。 脚部「ハ」字状に直角。口端部は小さく開き、直角をなす。	外) 痕部ミガキ・指揮頭あり、器底 内) ローリー・ヨココナデ・ミガキ 白白色 3mm以下の砂粒含む。 良好
200	72		A8区	2番 劳生土器	壁(口径)	13.5 上に上部、右側部の角に平行線文、左側部に「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 口縁ナフ 内) 口縁ヨココナデ・指揮頭あり、 体部アラカリイズリ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
201	72		A6区	2番 你生土器	壁(口径)	13.6 5.0 当部。口縁は「ハ」字状の直角形。体部は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 口縁ナフ 内) ローリー・ヨココナデ・ミガキ 白白色 3mm以下の砂粒含む。 良好
202	72		A9区	1番 劳生土器	壁(口径)	13.7 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 指揮頭が如不詳 内) ぶい黄褐色 3mm以下の砂粒含む。 やや不良
203	72			4番 你生土器	壁(口径)	13.8 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 口縁ナフ、体部タテ・アフ 内) ローリー・ヨココナデ・ミガキ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
204	72		A9区	1番 劳生土器	壁(口径)	13.9 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 口縁ナフ 内) 口縁ヨココナデ・指揮頭あり、 体部アラカリイズリ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
205	72		A12区	4番 劳生土器	壁(口径)	14.0 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 口縁ナフ 内) 口縁ヨココナデ・ミガキ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
206	72			4番 劳生土器	壁(口径)	14.1 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
207	72		A1区	4番 劳生土器	壁(口径)	14.2 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
208	72	42	A7区	4番 劳生土器	壁(底部)	14.3 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
209	72		A10区	4番 劳生土器	壁(台座)	14.4 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
210	72		A8区	3番 劳生土器	壁(底部)	14.5 5.0 当部。底部は直角。底部の周囲は明塵、底部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
211	73		A10区	2番 弥生土器	壁(口径)	14.6 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
212	73		A10区 30番 弥生土器	壁(口径)	14.7 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好	
213	73		A8区 30番 弥生土器	壁(口径)	14.8 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好	
214	73		A6区	2番 劳生土器	器(口径)	14.9 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
215	73			弥生土器	器(口径)	15.0 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
216	73		A8区	2番 弥生土器	器(口径)	15.1 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
217	73			弥生土器	器(口径)	15.2 5.0 当部。口縁は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
218	73		A1区	4番 石器	打製石器	14.1 5.0 痕部肥厚、拵して中央が少し斜むの面を作れる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
219	74		A11区 30番 土師器	壁(口径)	14.2 5.0 痕部肥厚、拵して中央が少し斜むの面を作れる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好	
220	74		A7区	4番 土师器	壁(口径)	14.3 5.0 痕部肥厚、壁部は少く「二字型(刷)」に屈曲。口縁部は丸く、脚部は「ハ」字状に直角。右側部は丸くおさまる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
221	74		A11区 30番 土师器	壁(口径)	14.4 5.0 痕部肥厚、壁部は少く「二字型(刷)」に屈曲。口縁部丸をもつ。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好	
222	74	47	A11区 30番 土師器	壁(底?)	14.5 5.0 痕部肥厚、「二字型(刷)」に屈曲。口縁部丸をもつ。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好	
223	74		A11区 30番 土师器	壁(底?)	14.6 5.0 痕部肥厚、壁部は少く「二字型(刷)」に屈曲。口縁部丸をもめる。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好	
224	74		A6区	2番 土师器	壁(底?)	14.7 5.0 痕部肥厚、「二字型(刷)」に屈曲。口縁部丸をもつ。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好
225	74		A11区 30番 土师器	壁(底?)	14.8 5.0 痕部肥厚、「二字型(刷)」に屈曲。口縁部丸をもつ。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好	
226	74			4番 土师器	壁(底?)	14.9 5.0 痕部肥厚、「二字型(刷)」に屈曲。口縁部丸をもつ。	外) 体部アラカリイズリ 内) 口縁ナフ 沙貴褐色 3mm以下の砂粒含む。 良好

227	74	A7区	4箇	土師器	裏(柱)	口徑	12. 単純口縁。口縁部小さく外傾。腹部纏む。 云状に扁平。体部少々膨らむ。	外) 口縁部ナラ、体部纏む(のれなし) 内) 口縁部ナラ、体部ケズリ	灰白色	3mm以下の 砂粒含む。	やや不良
228	74	A11区	30箇	土師器	裏(柱)	口徑	12. 単純口縁。底部丸底。腹部平底状に扁平。 口縁部少々丸くおさめる。体部纏む。	外) 口縁部コナヌメテジ、斜面無 内) 口縁部ナラ、体部ケズリ	灰白色	3mm以下の 砂粒含む。	良好 完形
229	74	A6区	2箇	土師器	高环(外部) 底環(内部)	口徑	12. 高部は深く、字状に大きく開きながら立。外) 三月弓 内) 月弓	内) にふい 内) 黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	
230	74	A3区	2箇	土師器	高环(外部) 底環(内部)	口徑	12. 高部は深く、字状に大きく開きながら立。外) 三月弓 内) 月弓	内) にふい 内) 黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好 内面難部スス付着	
231	74	A7区	4箇	土師器	高环(外部)	口徑	12. 高部は深く、字状に大きく開きながら立。外) 三月弓 内) 月弓	内) にふい 内) 黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	
232	75	A8区	2箇	漆器	蓋折垂	口徑	13. 木部平底。内側部は漆で内側して下脚。 4. 縦縫部や内側凹部。口縁部内側を押さえ、 ノリ万引式に仕上げる。	外) 口縁部ハサクハセテ、斜面無 内) 口縁部ナラ	灰白色	砂粒含む。	良好
233	75	A9区	2箇	漆器	漆尻舟	口徑	13. 漆器で覆われた舟形。底部一帯の漆は剥がれて、 上に漆のちりが古風。裏部と側面に漆無。	外) 回転ナラ 内) 回転ナラ	灰白色	砂粒含む。	良好
234	75	A11区	2箇	漆器	漆屉	口徑	13. 手付式。漆無。手彫。体部は状狀で、 内) に裏部と側面に漆無。	外) カリナリ 内) カリナリ後ナラ	灰白色	3mm以下の 砂粒含む。	良好 内外上部褐斑
235	75	A3区	4箇	金属器	刀	刃	12. 刃身片刃。	内) に	灰白色	砂粒含む。	良好
236	75	A12区	2箇	毒器	薙	口徑	12. 槌打つ込み。天井部は広く平坦。輪状つまり。 6. 有孔は大きめ。体部の各部は斜・屈曲。 内) 月弓	外) 回転ナラ 内) 回転ナラ	灰白色	砂粒含む。	良好 完形
237	75	A10区	1箇	漆器	糸糸	口徑	14. 木部の大きい輪状つまり。天井部平底。 外) 月弓	外) 回転ナラ、天井部指頭横子 内) 月弓	灰白色	砂粒含む。	良好
238	75	A9区	2箇	漆器	糸糸	口徑	14. 木部の大きい輪状つまり。天井部平底。 外) 月弓 内) 月弓	外) 回転ナラ、天井部指頭横子 内) 月弓	灰白色	砂粒含む。	良好 外面黒灰(自 然触)
239	75	A7区	4箇	漆器	夏台付高台付 器高	口徑	15. 金葉銀葉。表書きは「天井平洋」。体部ははたか らかに「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) 回転ナラ、高部部筋断ナラ 内) 月弓	灰白色	3mm以下の 砂粒含む。	良好
240	75	A10区	2箇	漆器	巻	口徑	15. 金葉銀葉。表書きは「天井平洋」。体部ははたか らかに「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) 回転ナラ、天井部指頭横子 内) 月弓	灰白色	3mm以下の 砂粒含む。	良好 内面黒灰(自 然触)
241	75	A3区	4箇	鍍金陶器	高台付	口徑	15. 葵型高台付。表書きは内側 内) ナラ	外) ナラ 内) ナラ	灰白色	砂粒含む。	良好
242	75	A2区	3箇	磁器	青磁碗	口徑	16. 木部の「人字形」状に削く。片切り彫通文。 内) 月弓	外) 月弓 内) 月弓	灰白色	砂粒含む。	良好 雜色系黑斑

第7表 中小路跡道B区遺構出土遺物観察表

遺物 箇所 番号 事項 等級	出土 地點	層位	種類	量(m)	形態・手法等	調査	色調	胎土	焼成	備考		
243	76	S101	床座 衍生土器	壺	口徑	12. 单純口縁。口縁部直上に、斜面丸くあきれる る。縫合部に「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ、指頭痕あり	明黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	入ス付着	
244	76	S101	衍生土器	壺	口徑	12. 单純口縁。口縁部直上に、斜面丸くあきれる る。縫合部に「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ後ナラ、指頭 痕	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好		
245	76	S101	衍生土器	壺	口徑	12. 单純口縁。口縁部直上に、斜面丸くあきれる る。縫合部に「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ後ナラ、指頭 痕	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好		
246	76	S101	衍生土器	壺	口徑	15. 木部の「人字形」状に削く。表書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ後ナラ、指頭 痕	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	入ス付着	
247	76	S101	衍生土器	壺	口徑	17. 木部の「人字形」状に削く。表書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ	内外、淡黄褐色 内) 明黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好 内外赤色顔料		
248	76	S101	衍生土器	壺	口徑	17. 木部の「人字形」状に削く。表書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ後ナラ、指頭痕あり、ケズリ?	内外、淡黄褐色 内) 明黄褐色	2mm以下の 砂粒含む。	良好 内外ス付着		
249	76	S101	衍生土器	壺	口徑	17. 木部の「人字形」状に削く。表書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ、指頭痕あり	4mm以下の 砂粒含む。	良好	ス付着		
250	76	S101	衍生土器	壺	口徑	17. 单純口縁。口縁部直上に、斜面丸くあきれる る。縫合部に「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、指頭痕あり、ケズリ	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	ス付着	
251	76	S101	衍生土器	壺	口徑	17. 单純口縁。口縁部直上に、斜面丸くあきれる る。縫合部に「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、指頭痕あり、ケズリ	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	内面ス付着	
252	76	S101	衍生土器	壺	底(底座)	6.1 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好		
253	76	S101	衍生土器	壺	底(底座)	6.1 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、ケズリ	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好 内面ス付着		
254	76	S101	衍生土器	壺	口徑	18. 木部上部に「人字形」削く。上部斜面丸くあきれる る。縫合部に「人字形」。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、指頭痕あり、ケズリ	4mm以下の 砂粒含む。	良好	ス付着		
255	76	S101	衍生土器	壺	口徑	18. 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、指頭痕あり、ケズリ	2mm以下の 砂粒含む。	良好			
256	76	S101	衍生土器	薄升形 底座	口徑	18. 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) ナラ、指頭痕あり	2mm以下の 砂粒含む。	良好	ス付着		
257	76	S101	衍生土器	壺	中央	4.1 中央に穴。入歎なつくり。	外) ナラ 内) ナラ	灰白色	砂粒含む。	やや不良		
258	77	S102	P1	衍生土器	壺	口徑	15.0 木部の「人字形」状に削く。表書きは「人字形」。 内) 月弓	外) 口縁部ナラ? 内) 月弓	灰黄色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	内面ス付着
259	77	S102	床座 衍生土器	壺	口徑	18.1 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) 上部ナラ?	淡黄褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好	外表面及内部 面にス付着	
260	77	S102	床座 衍生土器	壺	口徑 底座	12. 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) 口縁部ナラ? 内) 月弓	にふい 内) 月弓	2mm以下の 砂粒含む。	良好	外露ス付着	
261	77	S102	床座 衍生土器	壺	口徑	12. 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) 口縁部ナラ? 内) 月弓	にふい 内) 月弓	4mm以下の 砂粒含む。	良好		
262	77	S102	床座 衍生土器	壺	口徑	12. 木部の「人字形」状に削く。裏書きは「人字形」。 内) 月弓	外) ナラ 内) 月弓	淡黄色	3mm以下の 砂粒含む。	良好 前期か?		
263	77	S102	床座 衍生土器	壺	口徑	12. 小型の壺。底部は円形に扁平。ナツメ形 の体部。強部付近に道跡判明の列突起。	外) 口縁部ナラ? 内) 月弓	にふい 内) 月弓	2mm以下の 砂粒含む。	良好		

300	81	S104	弥生土器	甕	口径)	16. 突合口縫。薄合部に下く水平方向に突出し、口縫内側に「ハ」字状に突き出る。底部は丸く口縫を内側に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 2mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
301	81	S104	弥生土器	甕	口径)	14. 突合口縫。薄合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
302	81	S104	弥生土器	甕	口径)	16. 突合部や底部に底折す。 外) 突合部や底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
303	81	S104	弥生土器	甕	口径)	16. 突合部や底部に底折す。 外) 突合部や底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
304	81	S104	弥生土器	甕	口径)	16. 突合部や底部に底折す。 外) 突合部や底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
305	82	S104	弥生土器	甕	口径)	17. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
306	82	S104	弥生土器	高杯	口径)	16. 突合部や底部に底折す。 外) 突合部や底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
307	82	44	弥生土器	輪形帯台付 基盤	口径)	14. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒含む。	良好 受部内面に赤色顔料
308	82	S104	弥生土器	輪形帯台付	口径)	16. 突合部や底部に底折す。 外) 突合部や底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
309	82	S104	弥生土器	基盤	底径)	1. 基盤部は厚く平底。底。体部底の縫はやや不規則。	外) ハケ、底部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
310	82	S104	床面	弥生土器	底径)	4. 突合部の縫合部が不規則。	外) ハケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
311	82	S104	弥生土器	甕	底径)	1. 突合部は僅かに小さく、中央部がやや底上凹。底。体部底の縫はやや不規則。	外) ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
312	82	S106	弥生土器	甕	口径)	1. 突合部の縫合部が不規則。	外) ハケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着
313	82	S107	弥生土器	甕	口径)	2. 突合部の縫合部が不規則。一部は体部に凹入する。底部は丸く口縫を内側に底折す。 外) 突合部の縫合部が不規則。一部は体部に凹入する。底部は丸く口縫を内側に底折す。	内) 体部ナマケ 外) 体部ココナデ・体部ケズベ 内) 体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 内外スリ付着

第8表 中小路遺跡B区遭構外出土遺物観察表

遺物 番号	発見 場所	出土 地點	層位	種別	器種	沿長(cm)	形態・手法等	断面	色調	胎土	焼成	備考	
314	83	B2区	4層	石器	楔形石器	4.5	基部欠損か？かさかん線状模様あり(使用による磨耗か？)。	外) 楔形石器	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着	無の石器の軽用 (後次加工品)	
315	83	B3区	4層	石器	大型 石臼	6.5	欠損部、一部に研磨されたと思われる部分あり。	外) 破片	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着		
316	83	B3区	4層	石器	粗新石器 石斧	5.5	大型始刃か？斜打痕は多数残る。刃部と基部底部は研磨。	外) 破片	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着		
317	84	B3区	23層	弥生土器	甕	3.5	C縫合部の縫合部が、口縫は底折す。口縫は底に凹入する。底部は丸く口縫を内側に底折す。	内) ミガキ 外) ハケ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 生前初期		
318	84	44	B3区	4層	弥生土器	甕	口径)	17. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
319	84	B2区	4層	弥生土器	甕	11. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着			
320	84	B3区	4層	弥生土器	甕	15. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 やや不良			
321	84	B3区	4層	弥生土器	甕	17. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ、体部ナマケ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着			
322	84	B3区	23層	弥生土器	甕	18. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 やや不良			
323	84	B2区	23層	弥生土器	甕	19. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ 外) 突合部・底部ココナデ・指揮 底張り、体部ナマケ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好			
324	84	B2区	4層	弥生土器	甕	17. 突合部の縫合部に下く底部に底折す。 外) 突合部の縫合部に下く底部に底折す。	内) 突合部ココナデ、体部ナマケ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好			
325	84	B2区	4層	弥生土器	甕	21. 単純口縫。	内) 突合部ナマケ	外) 反黄褐色 内) 黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着			
326	84	B2区	4層	弥生土器	甕	21. 单純口縫。	内) 突合部ナマケ	外) 反黄褐色 内) 黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着			
327	85	B1区	4層	弥生土器	甕	6.5	縫合口縫。底部は丸底に近い平底。薄手。	内) 突合部ココナデ 外) ニメガキ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好 弥生中期末		
328	85	44	B3区	4層	弥生土器	甕	4.5	縫合口縫。底部は丸底に近い平底。薄手。	内) 突合部ココナデ 外) ニメガキ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
329	85	B2区	4層	弥生土器	甕	7.5	縫合口縫。底部は丸底に近い平底。薄手。	内) 突合部ココナデ 外) ニメガキ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好 外表面スリ付着		
330	85	B2区	4層	弥生土器	甕	11.2	縫合口縫。底部は丸底に近い平底。薄手。	内) 突合部ココナデ 外) ニメガキ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好		

369	88	82区	3層	磁器	白磁頬 高台径)	7.8	施の底面。削り出し箇所。輪広でどっしりと行く。 量付する。見出みる。表面文様は段状文様。	軽土(灰白色 灰白色 軽土)灰白色 軽土(灰白色	密 良好
370	88	82区	3層	磁器	白磁頬 高台径)	7.8	施の底面。削り出し箇所。輪広でどっしりと行く。 量付する。見出みる。表面文様は段状文様。	軽土(灰白色 灰白色 軽土)灰白色 軽土(灰白色	密 良好
371	89	83区	17層	土製品	土錐 大径孔 孔径)	5.4	長前縦形。大型品。	外) ナデ?	灰白色 磨擦痕む。良好 完形
372	89	82区	4層	土製品	土錐 大径孔 孔径)	3.1 3.4 0.6	長前縦形。大型品。	外) ナデ?	にぶい黄褐色 磨擦痕む。良好 完形
373	89	83区	17層	金屬器	刀子	—	刀子の身内。	—	—
374	89	82区	4層	骨製品	横円状 骨盤?)	—	—	外) にぶい 黄褐色	—

第9表 中小路遺跡C区構造出土物観察表

遺跡構造・部局番号	出土点	層位	種別	整理	法量 (ca)	形態・手筋等	網目	調整	色調	胎土	構成	備考
375	89	素状遺跡22層	弥生土器	鉢 or 口徑)	11.0	口縁部をく、腹外縁、口縁部を下へいくほど重い。 内縁部はすこやか白色。器内は、器底に施す。腹外縁 は、器内に中筋の継ぎ目がある。腹外縁は、裏面で 厚く、口縁部は、裏面で薄い。口縁部に3条の 平行沈線。	外) 輪化の為不詳 内) 體部ナメケズ? 輪化の 為不詳	2mm以下の 砂粒含む。	やや不良			
376	89	素状遺跡24層	弥生土器	鉢 (口徑)	2.0	複合土縁鉢。複合土縁部には、内く、直角 状、頭部く、字状に扁曲。口縁部に3条の 平行沈線。	外) にぶい 青褐色 内) にぶい 青褐色	5mm以下の 砂粒含む。	良好	外表面及び内面部 双方に付着		
377	89	溝状遺跡25層	弥生土器	高杯 (外縁)	14.0	「引」字の外縁は、八字形にさがり、腹より上 く、腰より下へいく。腹は、八字形でやや外 縫で、腹縫、腰縫、平底の三つの縫合部へ向か る斜縫が付いています。腰縫は、腰の内側へ 向かう。	外) ミガキ、輪化の為不詳 内) ミガキ、輪化の為不詳	4mm以下の 砂粒含む。	良好			
378	89	溝状遺跡22層	弥生土器	高杯 (底径)	18.0	腰縫の「引」字の大きさが、腹縫よりも大きい。 腰縫の斜縫は、腰縫の内側へ向かう。腰縫の 斜縫は、腰縫の内側へ向かう。	外) ナデ? 輪化の為不詳 内) ナデ? 輪化の為不詳	3mm以下の 砂粒含む。	良好			
379	89	溝状遺跡24層	弥生土器	高杯 (脚部)	12.0	開口部に弧状に残す。器底は、斜めの面を作成。 底部に4条の平行沈線。	外) にぶい 青褐色 内) にぶい 青褐色	4mm以下の 砂粒含む。	良好	外表面下へ被 覆及び内面部 双方に付着		
380	89	溝状遺跡27層	弥生土器	器台	—	受持欠損。脚部は、大きく凹状である。底部に4条の 平行沈線。器底は、裏面で薄い。	外) にぶい 青褐色 内) にぶい 青褐色	4mm以下の 砂粒含む。	良好	—		
381	89	溝状遺跡	弥生土器	鉢形台	15.0	口縁部の内側、器底部に施す。底部に4条の平行沈 線。器底は、裏面で薄い。	外) 輪化の為不詳 内) ケズ? 傷跡?	4mm以下の 砂粒含む。	やや不良	—		
382	90	45 溝状遺跡24層	弥生土器	壺	口徑)	—	「引」字の外縁は、八字形で、腰縫は、腰の内側へ 向かう。腰縫は、腰の内側へ向かう。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	5mm以下の 砂粒含む。	良好	西部周辺内系帯	
383	90	溝状遺跡24層	弥生土器	壺	口徑)	17.0	「引」字の外縁は、八字形で、腰縫は、腰の内側へ 向かう。腰縫は、腰の内側へ向かう。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	4mm以下の 砂粒含む。	良好	—	
384	89	溝状遺跡22層	弥生土器	壺	口徑)	23.0	「引」字の外縁は、八字形で、腰縫は、腰の内側へ 向かう。腰縫は、腰の内側へ向かう。	外) にぶい 青褐色 内) にぶい 青褐色	2mm以下の 砂粒含む。	やや不良	—	
385	90	溝状遺跡23層	弥生土器	壺	口徑)	19.0	腰縫は、腰の内側へ向かう。腰縫は、腰の内側へ 向かう。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) にぶい 青褐色	4mm以下の 砂粒含む。	やや不良	—	
386	90	溝状遺跡22層	弥生土器	亞 (体部)	—	安井寺行の記述。土器は、口縁部に「引」字。 腰縫部に「引」字の記述がある。	外) ヨコリ? 輪化の為不詳 内) ヨコリ? 輪化の為不詳	2mm以下の 砂粒含む。	やや不良	—		
387	91	溝状遺跡22層	弥生土器	壺	口徑)	14.0	腰縫部に「引」字の記述。口縁部を下へいくほど重い。 外縁部に施す。腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、体部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、体部ナメケズ	3mm以下の 砂粒含む。	良好	内面部下部ス ペース付着	
388	91	者状遺跡24層	弥生土器	壺	口徑)	15.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、腰の内側へ向かう。	外) 頸部ナメケズ、体部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、体部ナメケズ	3mm以下の 砂粒含む。	良好	外面部口縫、体 下部スペース付着	
389	91	溝状遺跡25層	弥生土器	壺	口徑)	19.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、腰の内側へ向かう。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	4mm以下の 砂粒含む。	良好	—	
390	91	溝状遺跡24層	弥生土器	壺	口徑)	17.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、腰の内側へ向かう。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	3mm以下の 砂粒含む。	良好	外面部下部ス ペース付着	
391	91	45 溝状遺跡22層	弥生土器	壺	口徑)	13.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、腰の内側へ向かう。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	3mm以下の 砂粒含む。	良好	外面部ス付着	
392	91	45 溝状遺跡	弥生土器	亞 (腰縫部 腰莖)	15.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	3mm以下の 砂粒含む。	良好	V-2		
393	92	溝状遺跡24層	弥生土器	壺	口徑)	13.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	4mm以下の 砂粒含む。	良好	内面部下部ス ペース付着	
394	92	溝状遺跡25層	弥生土器	壺	口徑)	14.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	3mm以下の 砂粒含む。	良好	—	
395	92	溝状遺跡25層	弥生土器	壺	口徑)	16.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	5mm以下の 砂粒含む。	良好	外面部ス付着	
396	92	溝状遺跡	弥生土器	壺	口徑)	18.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	2mm以下の 砂粒含む。	良好	—	
397	92	溝状遺跡25層	弥生土器	壺	口徑)	19.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	2mm以下の 砂粒含む。	良好	外面部ス付着	
398	92	溝状遺跡24層	弥生土器	壺	口徑)	19.0	腰縫部に「引」字の記述。腰縫部は、「引」字。 腰縫部は、「引」字。	外) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ 内) 頸部ナメケズ、腰縫部ナメケズ	2mm以下の 砂粒含む。	良好	—	

399	92	満状遺道	22層	赤生土器	腰	口徑	15.0	複合口縁構造。口縁部は直立。腹面側面部に堅肋。口内側面に丸くさめる。底部は斜面。表面に凹凸の痕跡がある。口縁部に「ハサビ」字状の凹溝がある。底部外側に「ハサビ」字状の凹溝がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、横幅10mm以下 内側ヨコヨコ、横幅10mm以下	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
400	92	満状遺道	24層	赤生土器	腰	口徑	18.0	くわら。外側に広い面を有する。底面は丸く、斜面には堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
401	93	満状遺道	24層	赤生土器	腰	口徑	17.0	複合口縁構造。複合状態によく伏せやすく、外側下向き。口縁部や腰外側、口縁部丸くさめ。底部丸くさめ。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・ナダ 内側ハマキ後・後ナジ	5mm以下の砂粒含む。 良好	外面部上部ス付着	
402	83	満状遺道	22層	赤生土器	腰	口徑	21.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部下部ス付着	
403	93	満状遺道	23層	赤生土器	腰	口徑	30.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・ナダ 内側ハマキ後・後ナジ	5mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
404	93	満状遺道	24層	赤生土器	腰	口徑	21.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	5mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
405	93	満状遺道	22層	赤生土器	腰	口徑	14.0	単純口縁構造。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部及び内面部下部ス付着	
406	93	満状遺道	24層	赤生土器	腰	口徑	14.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
407	93	満状遺道	24層	赤生土器	腰	口徑	15.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
408	93	満状遺道	25層	赤生土器	腰	口徑	13.0	受口縁の急傾斜口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部下部及び内面部付着	
409	93	満状遺道	24層	赤生土器	腰	口徑	14.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
410	93	満状遺道	25層	赤生土器	腰	口徑	17.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
411	94	満状遺道	25層	赤生土器	腰	口徑	18.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
412	94	満状遺道	24層	赤生土器	腰	口徑	19.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
413	94	満状遺道	25層	赤生土器	腰	口徑	18.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ、体形・クサ 内側ハマキ後・後ナジ	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
414	94	満状遺道	24層	石器	石包丁	口徑	16.0	刃口部。刃口部は直線的。刃口部に刃紋がある。刃口部は刃口部に刃紋がある。刃口部は刃口部に刃紋がある。刃口部は刃口部に刃紋がある。刃口部は刃口部に刃紋がある。	外側ヨコヨコ、刃口部ハマキ後ナジ 内側ヨコヨコ、刃口部ハマキ後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。 良好	外面部中部ス付着

第10表 中小路遺跡C区構造外出土物別観察表

遺跡名	出土地点	層位	種類	基盤	法量(cm)	形態・手法等	調査	色調	胎土	焼成	備考	
415	95	C区西側	21層	赤生土器	腰	口徑	14.0	複合口縁構造。複合状態でやや斜く小さく下向く。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。口縁部裏面の横幅10mm以上ある。	外側ヨコヨコナダ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部ス付着
416	95	19層	赤生土器	腰	口徑	13.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。口縁部裏面の横幅10mm以上ある。	外側ヨコヨコナダ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
417	95	C区西側	3層	赤生土器	腰	口徑	17.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。口縁部裏面の横幅10mm以上ある。	外側ヨコヨコナダ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
418	95	C区東側	5層	赤生土器	腰	口徑	18.0	複合口縁。複合口縁構造で横幅10mm以上ある。外側下向き。口縁部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
419	95	C区西側	5層	赤生土器	腰	口徑	17.0	腰口縁。横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。口縁部裏面に堅肋がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
420	95	C区東側	5層	赤生土器	腰	つまみ紐	1.0	腰のつまみ紐がくび。円形孔。縫合部。口縁部裏面の横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
421	95	48	赤生土器	腰	つまみ紐	1.0	腰のつまみ紐がくび。円形孔。縫合部。口縁部裏面の横幅10mm以上ある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着	
422	95	C区西側	3層	赤生土器	腰	底面	8.0	大輪大口縁。底部は弧状。底面は厚さ7mm。底面は厚さ7mm。底面は厚さ7mm。底面は厚さ7mm。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
423	95	C区西側	3層	土師器	腰	口徑	10.0	腰口縁。腰口縁は平行に立ち下ろす。底部は厚さ7mm。底面は厚さ7mm。底面は厚さ7mm。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
424	95	C区西側	3層	赤生土器	腰	底面	5.0	腰・底面の粘土は褐色。底面は厚さ5mm。底面は厚さ5mm。底面は厚さ5mm。底面は厚さ5mm。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	10mm以下の砂粒含む。 良好	弥生前期
425	95	C区西側	3層	土師器	腰	口徑	10.0	半圓形口縁。口縁部裏面に「ハサビ」字状の凹溝がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
426	95	C区西側	3層	土師器	腰	口徑	10.0	半圓形口縁。口縁部裏面に「ハサビ」字状の凹溝がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
427	95	C3区	2層	須恵器	环	口徑	10.0	底面はほぼ平底。底・体部縁の厚さは不明。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
428	95	C区東側	2層	須恵器	環	高台付	1.0	口縁部裏面に「ハサビ」字状の凹溝がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着
429	95	C区東側	2層	須恵器	環	底面	5.0	底面付近に「ハサビ」字状の凹溝がある。本部裏面に堅肋がある。	外側ヨコヨコ・指痕腹あり、底部ハマキ後ナジ・後ナジ	外側黄褐色 内側にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒含む。 良好	外面部付着

第11表 中小路遺跡 D 区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	回復番号	出土場所	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調査	色調	触土	焼成	備考
430 97	D4区	4層	灰器	器	(体形)		体部内窓しながら下縁。	外) 手平 内) 同心円状のタキ目	灰白色		良好	
431 97	D4区	1層	磁器	白磁瓶	口徑	10.0	五瓣口縁。口縁断面は半長楕円形。内 部内窓。	外) 手平 内) 同心円状のタキ目	灰白色		良好	
432 97	D4区	4層	磁器	白磁瓶	口徑	10.0	体部内窓。ハ字形に立上がり、口縁部や外反し て丸くおさまる。	外) 手平 内) 同心円状のタキ目	灰白色	密	良好	
433 97	D4区	4層	磁器	白磁瓶	口(匂)	10.0	体部内窓。ハ字形に立上がり、口縁部や外 反して丸くおさまる。内面に墨の条溝あり。 内面墨。	外) 手平 内) 同心円状のタキ目	灰白色	良好		
434 97 46	D4区	4層	須恵器	土罐(御) (匂)	高さ	3.7	放狀に沈没あり。穿孔あり。	外) 灰白色	灰白色	微細凹凸。良好	完形。	
					横幅	3.0						

第12表 中小路遺跡 E 区遺構出土遺物観察表

遺物番号	回復番号	出土場所	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調査	色調	触土	焼成	備考	
435 98	SKE2			石器	石砧								
436 98	SKE6			須恵器	壺蓋	口径	10.0	喉突つき、台形型。直筒直壁。体部直縫の内 側に立上がり。口縁部内側下唇し、丸くおさまる。内 部内窓。	外) 手平 内) 同心円状のタキ目	外) 灰色 内) 灰白色	密	良好	
437 98	SKE6			須恵器	杯	口径	2.5	下口の内縫。口縁部外反突起に立ち上がり、 上方には直縫直壁。底部は直縫直壁。	外) 手平 内) 同心円状のタキ目	外) 灰色 内) 灰白色	密	良好	東播系須恵器
438 98	SKE8			土器類	井	口径	12.0	溝縫つき。体部直縫の内側に立上がりで、大きくなっている。 外縫はハ字形で内側は角形で、口縫は直縫の様な感じより、口 縫部は既に立上がり。	外) 強い凹輪ナデ 内) 強い凹輪ナデ、底部ナデ	淡黄褐色	密	良好	
439 98	SKE6			土器類	碗	口径	12.0	底部直縫の内側は直縫直壁で、大きくなっている。 外縫はハ字形で内側は角形で、口縫は直縫の様な感じより、口 縫部は既に立上がり。	外) 強い凹輪ナデ、底部ナデ 内) 強い凹輪ナデ、底部ナデ	淡黄褐色	密	良好	
440 98	SKE5			土器類	盆	口径	17.0	底部直縫の内側は直縫直壁で、大きくなっている。 外縫はハ字形で内側は角形で、口縫は直縫の様な感じより、口 縫部は既に立上がり。	外) ナデ 内) ナデ?、底部の為不鮮	灰白色	密	良好	
441 98	SKE5			土器類	盆	口径	17.0	底部直縫の内側は直縫直壁で、大きくなっている。 外縫はハ字形で内側は角形で、口縫は直縫の様な感じより、口 縫部は既に立上がり。	外) ナデ	灰白色	密	良好	
442 98	SKE6			土製品	土鍬	高さ	4.3			褐色	密	良好	
443 98	SKE6			磁器	白磁瓶(直縫)	口径	8.0	体部直縫の内側に立ち上がり、口縫部外反。 口縫部口だけ。	外) 手平	触土) 灰白色 内) 白色	良好	口調拂を除せ 全剖面直縫 口磁化	
444 98	SKE6			磁器	青磁瓶	口径	8.0	縞文。釉厚。	外) 手平 内) 灰白色	触土) オリーブ色	良好	藏家某系D類	

第13表 中小路遺跡 E 区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	回復番号	出土場所	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調査	色調	触土	焼成	備考	
445 99	C3	3層	赤土土器	甕	(底部) (腰部)	8.8	底部平底だが、中央部を押さえ上底延び。	外) ナデ、底部指痕底あり。 内) ナデ、ケズリ	外) 黄色 内) 浅黄褐色	2cm以下の 砂粒含む。	良好	外面部の一部 底部スッペ質	
446 99	グリッド	02	4層	土器類	甕	口径	12.0	音石口縁。垂露口平底に突出。口縫部は直縫に 外縫はハ字形で内側は角形で、口縫部や外縫部に引張り出る。	外) 当コナデ 内) ヨコナデ、体部ケズリ?	淡黄褐色	1mm以下の 白粘土含む。	良好	
447 99	グリッド	2層	土器類	甕(腰部)	口径	12.0	丸く4方向に張り出る。	外) 不定方型ケズリ (腰部)	浅黃褐色		良好		
448 99	グリッド	03	2層	須恵器	甕蓋	口径	12.0	天井から剥離して落し、口縫部外縫部に突出。口縫部 はハ字形で内側は角形で、口縫部や外縫部に引張り出る。	外) 自転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
449 99	グリッド	C2	1層	須恵器	甕蓋	口径	16.0	天井から剥離して落し、口縫部外縫部に突出。口縫部 はハ字形で内側は角形で、口縫部や外縫部に引張り出る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の 白色粘土含む。	良好	
450 99		2層	須恵器	(腰部)	甕	口径	16.0	ハ字形に開く低い腰部、窯部は底部外 縫部付く。窯出台から落す。	外) 倒伏ナデ 内) 板状工具によるナデ、ナデ	外) 黑灰色 内) 青灰色	密	良好	外面部粗仄
451 99		4層	須恵器	(腰部)	甕	口径	16.0	天井から剥離。本体は直縫で立上がり、内側はハ字形 で内側は角形で、口縫部や外縫部に引張り出る。	外) 倒伏ナデ 内) 板状工具によるナデ、ナデ	外) 黑灰色 内) 青灰色	密	良好	
452 99		2層	須恵器	甕	口径	16.0	体部直縫的に立ち上がる。底部平底で上 縫部付く。	外) 回転ナデ、体下部回転ヘラ 内) 回転ナデ	外) 黑灰色 内) 灰色	1mm以下の 白粘土含む。	良好		
453 99		3層	須恵器	短壺	口径	8.8	裏面墨書きによく似出し、口縫部や今後してく る立上がり。口縫部内側を削る。	外) 体部回転ナデ、底部ナデ	外) 黑灰色 内) 青灰色	密	良好	外面部粗仄	
454 99	グリッド	02	4層	磁器	白磁瓶(口縫)	口径	1.2	玉縁口縫。	外) 陶粒ナデ 内) 回転ナデ	触土) オリーブ色 内) 灰色	良好		
455 99	グリッド	62	2層	磁器	青磁瓶	口径	1.2	体部内窓して立ち上がる。片切り蓮瓣文。 内) 有内窓。	外) 陶粒ナデ	触土) 青色 内) ロリーピーク色	密	良好	藏家某系I類
456 99		4層	磁器	青磁瓶	(腰部)	4.5	底部三角形の高台、底厚手、高台部先端 を缺いて全面崩壊。	外) 陶粒ナデ	触土) 青色 内) 褐灰色	良好	藏家某系I類		
457 99	グリッド	4層	磁器	甕	口(底)	1.2	口縫部付く。口縫部内側を削る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	触土) 淡黄色 内) 黄褐色	密	良好	采光部C層	
458 99	グリッド	4層	陶器	糸鉢	口径	1.6	被覆6倍以上で1単位。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	触土) 黄褐色 内) 黄褐色	密	良好	側前系	
459 99		2層	土製品	土罐	高さ	6.0	厚みがありしっかりした作りで重い。墨 書き。	外) 黄褐色	触土) 黄褐色	密	良好		
460 99		2層	土製品	土罐	高さ 直径 (孔径)	6.0 2.5 0.5	厚手でしっかりした作りの土罐。墨書き。	外) 淡褐色	触土) 淡褐色	密	良好		

第14表 中小路遺跡 F 区遺構出土遺物観察表

遺物番号	回復番号	出土場所	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調査	色調	触土	焼成	備考	
461 100	SKF3			須恵器	盃	口径	1.1	唇に窩で、本体は直縫で立上がり。内側はハ字形で、 外側はハ字形で内側は角形で、口縫部付近に墨書き。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の 砂粒含む。	良好	
462 100	SKF3			須恵器	甕蓋	口径	1.2	口縫部付く。つまみ部は外盛り。底部内窓。 内) 有内窓。	外) 腹部回転ヘラケズリ、口縫 部回転ナデ	触土) 黄褐色 内) 黄褐色	密	良好	

463 100	SKF3	須恵器	壺蓋(つまみ口)	13.軸状つまみ。つまみ部分外側に、礫部丸くおさめる。天井部はアーチ、底部形状圓錐形。	外)回転ナデ 内)ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好
464 100	SKF3	須恵器	高台付壺蓋(つまみ口)	13.口沿。天井部はアーチ、底部形状圓錐形。内側に斜めに刻んで、鋸歯状の縁。天井部はアーチ、底部形状圓錐形。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好
465 100	SKF3	須恵器	高台付壺蓋(つまみ口)	13.口沿。天井部はアーチ、底部形状圓錐形。内側に斜めに刻んで、鋸歯状の縁。天井部はアーチ、底部形状圓錐形。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好
466 100	SKF3	須恵器	高台付壺蓋(つまみ口)	13.口沿。天井部はアーチ、底部形状圓錐形。内側に斜めに刻んで、鋸歯状の縁。天井部はアーチ、底部形状圓錐形。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好
467 101	SKF39	土器類	甕(口徑)	15.高台は低く、底盤外縁よりやや内側に凹り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好
468 101	SKF39	土器類	甕(口徑)	16.高台は低く、底盤外縁より内側にやや外方に凸り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好
469 101	SKF39	土製品	土鏡(土鏡帽)	17.口沿。1/2切欠。左端に孔。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	淡黃褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好
470 101	SKF39	土製品	土鏡(土鏡帽)	18.土鏡の長身鏡形。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	淡白褐色	1mm以下の砂粒含む。	良好
471 101	SKF39	土製品	土鏡(土鏡帽)	19.土鏡の長身鏡形。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	淡褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好
472 101	SKF39	土製品	土鏡(土鏡帽)	20.土鏡の長身鏡形。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	淡褐色	1mm以下の砂粒含む。	良好
473 101	SKF39	須恵器	壺蓋(つまみ口)	21.口縁は丸くおさめる。口縁内面に小さな穴があり。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	1mm以下の砂粒含む。	良好	
474 101	SKF39	須恵器	壺蓋(つまみ口)	22.口縁は丸くおさめる。天井部はアーチ、底部は丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	1mm以下の砂粒含む。	良好	
475 101	SKF39	須恵器	壺蓋(つまみ口)	23.口縁は丸くおさめる。天井部はアーチ、底部は丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	1mm以下の砂粒含む。	良好	
476 101	SKF39	須恵器	高台付壺蓋(つまみ口)	24.口縁は底盤外縁よりやや内側に凹り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	1mm以下の砂粒含む。	良好	
477 101	SKF39	須恵器	高台付壺蓋(つまみ口)	25.口縁は底盤外縁よりやや内側に凹り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	1mm以下の砂粒含む。	良好	
478 101	SKF39	須恵器	高台付壺蓋(つまみ口)	26.口縁は底盤外縁よりやや内側に凹り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	1mm以下の砂粒含む。	良好	
479 101	SKF39	須恵器	高台付壺蓋(つまみ口)	27.口縁は底盤外縁よりやや内側に凹り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	1mm以下の砂粒含む。	良好	
480 101	SKF39	須恵器	縁(口徑)	28.壺蓋から口縁まで「ハ」字状に立上り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好
481 101	SKF39	須恵器	縁(口徑)	29.壺蓋から口縁まで「ハ」字状に立上り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好
				30.壺蓋から口縁まで「ハ」字状に立上り、「ハ」字状に付く。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	軟質 磁の可能性あり

第15表 中小路遺跡F区遭埋出土外遺物観察表

遺物番号	出土地点	層位・種別	種類	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
482 102	C2	4層 須恵器	蓋(無大輪)	1.1	寶珠状つまみ。	外)ナデ 内)回転ナデ	灰色	密	良好	
483 102	C1	4層 須恵器	蓋(無大輪)	1.1	ボタン状つまみ。	外)ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
484 102	B3	4層 須恵器	壺蓋(口徑)	1.8	つまみ付タブリ。天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)天井部ナレケツリ? 内)回転ナデ	灰色 内)灰黄色	密	表面被灰(自然解)	
485 102	C2	4層 須恵器	壺蓋(口徑)	1.9	宝珠状つまみ。天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)天井部ナデ	灰色 内)黑色	1mm以下の砂粒含む。	良好	表面-裏面天井の 一部分被灰。
486 102	D4	4層 須恵器	蓋	1.9	少しだけ圓錐の蓋。天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	淡灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	表面-裏面天井の 一部分被灰(自然解)
487 102	C3	4層 須恵器	蓋(口徑)	1.9	少しだけ圓錐の蓋。天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	密	良好	表面-裏面天井の 一部分被灰(自然解)
488 102	D4	4層 須恵器	壺蓋(つまみ口)	1.9	つまみ付タブリ。天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰色	密	良好	表面被灰(自然解)
489 102	D4	4層 須恵器	壺蓋(口徑)	1.9	宝珠状つまみ。天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	密	良好	
490 102	B2	2層 須恵器	壺蓋(つまみ口)	1.9	1.口沿。2.天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)天井部ヘラ切欠ナデ	灰白色	密	良好	口縁部外周部 ねじ焼きによる 変色(黒色)
491 102	D4	4層 須恵器	壺蓋(つまみ口)	1.9	1.口沿。2.天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	密	良好	口縁部外周部 ねじ焼きによる 変色(黒色)
492 102	D4	4層 須恵器	壺蓋(口徑)	1.9	宝珠状つまみ。天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	密	良好	
493 102	D3	4層 須恵器	壺蓋(つまみ口)	1.9	1.口沿。2.天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	淡色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
494 102	D3	4層 須恵器	壺蓋(口徑)	1.9	1.口沿。2.天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
495 102	C1	4層 須用器	壺蓋(つまみ口)	1.9	1.口沿。2.天井部はアーチ、底部丸くおさめる。天井部丸くおさめる。底部丸くおさめる。	外)自然釉の不鮮 内)回転ナデ 外)天井部ナデ	灰白色 内)灰黑色 外)オリーブ色	密	表面被灰(自然解)	

496	102	D3 グリッド	4層 須唐蟲 疥蟲	口(唇) (足)足(み足) 胸(胸)	15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。頭部はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。 15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	剛毛含む。 良好
497	102		4層 須唐蟲 疥蟲	口(唇)	15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。 15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	2mm以下の砂粒含む。 良好
498	102	D3 グリッド	4層 須唐蟲 疥蟲	口(唇)	15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。 15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。 良好
499	102	C1 グリッド	4層 須唐蟲 疥蟲	口(唇) つまみ組 姿勢	15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。 15.6 體はつぶれ、腹はくぼんでる。つま先は外側に曲がり、頭部はくぼんでる。天井部の筋肉はくぼんでる。汗腺部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。天井部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	剛毛含む。 良好
500	102	D4 グリッド	4層 須唐蟲 高台(台)	口(唇)	15.6 「い」字形に縮んでる高台。頭部から脚部へはねてたがって立てる。 15.6 「い」字形に縮んでる高台。頭部から脚部へはねてたがって立てる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	内)外)灰白色 地)明黄褐色	剛毛含む。 軟質
501	102	C2 グリッド	4層 須唐蟲 高台(台)高台(台)	口(唇)	15.6 高台(台)の裏部外側より「い」字形ににはねてたがって立てる。 15.6 高台(台)の裏部外側より「い」字形ににはねてたがって立てる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	刚毛含む。 良好
502	102	A1 グリッド	4層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 上面は表面外側より「い」字形ににはねてたがって立てる。頭部から脚部へはねてたがって立てる。 15.6 上面は表面外側より「い」字形ににはねてたがって立てる。頭部から脚部へはねてたがって立てる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	剛毛含む。 良好
503	102	B3 グリッド	4層 須唐蟲 高台(台)高台(台)	口(唇)	15.6 高さは低く、底面外縁より内側へとくびれてる。 15.6 高さは低く、底面外縁より内側へとくびれてる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。 良好
504	102	C4 グリッド	3層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 「い」字形に縮んでる高台。底面外縁に付く。頭部から脚部へはねてたがって立てる。 15.6 「い」字形に縮んでる高台。底面外縁に付く。頭部から脚部へはねてたがって立てる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	密 良好
505	102	B4 グリッド	4層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 「い」字形に縮んでる高台。底面外縁より内側へとくびれてる。頭部から脚部へはねてたがって立てる。 15.6 「い」字形に縮んでる高台。底面外縁より内側へとくびれてる。頭部から脚部へはねてたがって立てる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	剛毛含む。 良好
506	102	D4 グリッド	4層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 高さは低く、断面が圓形で、体側部はくぼんでる。 15.6 高さは低く、断面が圓形で、体側部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰色	剛毛含む。 良好
507	102	D1 グリッド	4層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 高さは低く、断面が圓形で、体側部はくぼんでる。 15.6 高さは低く、断面が圓形で、体側部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)黒灰色 内)灰色	剛毛含む。 良好
508	102	C5 グリッド	4層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 高さは低く、「い」字形で大きくなっている。 15.6 高さは低く、「い」字形で大きくなっている。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	剛毛含む。 良好
509	103	D4 グリッド	4層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 圓形の底盤。高台は、「い」字形で大きくなっている。 15.6 圓形の底盤。高台は、「い」字形で大きくなっている。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。 良好
510	103	表模 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 頭部はくぼんでる。底盤は「い」字形で大きくなっている。 15.6 頭部はくぼんでる。底盤は「い」字形で大きくなっている。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)淡灰色 内)灰色	剛毛含む。 良好	
511	103	D1 グリッド	1層 須唐蟲 短細舌	口(唇)	15.6 口輪部がくびれて、頭部に凹む。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。 良好
512	103	D4 グリッド	1層 須唐蟲 糞(口)	口(唇)	15.6 口輪部大きく外反。頭部上部には盛り、底盤部はくぼんでる。 15.6 口輪部大きく外反。頭部上部には盛り、底盤部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。 良好
513	103	C4 グリッド	4層 須唐蟲 糞(底盤)	口(唇)	15.6 「い」字形で大きくなっている。 15.6 「い」字形で大きくなっている。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰色	砂粒含む。 良好
514	103	C9 グリッド	2層 須唐蟲 糞	口(唇)	15.6 「い」字形で外反。口輪部がくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。 良好
515	103	C1 グリッド	3層 須唐蟲 人糞	口(唇)	15.6 「い」字形でくぼんでる。頭部に凹む。 15.6 「い」字形でくぼんでる。頭部に凹む。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	砂粒含む。 良好
516	103	D1 グリッド	1層 須唐蟲 糞便付高台(台)	口(唇)	15.6 口輪部大きく外反。頭部上部には盛り、底盤部はくぼんでる。 15.6 口輪部大きく外反。頭部上部には盛り、底盤部はくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。 良好
517	103	B2 グリッド	4層 須唐蟲 糞便	口(唇)	15.6 大型の高所。糞便部が高く大きい平地面。周囲は獨立して立てる。 15.6 大型の高所。糞便部が高く大きい平地面。周囲は獨立して立てる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。 良好
518	103	B5 グリッド	4層 須唐蟲 糞(底盤)	口(唇)	15.6 大型の糞便部。頭部から底部都部がくびれる。 15.6 大型の糞便部。頭部から底部都部がくびれる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	白色	砂粒含む。 良好
519	103	C2 グリッド	4層 土師器 糞	口(唇)	15.6 糞便部付近。口輪部がくぼんでる。 15.6 糞便部付近。口輪部がくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)淡灰色 内)灰白色	1mm以下の砂粒含む。 良好
520	103	D1 グリッド	2層 土師器 糞	口(唇)	15.6 頭部に糞便部に満ちて、頭部はくぼんでる。外反して頭部をくぼんでる。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)淡褐色 内)褐色	1mm以下の砂粒含む。 良好
521	103	C1 グリッド	4層 土師器 糞	口(唇)	15.6 「い」字形でくぼんでる。頭部はくぼんでる。口輪部を壓迫する。体側部はやわらかく柔軟性がある。	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)暗褐色 内)褐色	1mm以下の砂粒含む。 良好
522	103	34 グリッド	4層 土師器 小皿	口(唇)	15.6 糞便部付近。口輪部がくぼんでる。頭部はくぼんでる。口輪部はくぼんでる。口輪部はくぼんでる。 15.6 糞便部付近。口輪部がくぼんでる。頭部はくぼんでる。口輪部はくぼんでる。	外)風化の為不詳 内)風化の為不詳	淡褐色	1mm以下の砂粒含む。 良好
523	104	C1 グリッド	4層 瓦質土器 糞(口)	口(唇)	15.6 口輪部は外翻し、端部を上方へとまわす。	外)ナデ 内)ヨコハケ、風化の為不詳	外)黒灰色 内)灰白色	良好 外面ス付箇
524	104	D1 グリッド	瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 口輪部内側に肥厚。縦目干の跡がある。	外)ナデ 内)ヨコハケ	黑色	剛毛含む。 良好
525	104	D2 グリッド	4層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 頭部形状に変形し、口輪部がくぼんでる。頭部はくぼんでる。口輪部はくぼんでる。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好
526	104	B2 グリッド	4層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 頭部形状に変形し、口輪部がくぼんでる。頭部はくぼんでる。口輪部はくぼんでる。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好
527	104	D3 グリッド	4層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 玉輪状口縫。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好
528	104	B1 グリッド	3層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 体部が「ハ」字形に盛溝的に開き、口輪部わざり方に外反される。口輪部はくぼんでる。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好 白磁吸引箇
529	104	D5 グリッド	4層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 体部内側。佔半糞便。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好
530	104	B2 グリッド	2層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 口輪部。糞便付近。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好
531	104	D4 グリッド	4層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 断面逆三角形の低い凹り出し高台。外縁体部上方に凹み出る。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	白磁吸引箇
532	104	1層	瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 「い」字形に凹み出る。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好
533	104	D1 グリッド	4層 瓦質土器 糞	口(唇)	15.6 無高台。上底状。底部を陥没指輪。	外)ナデ 内)ナデ	黑色	良好

534	104	B4 グリット	3層	磁器	白磁小面 口径)	10.2		胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	
535	104	C4 グリット	4層	磁器	青磁碗 口径)	10.1	体部内窓有し、口縁部外反する。外面にへら書き文。内面クシ書き文。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	同安窯系A類
536	104	B1 グリット	4層	磁器	青磁碗 口径)	10.0		胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	
537	104	A2 グリット	4層	磁器	青磁碗 口径)	10.0		胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	
538	104	C1 グリット	3層	磁器	碗 口径)	10.6	内面模様文。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	
539	104	D1 グリット	4層	磁器	青磁碗 口径)	10.0	鍋蓋文。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	龍泉窯系B類
540	104	G1 グリット	4層	磁器	青磁碗 口径)	10.5	体部内窓、鍋蓋文。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	龍泉窯系B類
541	104	C2 グリット	4層	磁器	青磁碗 口径)	10.4	蓮弁文。	胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	
542	104	C1 グリット	3層	磁器	青磁碗 口径)	10.1	鍋蓋弁文。釉厚目。	胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	龍泉窯系B類
543	104	B1 グリット	4層	磁器	青磁碗 高台径)	10.4	新國造形の高い高台。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	同安窯系A類
544	104	C2 グリット	2層	磁器	青磁碗 高台径)	5.0	蓋付へ高台内に陥き胎輪。	胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	
545	104			磁器	青磁直 底径)	4.9	見込みへらによる片彫りと模様文。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	
546	104	C2 グリット	3層	磁器	青磁碗 高台径)	5.0	断面方形の低い高台。高台内に胎土目。 蓋付を除き胎輪。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	
547	104	D3 グリット	4層	磁器	青磁碗 高台径)	4.4	高台内に陥き胎輪。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	龍泉窯系B類
548	105	B4 グリット	3層	磁器	合子 口径)	10.6	体部内窓。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	
549	105	C1 グリット	3層	磁器	皿 口径)	10.0		胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	
550	105	E1 グリット	3層	磁器	半付皿 口様)	12.3		胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	
551	105	E2 グリット	3層	磁器	碗		内面に象嵌。	胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	
552	105	C7 グリット	4層	陶器	碗 高台径)	5.4		胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	朝鮮製
553	105	C2 グリット	4層	陶器	碗 高台径)	6.0	両台は断面逆台形。見込みに重ね焼痕あ る。	胎土)灰色 胎オーリーフ色	密	良好	朝鮮製
554	105	B1 グリット	2層	陶器	折線小皿 口径)	9.8		胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	越戸・美濃 内外胎輪。
555	105	B1 グリット	4層	陶器	唐耳		体部逆「八」字状に開く。腹は5条以上 で1単位。	内に(赤)墨書き 内に(赤)墨書き	密	良好	
556	105	C2 グリット	4層	陶器	把手			胎オーリーフ 灰色	密	良好	中国製高級陶器

第16表 中小路遺跡C区遺構外出土遺物観察表

遺物 番号	出所 番号	出土 地點	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
568	106			表土	磁器		逆「八」字に開く體へ口縁形。口端部は 裏気錠。内外胎輪。	胎土)灰白色 胎オーリーフ色	密	良好	龍泉窯系	

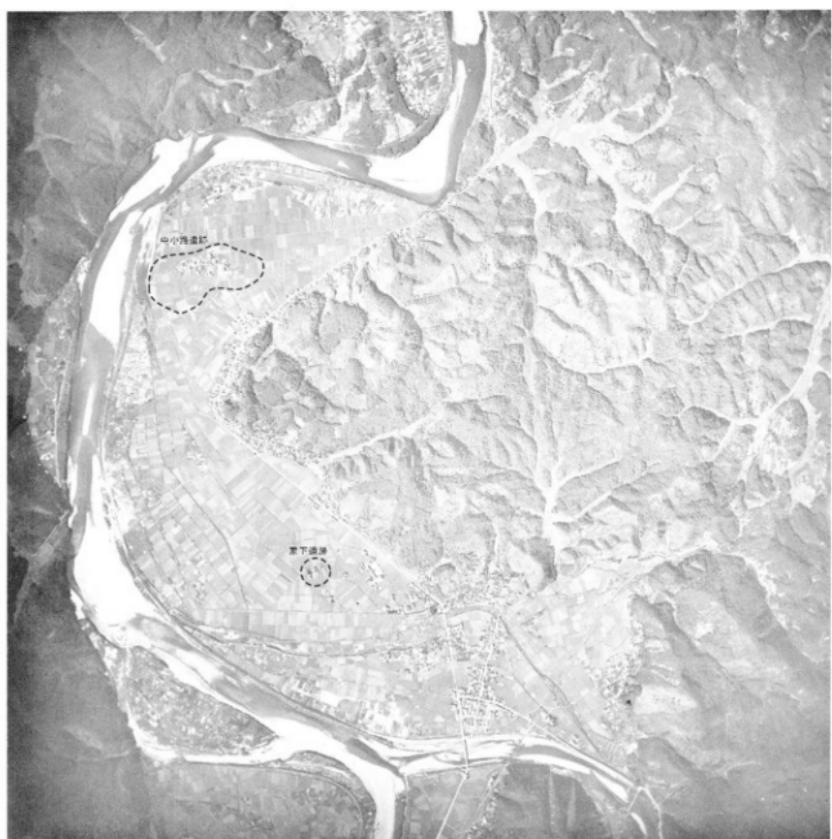
第17表 中小路遺跡H区遺構外出土遺物観察表

遺物 番号	出所 番号	出土 地點	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考		
557	106			疾患層	灰壺	口径)	16.0	狭長深く、天井部平坦で、体部は内窓 で下垂する。口縁部へ外反し、腰部横溝に 下垂しめる。	外)泥付ナデ 内)泥付ナデ、天井部ナゲ	灰白色	2mm以下 砂粒含む。	良好	内に(赤)墨書き 内に(赤)墨書き 灰色(胎土基)	
559	106			疾患層	高台付押	高台径)	1.0	单面深く、内窓で下垂する。胎内壁部外 反と外反で、蓋付に成形の跡、逆へら書き。	外)泥付ナデ、底部へ高台(後ナゲ) 内)泥付ナデ、底部ナゲ	灰白色 淡灰色	強烈含む。	良好		
560	106		2層	疾患層	高台付押	高台径)	4.0	高台は低く、断面逆台形。蓋付に満い溝 あり、底、体部の縁は明瞭。	外)泥付ナデ、底部ナゲ 内)泥付ナデ、底部ナゲ	淡灰色 灰白色	1mm以下の 砂粒含む。	良好	外側被灰(自 然灰)	
561	106		1層	疾患層	高台付押	口径)	1.0	高台は低く、断面逆台形。蓋付に溝あり、 底の縁は不規則で、体部は逆「八」字状に開く。 口縁部は次第に變形ある。底部へら切り削 み。	外)泥付ナデ、底部へら切り削 みナデ	灰白色 内)淡灰色	1mm以下の 砂粒含む。	良好		
562	106			表土	疾患層	高杯?	口径)	15.0	體全体と体部との境は不明瞭。体部へ口 縁部直線的に外傾する。口縁部内側に肥 厚する。	外)泥付へ体部凹ナデ、体部 へ底部凹ナデ(後ナゲ)後ナゲ 内)泥付へ底部凹ナデ、底部ナゲ	外)灰白色 内)暗緑色	砂粒含む。	不良	生焼けか?
563	106		2層	疾患層	高杯(脚部)			外)泥付凹ナデ、底へ下へ膨 張せず方角に、底部凹ナデ(後ナゲ)後ナ ゲ、底部ナゲ、消費状況無 内)脚部凹ナデ、ナゲ	外)淡風灰 内)淡灰色	2mm以下 砂粒含む。	やや不良	軟質		
564	106			表土	疾患層	高杯(脚部)	底径)	7.0	體全体へ「八」字状に開く。口縁部へ外 反する。底部は漸次状に進むたるおろみ。	外)ナゲ 内)ナゲ	内)黒灰色 胎土)淡緑色	2mm以下 砂粒含む。	良好	
565	106			表土	疾患層		やや長いの頭部。口縁部に墨あり(断面 方形状)、底へへら書き。	外)泥付ナデ 内)泥付ナデ、しぶり目あり	暗青灰色	2mm以下 砂粒含む。	良好			
566	106			表土	疾患層	壺	口縁部は鋭敏に横して立ち上がる。口 縁部へ底張を行く。口縁部内面に凹 溝部。	外)泥付ナデ 内)泥付ナデ	淡灰色	1mm以下の 砂粒含む。	良好			
567	106			表土	土師器	壺	口縁部から口縁部へかけて大きくな る。底は漸次的に下傾する。	外)底部へ下傾ナギ? 壁化の為不 規則	褐色	3mm以下の 砂粒含む。	良好			

第18表 中小路遺跡I区遺構外出土遺物観察表

遺物 番号	出所 番号	出土 地點	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考	
558	106			表土	須恵器	高台付押 高台径)		貼り付け高台。高台は墨で逆台形で斜めの小鉢痕を 作り、内側で接する。底部は明瞭で、底内に 貼り付けようやく内側に付く。底部へら切り。	外)泥付ナデ、底へへら切り「ダ 」字 内)泥付ナデ、底部ナゲ	淡灰色 内)淡白色	強烈含む。	良好	

手 章 図 版



昭和22年米極東空軍撮影空中写真(国土地理院所管)



家下遺跡
A区調査区全景



家下遺跡
A区土層堆積状況①



家下遺跡
A区土層堆積状況②

家下遺跡
B区調査区全景



家下遺跡
B区土坑半截

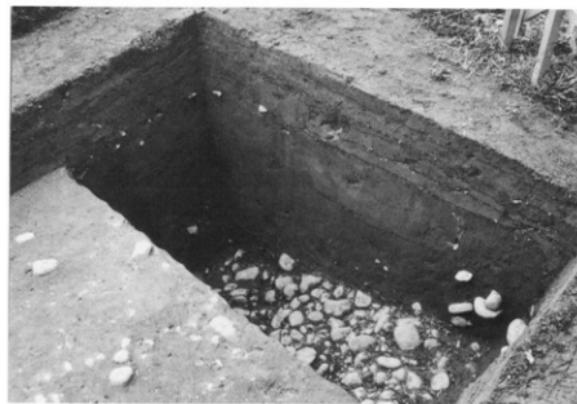


家下遺跡
C 1区調査区全景





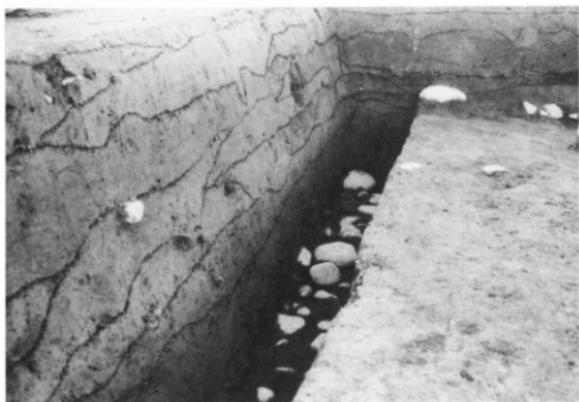
家下遺跡
C2区調査区全景



家下遺跡
C2区土層堆積状況



家下遺跡
C3区調査区全景



家下遺跡
C3区土層堆積状況



家下遺跡
D区調査区全景



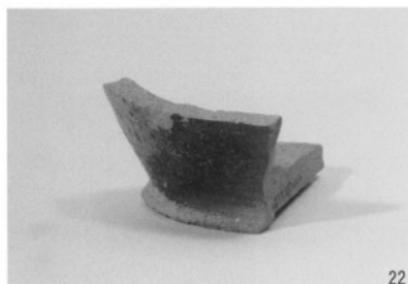
家下遺跡
D区土層堆積状況



家下遺跡
D区土器棺1検出



家下遺跡
D区土器棺2検出



家下遺跡出土遺物 ①



61



62



67



71



84



88



90



91



92



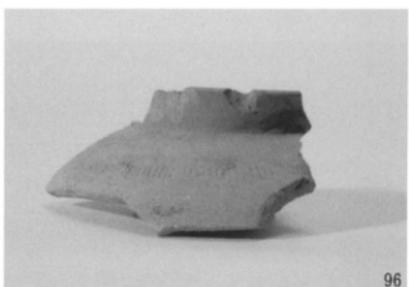
93



94



95



96



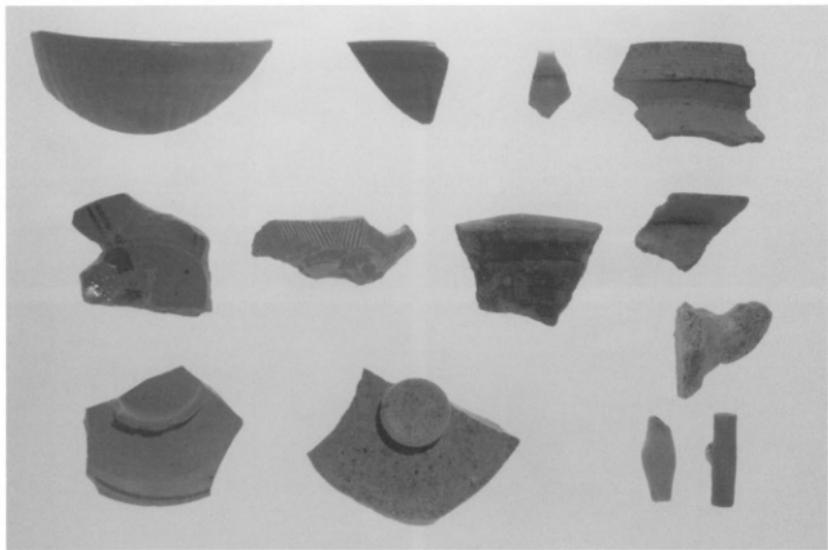
105



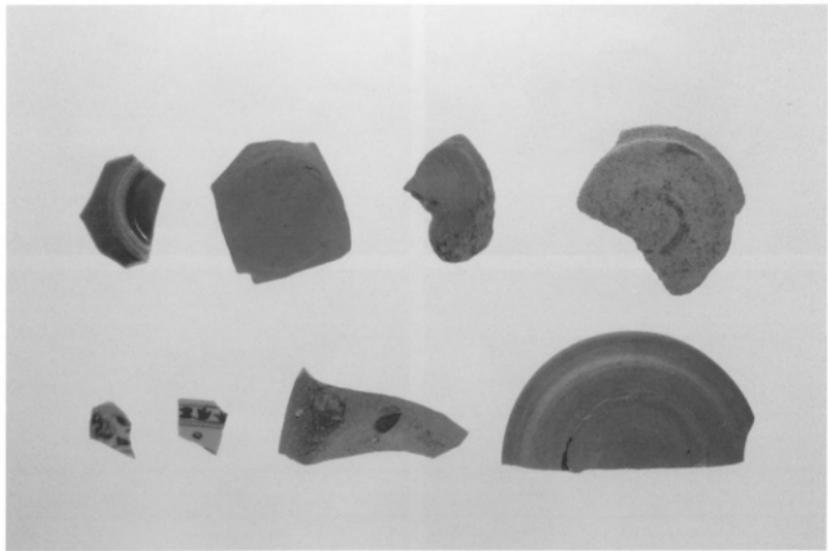
107



112



家下遺跡A区出土遺物



家下遺跡B区出土遺物